

・景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)	良くなる	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・例年観光最盛期を迎える時期だが、特に今年は前年末の当地域を舞台とした映画公開にともなう集客が期待できる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・このまま株価が回復し、上昇していくと、景況感が良くなり、個人消費に良い影響が出てくる。
		商店街（代表者）	・夏物バーゲンのスタート時期がばらばらという面もあるが、今後、かなりの猛暑が続くことになれば、夏物の在庫を持っている店舗では8月まで売上を取ることができる。
		商店街（代表者）	・2～3か月後においては、4千人が参加予定の全日本ママチャリ8時間耐久レースや4万人が参加予定の北海道パルーンフェスティバルなど、大きな大会が予定されているため、交通、土産、宿泊、飲食等での売上増加が高い確率で期待できる。
		商店街（代表者）	・4～5月は前年よりも売上を落としているが、新政権の経済対策の効果で市場の期待感が高まっているため、今後、来客数は増えることになる。
		商店街（代表者）	・北海道内の商店街の現場最前線を担う若者に道内各地の景気動向を聞く機会があり、ぼんやりだが明るい兆しを感じているコメントがほとんどだった。今までは悪いとしか言わなかったため、これは大きな進展である。ただ、まだ景気回復を実感しておらず、これからの期待感が込められていた。また、円安の悪影響についても尋ねたが、菓子店など、容器類を使うところでは、資材高騰で困っていた。小麦を使う業種については、地場産を積極的に使用しているところは、相場に大きな変動がなく、安どしていた。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・2～3か月後の景気は今よりも良くなるムードがある。前月も言ったように、給料や売上の増加への期待感よりも諸経費の負担増がこたえているが、新政権の経済対策に対する期待感是非常に強いものがある。
		百貨店（売場主任）	・宝飾品のほか、衣料品についても売上が回復傾向にある。外国人観光客の来店も大きく伸びており、購入額も前年比140%前後となった。シェアの大きな婦人アパレルの回復が大きく、フルカテゴリーで伸びが感じられる。
		百貨店（販売促進担当）	・海外特選ブランドや国内高級ブティックの売上増加は落ちついてきたが、客単価アップの流れは、確実にボリュームラインまで広がってきており、今後もこの傾向は続く。
		百貨店（販売促進担当）	・長期予報では前年並みの夏が予想されている。20度を超える天候が安定して数日続けば、衣料品を中心に購買意欲が高まることになる。
		スーパー（店長）	・株や為替は今後も乱高下するとみられるが、来年の消費税増税まで消費マインドは上がるとみており、現にその傾向が続いている。
		スーパー（役員）	・過去数か月は、近年にないほど、来客数の悪い状況であったが、徐々に回復傾向となっている。しかし、ローカル地域では、客の所得が上昇しているわけではないことに加えて、消費税増税も控えているため、今後も来客数が増加するような材料がない。
		衣料品専門店（店員）	・新政権の経済対策の影響が出始めており、株に投資する客もみられ、商店街を歩く客、展示会で来店する客も購買意欲が向上している。
		家電量販店（地区統括部長）	・長期予報では、今夏は暑くなると予想されており、エアコンや扇風機等の夏物家電の需要が期待されることから、全体的には微増となる。
住関連専門店（経営者）	・当社で管理しているビルの賃貸部分の空きが2件決まった。周りのビルの空きも埋まってきているようだ。		
高級レストラン（経営者）	・これから観光シーズンに突入するため、良くなると期待している。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		観光型ホテル（スタッフ）	・製菓会社による講演会、イベントが予定されているため、予約が好調である。7月には近隣アジアからのチャーター便運航も予定されている。ただし、週末特化の傾向が強く、平日は苦戦傾向にある。
		旅行代理店（従業員）	・天候が回復することで、農作業の遅れも回復してくる。また、夏場の外国人観光客について、円安による回復が期待でき、活気が出てくる。
		タクシー運転手	・6月はYOSAKOIソーラン祭り、札幌祭りなどのイベントがあるため、タクシーの利用が少し良くなると期待している。
		タクシー運転手	・これから競馬開催や夏休みなどで観光客の入込が期待できるため、やや良くなる。
		観光名所（従業員）	・外国人観光客、特に台湾からの観光客は前年度末から増加し続けており、この傾向は当分続く。また、これまであまりみられなかったタイやインドネシア、マレーシアなどからも外国人団体客の予約が入ってきており、上向きを期待できる要素もある。
		住宅販売会社（経営者）	・為替がこれから安定して株価の乱高下が収まることで、景気もやや上向きになると期待している。
		商店街（代表者）	・今の商店街の実態では、例えば景気が良くなったとしても、それを吸収する力がない。購買動向がはっきりと変化しており、定着化してきている。
		商店街（代表者）	・参議院議員選挙の結果次第と感じている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・売れ筋商品を見ると、従来と同じものが動いており、特に単価の高い商品に少しずつシフトしている傾向はまだみられない。ここ2～3か月は今のような状況が続く。
		百貨店（売場主任）	・今後3か月の長期予報で、6～7月が前年と比べて暑くなると予想されている。夏物のジャケット、カットソー関連の動きが期待できるが、高額品についてはなかなか手が出ず、単品傾向になる可能性が高い。
		百貨店（売場主任）	・新政権の経済対策の効果は市内では全く感じられない。大都市は上向き傾向と聞くが、地方にまで効果が及ぶのはまだまだ先のことである。
		スーパー（店長）	・景気が上向きとは言っても、小売業にはまだまだその恩恵はない。買い控えや必要な物しか買わないという傾向が続いている。
		スーパー（企画担当）	・小売店舗の足元の販促状況は、価格訴求が前面に出ており、輸入価格の上昇が店頭価格に反映されているとはとても言えない。一方で、客の所得も増えているわけではなく、当面の景況感是不透明感が払しょくできない。
		スーパー（役員）	・夏のボーナスの増額など、景気の良い話題が多いが、店頭での買物動向に変化はみられない。円安により原料が値上がりする商品等もあり、買物動向が活発になるとは思えない。
		コンビニ（エリア担当）	・売上が増加しているカテゴリは新規取扱商品が中心であり、既存商品の減少に歯止めがかかっていない。夜間の売上減少が継続しており、同時に酒、たばこの減少も続いている。
		コンビニ（エリア担当）	・天候要因も大きいですが、ゴールデンウィークの売上、来客数の動向をみても、財布のひもが緩んでいる動きはみられない。
		コンビニ（エリア担当）	・良くなる要因があまりない。
		衣料品専門店（店長）	・以前は安い衣料品はある程度売れていたが、今はそれも売れないため、なかなか回復しそうにない。
		衣料品専門店（店長）	・株価や円相場への不安要素がある。
		家電量販店（経営者）	・家電製品への購買意欲はまだ低い。省エネ意識から、LED照明や冷蔵庫への関心は高まっているものの、いまだに勢いはみられない。LEDについても販売量は増加しているが、単価ダウンが続き、売上増加にはつなげていない。
家電量販店（店員）	・5月は低温だったため、6月以降の気温上昇に期待している。		
乗用車販売店（従業員）	・エコカー補助金の終了後と比べて、良くなってきているが、ここで急に伸びるとは考えにくいので、今のままの状態が続く。		
乗用車販売店（営業担当）	・消費税増税前の駆け込み需要に期待を持ちたいが、ほかに目新しい材料がないため、現状維持の状態が続く。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		自動車備品販売店（店長）	・これからの予測が付かない。燃料の値上がりもあり、車にお金をかけてもらえるかが不透明である。
		その他専門店〔造花〕（店長）	・一般の人にはまだまだ経済対策の恩恵が浸透していない。
		高級レストラン（スタッフ）	・円安の影響により、中国以外のアジア人観光客が順調であり、北海道観光としてみると見通しは明るい。しかし、飲食店の単価低下は依然として続きそうである。今後は輸入食品の値上げがじわじわとダメージとなり、高まってきた景気の好況感に水を差すことが懸念される。
		観光型ホテル（経営者）	・先行予約状況は今とさほど変わっていない。やはり日本人観光客が増加しなければ売上には大きく反映されない。
		旅行代理店（従業員）	・8月までの海外旅行に勢いが無い。一方、国内旅行についてもそれを補うほどの伸びがない。
		タクシー運転手	・現状をみた場合、今の動向についてそれほど大きな変化はないとみている。この先の需要が伸びてくるのかもまだ見通しが立たない状況であり、不安材料がまだ残っているような部分がある。
		タクシー運転手	・北海道観光の問い合わせはある程度みられるが、予約件数は前年と比較しても変化がない。
		観光名所（職員）	・一部の企業だけでなく、その他の企業や国民1人1人が実感できるレベルまで景気が回復することに対して、今の段階では懐疑的である。
		パチンコ店（役員）	・北海道電力の値上げ幅により大きく景気は変わってくる。電力使用量の多い工場では一部で閉鎖する声も聞こえてきている。
		美容室（経営者）	・前年と比較すると、客の動きもかなり活発化しているが、前年末から春にかけての盛り上がり感はなく、様子見の状況がみられる。
		住宅販売会社（従業員）	・現状としては、分譲マンションの単価も供給も安定的に推移しており、かなり良好な市場環境と言える。現状よりも良くなるには、需要側の動向が鍵となる。具体的には、潜在購入者の所得が向上しなければならないが、それは簡単なことではない。また、長期金利の動向も気になる。
		やや悪くなる	スーパー（店長）
		旅行代理店（従業員）	・円安や参議院議員選挙、北朝鮮問題による韓国渡航者の減少、中国や台湾での鳥インフルエンザ、従軍慰安婦問題など、旅行業にとって良い要素が少ない。
	悪くなる	○	○
企業 動向 関連 (北海道)	良くなる	—	—
	やや良くなる	金属製品製造業（役員）	・見積に関して微増ではあるが増えているため、やや良くなる。
		建設業（経営者）	・公共工事の発注が進み、量的にかなりの増加が見込まれる。民間建築、戸建て住宅についても消費税増税を控えて引き合いが増える。ただ、例年、秋口からみられる人手不足、機械不足が、現在すでに顕在化していることに加えて、資材単価も上昇していることから、採算性及び工程面では厳しい状況になる。
		輸送業（営業担当）	・道内は天候不順だが、本州地区はすでに気温が高くなっており、暑い夏になりそうのため、夏場の飲料品、生乳の輸送量の増加に期待している。
		輸送業（支店長）	・道内景気の先行きに対して、主に建築・土木分野の受注が第2四半期以降となっており、夏場にピークがあるとは思えない。また、円安により国外からの資材が入りづらくなること、原材料価格の高騰によりメーカーである程度の値戻しが生じることなどで、量的回復を期待している。
		通信業（営業担当）	・これまでは金融面主導で進んできた景況感の回復傾向だったが、ここに来て受注量の増加や単価の上昇など、業績面においても着実に好影響を及ぼし始めているため、しばらくは景気回復が続く。
		金融業（企画担当）	・建設関連は夏場の最盛期を迎える。公共工事は例年より活発となり、住宅投資も消費税増税前の駆け込み着工が顕著となる。観光関連はLCC就航や円安により外国人観光客が増加する。
		司法書士	・今後次第に景気が回復傾向に向かうと推測されるため、土地取引や建物建築の着工が上向きになる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・人手不足にともなう受注条件の改善がみられることにな る。ただ、国内への発注価格が高くなれば、大手企業はすぐ に海外への発注を増やすことを検討するため、継続的に条件 が改善されることにはならない。
		その他非製造業〔鋼材 卸売〕（役員）	・鉄骨加工業者に関しては、遅れがちだった建築設計変更が ほぼ終了したことに加えて、建築確認申請も多数許可される ことで、今後は本州方面の案件や道内案件も含めて一気に仕 事が出回ることが期待される。
		食料品製造業（役員）	・販売量についてはやや悪い状況で推移しており、この先も しばらく変化がなさそうである。
		家具製造業（経営者）	・円安の影響を受けて、原材料費が上がり始めた。家具製造 業においても景況回復の重しになる。
		司法書士	・政府は3本の矢政策を進めているが、多くの人にとっては 給与やボーナスの増額を手にするよりも、円安による物価上 昇の影響を受けることの方が早いため、消費は増えない。
		コピーサービス業（従 業員）	・価格は上がってきているものの、販売量は横ばい傾向であ る。
		その他サービス業〔建 設機械リース〕（営業 担当）	・建設業界での工事人件費などは上がり基調にあるが、受注 金額そのものが上がっていないため、レンタル料などにしわ 寄せがくることが懸念される。
	その他サービス業〔建 設機械リース〕（支店 長）	・外的環境から今より悪化することはないと思うが、2～3 か月というスパンでは現状と大差なく推移する。	
	やや悪くなる	建設業（従業員）	・北海道では民間建設投資が底を突いており、建築鉄骨加工 業も秋口以降の道内での仕事の引き合いがほとんどない。
		司法書士	・住宅ローン金利上昇の動きがあり、住宅建築がさらに減少 する。
悪くなる	—	—	
雇用 関連 (北海道)	良くなる	—	—
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・新政権の経済対策の効果とみられるが、先行きに期待感が 出てきたことで経営者マインドが和らいだのか、求人が増え る傾向にある。医療関連は引き続き求人は増加しているが、 一般企業、それもサービス業の営業、販売の求人が増えてき ている。北海道においては久しぶりの状況であり、回復に向 かう兆しが感じられる。
		求人情報誌製作会社 （編集者）	・T P Pの行方を見通せない面があるものの、建設やインフ ラ整備予算の配分が増えている。また、地場産業の農業も今 のところ安定している。
		求人情報誌製作会社 （編集者）	・新政権の経済対策の効果でマインドは上がっているが、実 態はまだともなっていない。しばらくはこの好調さは保たれ るが、景気が好調と実感するまで、かなりの時間がかかるこ とになる。
		職業安定所（職員）	・大規模な経済対策の効果で全体的に景気は上昇していくと みられるが、円安により業種間の格差が大きくなる。
		学校〔大学〕（就職担 当）	・採用状況の動きが若干良くなっている。また、各企業の6 月のボーナス支給額も例年並み又は若干上向き傾向にある。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・景気が良くなるような要因がない。
		求人情報誌製作会社 （編集者）	・5月に入ってからの求人数の減少が、これまでの急激な求 人増の反動であれば、景気悪化の影響とは言えないが、現状 ではどちらとも判断できない。
		求人情報誌製作会社 （編集者）	・現状が悪いとは思わないが、これ以上に景気が良くなるか という不透明である。建設業やサービス業を中心に、求人 数は堅調に推移しているため、極端な景気減速要因になるよ うな何かがない限り、現状を維持していく。
		新聞社〔求人広告〕 （担当者）	・地域にはT P Pに対する不安、懸念が強くなるが、3か月 程度先の雇用状況に影響が出ることは考えにくいので、現状 の雇用環境が維持できる。
やや悪くなる	職業安定所（職員）	・景気回復への期待感が先行しているが、先行きは不透明で ある。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	—	—

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (東北)	良くなる	コンビニ（店長）	・客の購買意欲は上昇し、最盛期に向けて売上もかなり上がるとみている。今の段階でも前年比で上がっているの、夏場にも期待できる。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・景気をこのまま維持することができれば人もモノの動きも良い方向に向くと期待できる。消費者も景気の良さに対する警戒感が薄れ、多少なりとも消費に対して意欲的になるのではと期待している。
		高級レストラン（支配人）	・株価上昇などの景気回復ムードに加え、ボーナス期を迎える。消費税の税率アップを控え、国内での行楽、購買等に向かう要素がある。
		タクシー運転手	・先日、語り部タクシーの講習で震災の被災地を訪れたが、全然変わっていなかった。あそここれからいろいろな機材が入れば、少しはみんなのところ仕事がいくなるのではないかと。被災地は全然変わってなかったが、みんなが一斉にやらなければ、景気は良くならない。
やや良くなる		商店街（代表者）	・暖かくなるにしたがい、東北地方及び当地においても少しは景気の上向き感や、未来や将来に対する期待感が出てくる。飲食に関してはほぼ好調だが、物販関係、アパレル、衣料に関しては、紳士服や紳士用品の売上が少しずつ改善できており、全体の景気の上向きを押し上げている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・客の健康志向が高まっているので、夏場に向かってやや良くなる見込みである。また、周りの景気を見ても、来客数はまずまずであり、必要なものは買っただけの状況にあるようである。
		百貨店（総務担当）	・これからの本格的な夏のボーナス商戦で、実際の消費者の所得が上向きになってきた場合には、最終的に当社のような小売業に反映されてくる。今の景況感が実際に売上高につながってくる。
		百貨店（経営者）	・夏季賞与が前年より改善された企業が多いと聞いており、クリアランス、中元商戦に期待が持てる。家電商品が落ち着き、衣料品、身の回り品、雑貨などの売上が上昇してきている。
		百貨店（経営者）	・個別には悪い経済指標もあるが、全世界の経済は回復傾向にある。円高も是正されており、今後、全国的に景気回復が期待できる。一部企業では給与支給を増加させる動きも出てきたことから、地方経済もいずれは景気回復の恩恵を受けることを期待している。
		コンビニ（経営者）	・主力の米飯が前年割れのなか、売上では100%を維持している。この要因はデザート、雑貨の伸びである。どうしても必要なものだけ買うという意識から、少し緩くなって、デザートを買ったり、従来はコンビニより安いドラッグストアやスーパーなどで買っていた雑貨類をコンビニで買うようになっているのではないかとみられる。景気に明るい材料を見いだしている表れではないか。
		コンビニ（エリア担当）	・震災特需の影響が薄れてきたタイミングなので、今年は来客数が前年比で伸長する可能性がある。
		コンビニ（エリア担当）	・株価の上昇などにより、客の消費意識が上がっている。
		衣料品専門店（経営者）	・気温も上がり、夏物が売れてくる。
		衣料品専門店（店長）	・今年の夏は暦通り暑くなるという予報が出ていることと、景気上向きというニュース報道があることが、消費者の景気の見通しを明るくし、消費行動につながっていく。
		家電量販店（店長）	・上昇の度合いはアベノミクス効果が夏の賞与にどこまで好景気となるプラス要素を与えるかにより変わってくるが、消費マインドの上昇が見込まれる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（店長）	・今まで落ち込んでいたテレビの販売量が徐々に元に戻るのではないかと期待している。特に新製品の4Kテレビが販売されて、需要が再度喚起されるのではないかと。その他、冷蔵庫や洗濯機、エアコンなど通常の買い回り商品、白物家電等の交換需要は引き続き堅いものがあると考えている。春あたりから単価は上がっているため、景気が少しずつ上向きになっているという感触もある。
		乗用車販売店（経営者）	・新型軽自動車の発売効果が期待できる。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車の投入もあり、今まで購入を渋っていた客が購入を決断するようになってきている。
		乗用車販売店（店長）	・3月の決算や4月の新卒者効果などの反動があり、今月は落ち込み傾向にあるが、今後補助金も始まり、ディーゼル車の販売台数が伸びている当社としては期待が持てる。
		その他専門店〔靴〕（従業員）	・夏場に向けて、サンダル品の品ぞろえを強化していく。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・アベノミクス効果が中央だけでなく、地方にまで恩恵をもたらすが、ややバブル的な面は否めない。今後の経済政策と財政再建策次第である。
		高級レストラン（経営者）	・相対的に景気は上がり基調なので、何となく先は明るいのではないかと期待している。
		一般レストラン（経営者）	・今年に入ってから、売上は前年比で良くなってきている。少しずつではあるが、アベノミクスの影響もあり、景気が良くなってきているようである。これが本物かどうかはまだ何ともいえないが、良くなりつつある。
		都市型ホテル（スタッフ）	・寒気に悩まされたとはいえ、全体的には間もなく田植えも終わりそうであるし、農作物も植えこみが終わっているようである。これから、農業の人やボーナスが出た人々が買物に出てきて、若干持ち直してくると考えている。
		旅行代理店（店長）	・当地においては、今後さらなる復興需要が見込まれるため、消費マインドは微増していくものと予想される。
		旅行代理店（従業員）	・アベノミクス効果、消費税増税前の駆け込み需要等が期待される。特に、耐久消費財に対する購買意欲が積極的になるものと予測される。
		通信会社（営業担当）	・株価が乱高下する状況のなかで、雰囲気は良いが、先行きがどうなるか、特に消費財の値段が上がっているということが不安につながっていくのではないかとみられる。サラリーマンの給料もすぐ上がるわけではないので、業績回復が期待できるのは1、2年後くらいになるのではないかと。
		通信会社（営業担当）	・アベノミクス効果が出てきている。
		通信会社（営業担当）	・ここ数か月、既存の商品で売上が低下しなかったことから予想すると、来月からの新商品の導入や既存の販売メニューの見直し、そして値下げや商品の品質向上によって売上増加が期待できる。
		観光名所（職員）	・前年の当日の予約状況と比べても、今年の予約は増えている。また、客単価も伸びているので、このまま来客数が増えれば売上も自然と伸びていく。来た客に関しても財布のひもが緩いという感覚はある。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・東北では、電気料金の値上げ時期の延期が好材料である。夏期の需要期以降に値上げになってほしい。夏の消費行動にも影響が大きい。
		住宅販売会社（経営者）	・消費税が上がる新年度前の完成条件物件も多く、年内は受注量も多い。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・消費税増税前の大型の工事受注を見込んでおり、宣伝も強めている。
	変わらない	商店街（代表者）	・電力関係の料金の値上げその他が解決しないと、景気の回復もなかなか先へ進まず、落ち込んでいく。
		商店街（代表者）	・お中元や旅行といった、いわゆるムードに流される消費はともかくとして、20年近い節約消費生活をしてきているので、これが簡単に変わるはずはない。商業でいえば日の当たる大型店、相変わらず競争のなかで沈んでいく小型店という図式は変わらない。値上がりする光熱費、人件費を吸収できるほどの売上増は難しいと判断している。
		商店街（代表者）	・徐々に梅雨の影響を受ける時期になり、人出の伸びは期待できないなか、ファストフード店、飲食店は苦戦が危惧される。物販関係も好不況入り乱れ、あまり変化が無いとみられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・地方には株価の上昇も関係ない。
		商店街（代表者）	・年初はアベノミクス期待を込め、商店街全体が期待する明るい話題が多かったが、給料にまだ反映されていないことから、最近は見立った消費増が見られない。
		一般小売店〔書籍〕（経営者）	・アベノミクス効果がいわれているが、地方の消費にはあまり影響がみられない。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・売上は伸びもしないがそんなに落ちもせず、低い水準で変わらないとみられる。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・客の多くが生活防衛に走っているなか、実際に諸物価が上昇に転じれば、ますます不要不急の消費は抑えられてしまうのではないかと。しかし、物価が上昇に転じたとなれば、金利も上昇するとみられ、金利の上昇は財政にも重大な影響があるため、このままバブル経済に進むことは考え難い。今後適切な引き締めがなされると考える。
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	・いまだに客の動向がつかめない。何ともいえない状況が続くとみられる。
		百貨店（売場主任）	・地方では今の報道にあるような動きはない。落ち着いて今後の情勢を見守っている。慎重な物選びは続く。
		百貨店（企画担当）	・夏のボーナス支給時期にあわせ、引き続き高額商品を中心に堅調に推移すると予測するが、中元商戦時期の国政、市政の動きによる一時的な停滞も懸念される。まだまだ一部の動きが良いだけで、消費全体が良くなっているという実感はない。
		百貨店（営業担当）	・株価が乱高下するなど不安定な要素はあるが、おおむね今の動きは変わらない。ただし、中元商戦については、参議院選挙の影響が多少あるとみられるため、前年の数字を維持することができるかは不明である。
		百貨店（経営者）	・6月は気温も上がってくるが、アパレルはプレクリアランスがスタートするため、利益面では厳しい結果となりそうである。
		百貨店（売場担当）	・百貨店は気温に左右されるため、梅雨や夏の気温が売上に影響を及ぼすが、基本的には景気状況は大きく変わらない。消費税増税前の駆け込みが多少影響するかもしれないが、そう変わらないとみている。
		スーパー（経営者）	・夏のボーナスで景気回復の実感があればプラスになるが、それまでは日常の消費回復は期待できない。
		スーパー（経営者）	・6月は一部団体、企業で夏期賞与の支給がある。また、中心的な支給月の7月からは上場企業で賞与が前年をやや上回るとの話も聞かれるので、消費増への期待はある。しかし、同時に食品の値上げや公共料金の支出増もあり、経営環境では競合関係も厳しさを増し、消費改善は依然として見えてこない。製造業や輸出企業などの国内への投資は薄いようにも見える。しばらくはこのままではないか。
		スーパー（店長）	・中央では景気回復傾向にあるということだが、地方ではそういった実感は全くない。オーバーストアのなか、まだまだ出店予定の競合店があり、1点単価、来客数の回復は望めない現状である。
		スーパー（店長）	・油、粉類、パン類等の値上げも控えている。また、円安による輸入品の原価高騰で、店舗における販促売価が打ち出せない状況になり、より競合店間での価格ディスカウント、消耗戦が続く見込みである。食品小売業界はいったって厳しい状況にある。
		スーパー（店長）	・周りに競合店の出店予定もなく、現状の客数動向から考えると、現状と変わらない。
		スーパー（店長）	・円安の部分での輸入関連、特に食料品等の値上げが非常に危惧される状況である。ボーナス等の一次回答では、円満回答が出ているが、自動車関連を含めて景気の良いところ、中小を含めて景気の悪いところが浮き彫りになってくる。
		スーパー（物流担当）	・今月に入り、輸入原材料を使用した商品の値上げがメーカーより出されており、加工食品中心に売行きが鈍ることが予想される。客の無駄買いはしないという節約感が今以上に働き、景気は今と変わらないと予想される。
		コンビニ（経営者）	・4、5月と悪い状況が続いている。そういった面ではこれから先も、良くて横ばいになるのではないかと。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数、客単価共に上向く要素が現在のところ見当たらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当）	・前期末に大きく競争環境が悪化しており、一巡するまではこの状況は続くと予測している。
		コンビニ（エリア担当）	・天候や気温の変化により、来客数は増えていくとみられるが、出かける回数は増えても、大きな金額を使わず、消費が大きく跳ね上がることはないと予想している。
		コンビニ（店長）	・来客数が減少しているため、売上は増えていない。よって、客単価を維持して現状維持に努めたい。
		衣料品専門店（経営者）	・中元商戦に向けての商品開発や販売価格の設定に苦慮している。
		衣料品専門店（経営者）	・業種的に1年を通して春、秋がピークで夏、冬へは下り坂であることを考えれば2、3か月後は期待できない。
		衣料品専門店（店長）	・スーツがクールビズ等で段々売れなくなってきている。また、前年、前々年と膨れたマーケットであるので、主力のスーツがなかなか売れないという状況がトレンドとして続くであろう。客の様子から、あるいは流れからそのようにみている。したがって、厳しい状況が続くと予測している。
		衣料品専門店（店長）	・当県の景況感に変化は無い。復興需要も落ち着き、買い控えも多い。
		衣料品専門店（総務担当）	・販売価格及び販売点数にはまだかい離があるため、購買行動にはまだまだ厳しい部分が見受けられる。
		家電量販店（店長）	・現状においても、世間で言われているような給与改善などがなされていない。
		乗用車販売店（経営者）	・前年はエコカー補助金の恩恵を強く受けた時期であり、今年はその反動を受け、約15%前後の前年割れが当分続くものと考えている。
		乗用車販売店（経営者）	・市場の動きそのものが大きく変化していないため、このまま継続する。
		乗用車販売店（従業員）	・1年前も今も全く変わっていないので、今後3か月といった短いスパンで来客数が急に増えたりするとは考えにくい。
		乗用車販売店（店長）	・アベノミクス効果も地方都市には恩恵が薄く、中小企業においてはむしろ不況感が漂っている。企業状況が個人ユーザーにも波及しており、財布のひもも固い。
		自動車備品販売店（経営者）	・建設業関係においてはいくらか仕事が出てきているようではあるが、それだけではまだ弱いだろう。弱電系も臨時賞与が出たと聞くがほんの一握りに過ぎない。
		住関連専門店（経営者）	・期待はしているものの、アベノミクスの効果が地方に表れるのはいったいいつになるのかわからない。
		住関連専門店（経営者）	・我々の扱っている耐久消費財への購買意欲が変化するような外的要因は今のところ無いので、現状のままで推移するとみている。
		住関連専門店（経営者）	・今月は小間物がよく出ており、その傾向は2、3か月先も変わらないとみられる。耐久消費財は金額がはるので、景気が少し回復したといっても販売量には結び付かない。今後も小間物で勝負していくしかない。
		その他専門店〔パソコン〕（経営者）	・これから数か月は消費税の影響もあって、動きや売上に上向きの影響があるとみている。しかし、一時的なことであり、市場の一般ユーザーの財布は潤っていないのが現状であることから期待は薄く、今後も地方において景気が上向くことは期待できない。
		その他専門店〔酒〕（営業担当）	・状況としては、一進一退が続くとみられる。商売としては質的な転換を進めて、利益を確保しなくてはならない。売上は何とか維持できる可能性はあるが、燃料や電気、資材等、原価が上がってくるため、しばらくは厳しい状況が続く。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	・景気に対する期待感はいたるところでうかがえるが、我々が実感できる日が来るとは考えられないような状態である。円安による輸入品の値上げが予想されているなか、消費の力がそれを上回るとは考えにくい。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・基本的に景気の回復が石油業界に及ぼす影響は、一般の業種に比較すると若干遅れて出てくる傾向があり、今回も影響は夏以降に出てくると予想される。それまでは今の状況で推移しそうである。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・外部環境、内部環境のいずれにも大きな変化が予見されない。
		一般レストラン（経営者）	・アベノミクス効果が出て、給料が上がってくると変わるのだろうが、半年後はともかく3か月後は変わっていない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者）	・知り合いのサラリーマンの話を聞くと、実際に給料が上がっているわけではないので、急に出費を増やすようなことは当面はないだろうという意見も多い。しばらくは、出し渋りの状態が続くのではないかと予想している。
		スナック（経営者）	・歓送迎会も終わり、特に団体の動く要素がなくなってくる。当地においては景気が良くなるような空気も流れておらず、明るい兆しも今のところあまりない。
		観光型ホテル（経営者）	・震災後3年目に入るが、客足は激減しており、どの月も前年比マイナスである。また、夏場のため温泉地は難しい。
		観光型ホテル（スタッフ）	・アベノミクスの報道の割には、やはり来客数の業種間、あるいは年齢別での格差が大きく、まだまだ満遍なく来客している状況ではなく、偏った予約状況が続いている。単価を下げなければ、来客につながらないという、デフレ状況からまだ脱していないということである。
		観光型旅館（経営者）	・当温泉地は県沿岸部や農家の客が半分を占めていたが、先の震災の影響で経済的に大きな打撃を受けており、県内の一般客が宿泊するという流れにはまだなっていない。さらに、今年になってから、将来の生活に対する不安が実感として出てきているようで、温泉で一泊という雰囲気ではない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・アベノミクスの影響ではないが、消費者のマインドは格段に回復している。しかし、実態の部分でいうと、まだまだ実感はない。今後、確実な政策実行により、実感できるようになることを願っている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・復興イベントも終わりが見えてきたように見受けられる。
		タクシー運転手	・客の乗り控えが目立ってきている。
		タクシー運転手	・相変わらず、仕事を求めているも無いという方が客のなかにいる。長期の職業を希望している人が大半だが、派遣の短期だけで、継続した仕事は無い。長期の仕事が無いと不安定で落ち着かない。これでは景気は良くならない。
		通信会社（営業担当）	・具体的な好材料が見当たらない。
		通信会社（営業担当）	・景気不安定も否めない状況であり、消費があまり伸びていない。収入が伸びる見込みが確定するまでは消費面でも様子見が多い。
		通信会社（営業担当）	・顧客訪問の際、景気の話となるが、大体は変わらないとの話であり、今後もうすぐ変わることはないと思われる。
		テーマパーク（職員）	・最近の株価の下落ぶりや金利の上昇の影響で将来不安が生じる。さらに、ボーナス期に消費税増税への懸念により買い控えが発生する可能性がある。実際、アベノミクスの効果がまだ一般的には波及しておらず、効果を実感できていない。
		観光名所（職員）	・世間でいわれているような、景気上昇感のうかがえない。当面現状が継続するとみている。
		遊園地（経営者）	・梅雨入りが早く、かつ長引きそうなので心配な面はあるが、学校、団体を中心に訪れる見通しである。あとは昇給、賞与がどれくらい消費に繋がるかである。
		競艇場（職員）	・景気が上向いていると言われているが、今よりもっと景気が良くなると当業種にまでは影響は出てこない。
		美容室（経営者）	・単価的に同じような状況が続いており、この状況が大きく変わるような要因も見えてこない。現在の状況はしばらく続くと考えている。
		美容室（経営者）	・毎月毎月、来客数は少しずつ増えているが、一気に景気が上昇するものではない。
		設計事務所（経営者）	・先の読めない状況が続いているが、急に仕事量が増えたり減ったりはしない。
	やや悪くなる	一般小売店〔スポーツ用品〕（経営者）	・衣替えの季節になったが、夏物の伸びがない。かなり厳しい状況になる。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・これからの季節、7月には参議院議員選挙、8月には市長選と続いている。繁華街は選挙があると非常に不景気になるので悪くなる。
		百貨店（買付担当）	・株価の高騰、円安等の一部の部分では効果が出ているものの、相対的に言うと、消費税増税を控え、消費は冷え込む。
		スーパー（店長）	・円安の影響で6月以降食料品の仕入原価の値上げが決まっており、販売価格に転嫁せざるを得なくなる。一方、世の中の景気が良くなっていると言われてはいるが、個人の暮らし向きや収入は増えておらず、期待感とは裏腹の結果になっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		スーパー（総務担当）	・節約志向により、花、ベーカリーなどの売上が減少している。小麦等の値上げによる販売価格値上げにより、日製品の売上が減少している。	
		コンビニ（経営者）	・気温が低く、夏商材の売行きが良くない。輸入原材料の高騰による売価の値上げが心配である。	
		コンビニ（店長）	・震災の義援金等の貯金を使い果たしたようで、消費マインドは下がってきたという印象がある。客の消費動向は、アベノミクスで景気が良くなっているという報道とは大分かけ離れ、逆に反比例しているかのようである。具体的には、低価格商品を必死に探して、最高の満足度を最小限の出費で得ようという心理が見え隠れしている。	
		衣料品専門店（経営者）	・来月から夏物のバーゲンに入る。客の多くはバーゲン待ちの意識が強く単価のダウンが予測されるが、来客数増は期待できない。よって、悪い状況が続く。	
		高級レストラン（支配人）	・ついに雇用の現場でもグローバル化が進み、アメリカ並みの競争世界がやってきた。個人の資質や才能がふるいにかかれ容赦ない淘汰が始まるだろう。	
		一般レストラン（経営者）	・その月によって浮き沈みがあり、景気の先行きは予想がつかないが、あまり期待はできない。	
		都市型ホテル（スタッフ）	・当地ではマスコミで騒がれているような、好景気の実感はなく、この先の予約状況にも変化は無い。むしろ原材料の高騰が支出面で気懸かりである。	
		旅行代理店（経営者）	・今後の見通しとして、復興需要が見込めなくなってくるのであれば、前年割れになるし伸びも鈍化していく。	
	悪くなる	スーパー（経営者）	・アベノミクスにおけるプラス要因はまだまだ出ていない。7～8月からは電気料金値上げが予定されているし、ガソリン価格も高止まっている。さらに、食品も今後値上げが始まっていく。	
		一般レストラン（経営者）	・このまま株価の安定がなければ、裕福層までもが守りに戻ってしまい、景気が良くなるような派手な購買欲がスポイルされそうである。円安を上手に使って世の中がうまくいくには、まだまだ期待値がゼロに近いので、当面は悪くなる一方である。	
		観光型旅館（スタッフ）	・先行して獲得すべき団体の予約がとれていない。この業界で働き始めて10年になるが、6月というオンシーズンで初めて予約無しの休館を経験する。根本的な戦略の見直しと管理の強化が必要であり、早急に改善に取り組む必要があると考えている。	
	企業動向関連 (東北)	良くなる	出版・印刷・同関連産業（経理担当）	・受注残は、ここところ2か月連続して、前年同時期と比較して約10%増加している。
			輸送用機械器具製造業（経営者）	・自動車業界は活気があり恩恵を受けているものの、製造業全体としては大手企業の設備投資はまだ慎重な姿勢であり、中小企業への波及効果はまだ先とみている。
		やや良くなる	繊維工業（経営者）	・良くなるような気配はあるので、このまま良くなることを期待している。
電気機械器具製造業（企画担当）			・現状の好影響がまだ持続すると考えられ、この後の年末商戦に向けた商品開発が活発化する。	
建設業（従業員）			・本年度の中央官庁からの発注見通しが出てきており、2、3か月以内に受注が確定する案件も確認できる。しかし、大型公共事業発注は、年度後半に受注が確定するものが多い見込みであり、2、3か月先の時点ではまだ受注結果が出そろうていないと推測される。	
輸送業（経営者）			・主要荷主の6月までの操業度は決まっているが、7月以降は操業度の増加が予想される状況になりつつある。	
通信業（営業担当）			・円安の進行による輸出関連企業の業績好転による地域経済の活性化に期待している。	
金融業（広報担当）			・株高円安傾向が続く。	
広告代理店（経営者）			・選挙があるので、期待は大きい。	
広告代理店（経営者）			・取引先の状況は、上向いているところが多い。	
司法書士			・消費税増税の駆け込み需要が増え、不動産取引が増えている。	
その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）			・現在、全体的に景気が上向いているということもあり、良くなるのではないかと予想する。	
変わらない			農林水産業（従業者）	・今年の春は例年より桃の開花が1週間位早かったもので、その分早目の収穫になり、お盆前の出荷が予定され、高単価で販売できると期待されている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		食料品製造業（経営者）	・牛タンの人気は続き、売上等もこのままの状態でも推移する と考えている。そして、7月になると中元がスタートする。 全国版のテレビ番組の土産物ランキングで牛タンは全国2位 だったこともあり、中元でも需要が高まることが期待され る。	
		食料品製造業（経営者）	・デスティネーションキャンペーンが終わった後も継続して 観光客が来てくれるかどうか少し心配である。円安で取業者 より値上げの要請が多くきており、原材料費の増加をどう やって吸収するか頭の痛いところである。	
		食料品製造業（総務担当）	・緩やかな景気の回復が見られるが、一般消費者の購買意欲 の向上には至っていない。	
		食料品製造業（総務担当）	・出荷量の推移及び原材料の需給状況は変わらない。	
		木材木製品製造業（経営者）	・住宅需要は引き続き堅調に推移する。	
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・元々売上が沈む時期である。また、特に売上が伸びるよう な要因も考えられない。	
		土石製品製造販売（従業員）	・しばらくは少し安定した状態が続き、今秋くらいからは消 費税増税前の新規マンション建設や新築工事で忙しくなるも のと見込んでいる。	
		一般機械器具製造業（経営者）	・自動車部品については、期初に計画した数値を当面の間は 上回るものと予想される。ただし、新興国経済が気になると ころである。	
		建設業（経営者）	・物価、資材価格がどこで落ち着くのか不安である。経営も しばらくは厳しい。	
		建設業（企画担当）	・社内の技術者不足や材料及び労賃の高騰から不調案件が多 く見られ、先行きの不安を払しょくできない状況にある。	
		輸送業（従業員）	・今後好転する判断材料が見当たらない。	
		通信業（営業担当）	・現在の上向き傾向は特殊要因によるもので継続性はなく、 予断を許さない状況である。しかしながら、まだしばらくは この傾向が続くと予測している。	
		通信業（営業担当）	・政治の決定が実生活に影響が及ぶまでは時間が掛かる。	
		金融業（営業担当）	・景気が上向きには、もう少し時間が掛かる見込みである。	
		経営コンサルタント	・足元の景気の上昇機運は当面続く。	
		公認会計士	・建設関係は、人手不足、資材高騰が影響してなかなか受注 が取れず、一休み状態である。少し時間が経過しないと解消 しない。	
		コピーサービス業（経営者）	・復興が土木から建築に移らないと、各業種は潤わない状況 になっている。景気が良くなっているという実感はない。	
		その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	・景気の好調さによる飲食需要の高まりに期待はあるもの の、このところ不調の中元贈答をカバーするだけの企画、対 策に乏しく、不安が残る。	
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・被災地及び県内各地を俯瞰したとき、おう盛とはいえずと も住宅需要がある程度見込まれている。しかし、販売価格へ の転嫁がなかなか難しく、コスト高の現状もあることから変 わらない。	
		その他企業〔工場施設管理〕（従業員）	・今後景気に変化が起こる要素は見当たらず、3か月後も変 化は無い。	
		金属工業協同組合（職員）	・やや半導体関連の受注量が出てきたが一過性である。医療 関連もこのところ在庫処理等々により低調である。	
		やや悪くなる	農林水産業（従業者）	・農業経営を大規模にせざるを得ない状況にあり、今後、投 資がかさむものと予想される。
				電気機械器具製造業（営業担当）
広告業協会（役員）	・7月の選挙に向けて業界が様子見ムードになってきている こともあり、回復は選挙後になりそうである。			
悪くなる	—			
雇用 関連 (東北)	良くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・徐々にではあるが、不安定だった求人広告の申込が安定し てきている。	
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・2、3か月先に通信会社の派遣事業部門を譲り受けること が決定している。そういった特殊要因により、売上等業績の 改善につながる見込みである。	
		人材派遣会社（社員）	・求人側が求職者側の希望に沿うように、給与条件を若干手 直しして再度掲載する動きが見られる。売手市場になったと はいえ、そこまでして採用を急ぐ理由がはっきりしている証 拠である。求人側、求職者側双方に勢いがある。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（社員）	・大卒の新卒採用を行っている企業が、内定辞退されたときに、採用をストップせずに追加募集をして、何とか数を確保しようとしている動きが見られるのが今年の特徴である。そこからは、先行きの好況感がうかがえる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・業績が上向いている企業が増えているので、今後、採用に向かうだろう。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・6月のボーナスはメーカー、中央で好回答が予想される。その波及効果と7月の参議院選挙結果で経済が活性化することに期待している。
		職業安定所（職員）	・新規求人数が前年同月比で増加し、新規求職者数が減少する傾向は、今後も続くものとみられる。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・政府の経済対策の地方波及効果がまだ見えず、現在のところは、現業でも好材料が無い。相変わらず求人求職のミスマッチは継続しており、特に求職者数、層には課題がある。
		職業安定所（職員）	・企業の先行きに対する不安感が強く、円安により多少受注が増えた状況であっても新規雇用を行おうとする動きが少ない。
		職業安定所（職員）	・自動車部品やスマートフォンの関連製造業で求人数が伸びているが、原材料価格の上昇など、負の要素も注視しなければならない。
		職業安定所（職員）	・月間有効求人数はここ1年、約9,000～10,000とほぼ同一で推移している。今後2～3か月先についても、増加や減少は考えられず、今のままの数字で推移していく。
		職業安定所（職員）	・円安による増収について、管内の輸出関係企業に聞いたところ、生産量そのものが増えているわけではなく、為替差益によるものであり、地方の中小企業に円安の恩恵は少ないとのことである。
		職業安定所（職員）	・求人数は若干の変動があるものの引き続き高水準が続き、有効求人倍率も高い水準が続くと見込まれている。職業別でみると、建設関連、食料品製造などでとりわけ人手不足感が強くなっている。今後もその状況は変わらない。
	民間職業紹介機関（職員）	・一部の求人に偏ったものになっており、全般的には変化の兆しがない。	
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・アベノミクスも一部が潤うだけで、多くの人がその効果をいつまでも感じられなければ消費を控える。
		アウトソーシング企業（社員）	・今のところ順調だが、復興関連の仕事は減少している。
職業安定所（職員）		・増加傾向が続いていた求人数も徐々に落ち着いてきており、今後大きく増加する要因は見当たらない。一方で、企業整備の話も数件聞かれることから、今後の状況を注視する必要がある。	
職業安定所（職員）		・今後、電気機械器具製造業、紙・文具卸販売業、労働者派遣業等において20名から100名規模の雇用調整が予定されている。また、7月以降の電気料金値上げや円安による原材料の値上げ等によるコスト圧迫を危惧する企業が見受けられる。	
悪くなる	—	—	

3. 北関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (北関東)	良くなる	コンビニ（経営者）	・夏休みやイベント等が多い月になっていくので、乗客数の増加と客単価の上昇が見込める。
		コンビニ（経営者）	・冬は大雪が降れば数日は悪かったが、大雨はそれほど心配していない。天候に左右される幅が少ない分、今の好調さに期待できると考えている。きめ細やかな品ぞろえや接客などで更に上向くよう目指したい。
		衣料品専門店（統括）	・これから最盛期になる祭り用品を扱っている。多少景気には左右されるものの、季節的にはこれから2～3か月先までは順調に売上が伸びる時期である。例年のことでもあるが、最近もやや客の出入りが多くなってきている。
		観光型ホテル（経営者）	・夏休みに入れば、ファミリー層を中心に乗客数の増加を期待できるためである。
		旅行代理店（経営者）	・夏場に向かって非常に景気が上向きになってきているので、これから乗客数、利用単価共にさらに増えるのではないかと見込んでいる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや良くなる	一般小売店〔家電〕 (経営者)	・夏物商材、エアコン等の動きに期待している。
		百貨店(営業担当)	・株高といい、やはり景気回復への期待感があり、夏のボーナスも上昇するという話があるので、悪くはならない。
		百貨店(店長)	・新聞等によると、夏のボーナスが前年より増加する見込みということである。来客数も微増している。
		スーパー(店長)	・急激に良くなるとは思えない。近々の状況から見ると、微増というのが一番合っていると思う。
		スーパー(総務担当)	・株価の上昇、輸出産業の好調、ボーナスの上昇などで家計の収入が増えて消費に回ること期待している。
		コンビニ(経営者)	・今までの経験からしてコンビニ経営のなかでは季節的に夏が一番売れるので、これからはやはり伸びていく。ただし、最近たばこを吸う人が減ってきてしまったようで、たばこの売上が非常に落ちているという懸念材料はある。
		衣料品専門店(販売担当)	・今月中旬以降は客の来店する頻度も比較的高くなってきたし、会話のなかでも明るい表現が目立ってきたような気がする。その表れなのだろうが、客がクレジットカードを使うようになり、しかも比較的単価が高い物まで手を出してくれるようになってきており、幾分先行きに安心感を持ちながらの生活になってきたのかなという期待感がある。
		家電量販店(店長)	・梅雨時期から夏にかけて売上の柱は、エアコンと冷蔵庫となるが、暑さに左右される部分が多い。扇風機の売価ラインは4,000円～5,000円がボリュームゾーンであったが、今年は省エネや付加価値がついた20,000円以上のラインナップが多いので期待が大きい。
		乗用車販売店(経営者)	・地元大手自動車メーカーの史上最高の純利益は円安による為替差益の部分が影響しているようである。当地域で金の循環が始まるころなので、そろそろやや良くなり始めると期待したい。いずれにしろ、アベノミクスによる効果も含め、半年先、1年先は読めない。
		乗用車販売店(店長)	・新型車が出ることと天候の良い日が多いことで来客数が増え、売上げが期待できる。
		住関連専門店(経営者)	・商工会議所や銀行等の会合において、ほとんどの業種業態で設備投資等の前向きな意見を聞くことが多くなってきている。
		一般レストラン(経営者)	・昨年より客に明るさを感じられるが、もう一步のところにいる感じである。
		スナック(経営者)	・全体に明るさが戻ってきているような気がする。期待感だけでも効果はあると思うので、このまま良くなってほしい。
		観光型ホテル(営業担当)	・今年に入ってからの宿泊客数を前年と比較すると、毎月わずかながら増加している。宴会部門もおおむね好調である。
		都市型ホテル(支配人)	・インターネットの予約情報によると、今年の海水浴客、海の近くの旅館とホテルの予約は大分入ってきているようである。
		都市型ホテル(営業担当)	・ビジネスホテルなので、現在の景気が良くなっていくような傾向に合わせ、企業などが必要などころに必要なお金を使おうという傾向が出てきており、出張旅費などは必要経費という判断をされるようになり、まだ少し伸びていく傾向にある。
		旅行代理店(所長)	・若干、株式相場に不安材料はあるものの、夏休みのレジャーも国内の期待があるので、当面現状維持できそうである。
		旅行代理店(営業担当)	・これから夏に向けて旅行需要が増加する傾向にあるので、やや良くなる。
		通信会社(経営者)	・良くなる材料はない。例年、決算総会時期が終わった6月からは多少なりとも受注が増える傾向があるので、せめて期待はしたい。
		通信会社(営業担当)	・不動産関連の消費も高まるなかで、物価上昇に備えた消費が続くと思われる。
テーマパーク(職員)	・東日本大震災の影響が薄れると共に、スカイツリーから当地区に来る客が増加する。		
遊園地(職員)	・富士山の世界文化遺産登録の勧告があり、今後は来客数の増加が見込まれる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他レジャー施設 [アミューズメント] (職員)	・ 仕入れ代金、及び経費関係の単価が上昇気味に変わっている。今のところ逆にそれをカバーするのはなかなか厳しいが、これからある程度皆の可処分所得が増えてくれば、遅れて我々の業界も良くなっていくのではないかと考えている。
		美容室 (経営者)	・ 今年梅雨入りは10日ほど早いため、梅雨明けが早まると同時に、夏は暑くなると予測される。そのため、美容院ではショートヘアが流行るかもしれない。
		住宅販売会社 (経営者)	・ 9月30日の時限的な救済法が決まり、それまでは駆け込みの需要がありそうである。住宅を建てる前に土地を購入しないといけないので、必ず駆け込みはあると思われる。
		住宅販売会社 (従業員)	・ 販売は順調すぎるほどだが、技術者不足が深刻であり、施工体制の強化を進めているところである。ただ、当面は工期の調整等で対応するほかないだろう。
	変わらない	商店街 (代表者)	・ 寒くなってくるとやや変わってくるだろうが、今のままでいくと、まだ2～3か月はそう落ち込みもなく、変わらない。
		一般小売店 [精肉] (経営者)	・ 各地域でいろいろな団体の総会が行われている。皆の話題のなかでも良くなることを期待しているが、まだ難しい状態である。アベノミクスに期待している。
		一般小売店 [乳業] (経営者)	・ 消費動向が良くなっているという実感はまだない。
		一般小売店 [家電] (経営者)	・ 消費はどこに流れているのか、消費者の商品への購入意欲が見えてこない。商品は徐々に値上がり傾向で、消費税増税も控えた流れのなかでの売上増を期待したいところである。
		百貨店 (販売促進担当)	・ 現状では円安や株高によるプラスマイナスの影響はあまり感じられないが、クールビズ関連や化粧品等のUV対策商品が比較的好調に推移していることから、盛夏に向けてやや期待が持てる。
		百貨店 (販売促進担当)	・ 夏期賞与の大幅増額があれば消費に回るだろうが、地方の大半の企業は内部留保を優先し、賞与増を行うことはなく、一般消費者の慎重な消費行動は継続すると思われる。
		百貨店 (店長)	・ 地方都市では、ボリュームを形成する層の賃金上がることや将来の見通しが良くならなければ、ここから先の景気上昇を望むことは難しい。
		百貨店 (店長)	・ 売上から見るとやや良くなっているが、勢いはない。
		スーパー (店長)	・ 曜日ごとの来客数は数か月間変化がない。
		スーパー (統括)	・ 1点単価は変わらないが、来客数が安定しており、1人当たりの買上点数が増えて客単価が上昇してきているので、参議院選挙のころまでは、今の状態が続く。
		スーパー (経営企画担当)	・ 大手企業の夏のボーナスが増額するという報道がある一方で、パンなどの小麦関連商品や油の値上げが消費を引下げてしまうのではとの懸念もある。
		スーパー (商品部担当)	・ 円安でマヨネーズや小麦、油などの一部商品の値上げ、消費税増税など、消費傾向の上昇要素が見受けられないためである。
		コンビニ (経営者)	・ 株高等にみられる回復が消費につながってもらいたいという気持ちと、円安に伴う原油や諸材料の値上げが結果的に消費を抑えてしまうのではという気持ちと、プラスとマイナスの引っ張り合いな気がしている。客の買物にもそんな先行き不安な気持ちが表れている。
		コンビニ (店長)	・ 同業の新店の影響がここまで出てくるとは予想していなかった。出店が生活、行楽動線上であったため、ゴールデンウィークに出掛けた客が新店の便利さを学習した結果だと思う。今後はとにかく現状以下にならずに落ち着くことを願うばかりである。
		コンビニ (店長)	・ このところキャンペーンなどで来客数が若干戻ってきたようなので、ひとまずは良いのだが、特別そういうものがないれば、来客数が大きく増えたり減ったりする状況ではない。
		乗用車販売店 (経営者)	・ ガソリン価格が高くなったままで、個人ユーザーは車の使用を控える傾向があり、自動車関連の消費が増える様子は見られない、この傾向はしばらく続く。
		乗用車販売店 (統括)	・ 夏場になると比較的販売量が低下傾向になる。
		乗用車販売店 (販売担当)	・ 何か特別な景気浮揚策でもあって、田舎の方に波及してくれば別だが、大して変わらない状況で、販売台数も毎月大体同じぐらいで、あまり良くないが、良くないなりにそここの台数が出ているので、このような状態が2～3か月先も続くのではないかと考えている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（販売担当）	・車の販売量は横ばいだが、サービスの在庫が減っている。全体的には変わらないが、アベノミクスの効果も我々の商売ではなかなか出ない。出るのもっと先になると思うので、このまま景気は変わらない。
		乗用車販売店（営業担当）	・客の動きはあるが、新車の商談があまり出てこないのが気掛かりである。
		自動車備品販売店（経営者）	・身の回りには特に良くなる材料はなく、むしろやや低調である。しかし、今の株高などが世の中の雰囲気盛り上げてくることで多少良くなると思っている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（従業員）	・円安により石油製品の価格が影響を受ける。
		高級レストラン（店長）	・何かある時には多少お金を使うが、普段の生活はまだまだ節約傾向が強く、悪いまま変わらない。
		一般レストラン（経営者）	・アベノミクス効果で経済状況が上向きだとテレビ等で報道されているが、地方では効果の表れというのはまだ遠い。
		一般レストラン（経営者）	・悪くなることはないと思うが、サービス業、特に飲食業に対する消費者の見方は今までの感覚が根付きすぎて、実際は物価の上昇に苦しむという形に拍車が掛かってくるように思われる。
		スナック（経営者）	・本当に先行きがまだ見えない、分からないという状態である。
		観光型旅館（経営者）	・景気回復で収入が増えても、休日や余暇が減ると旅館業では客が減る傾向となる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・6、7月は地方都市においては農繁期で田植えなどで客の動きが少し止まるのではないかと心配している。しばらくの間は変わらず、このままの状態が続く。
		旅行代理店（副支店長）	・先行きの受注などはほぼ前年並みであり、夏休み期の客の動き方次第では良い方向に向かっていく可能性もある。ただし、為替の影響もあって海外旅行については先行きが懸念され、その分、国内旅行の受注が増える可能性が高い。このままの状況なら今後期待が持てそうである。
		タクシー（経営者）	・利用客が少ないのでこの先も変わらない。
		通信会社（経営者）	・新規加入の流れが続かない。
		通信会社（総務担当）	・個人消費が低迷し、売上が伸び悩んでいるなかで、円安の影響により材料仕入れの値上がり懸念される。
		通信会社（局長）	・生活上のランニングコストは少しでも節減したいという考えが根強く、節約傾向に変化はない。
		競輪場（職員）	・他場の記念競輪の売上もほぼ前年と同じような売上で推移しているからである。
		その他サービス〔立体駐車場〕（従業員）	・周年のキャンペーンを行ったが、その時だけのスポット的な動きに終わるものと思われる。また、将来的にも販売量、来客数共に各テナントの予約状況を見ても横ばいと判断されるので変わらない。
		その他サービス〔イベント企画〕（職員）	・一部大手企業の業績は回復しているようであるが、地方ではあまり感じられない。
		設計事務所（経営者）	・2、3か月先まで予定が入ってきており、忙しい状況が続く。
		設計事務所（所長）	・新しい話も線香花火の感が否めない。あと1～2か月が限界かと思っている。
		設計事務所（所長）	・回復する材料がない。イベントをやっても成果が見られない。今後の景気回復は期待できない。
		住宅販売会社（従業員）	・観光シーズンのピークで、そこそこの集客が期待できる。
		住宅販売会社（経営者）	・地方の当地域ではまだ不動産を買おうという雰囲気にはなっていない。貸店舗、貸家等についても、まだこちらでは全然出店意欲が見受けられない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・ここへきて店頭前の車の通行量は増えているが、昼の通行者数が極端に減ってきている。
		商店街（代表者）	・梅雨の季節になると同時に、メーカーでは来月より原単価が上がるとの通達があり、また売れなくなる可能性がある。
		コンビニ（経営者）	・目の前に競合店ができるからである。
		家電量販店（営業担当）	・経済の不安定な状況が購買意識を抑えている。
		乗用車販売店（経営者）	・株価の右肩上がりが止まり、乱高下しだして先行きが不透明なためである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（従業員）	・コンパクトカーへの移行で1台当たりの収益が減少している。売上台数の増加で減少分をカバーできてはいない状況である。
		住関連専門店（店長）	・来客数は現状とほぼ変わらないと思われる。また、円安等により、輸入品が多い当社の取扱商品に関しては利益の確保が難しくなってくるのが予想される。
		一般レストラン（経営者）	・観光シーズンが終わり暑さが厳しくなるため、例年来店数が落ちてくる。今年は商工会議所主催で暑さを逆手に取った町おこしのイベントを開催するので期待している。
		タクシー運転手	・当地域に同業者が1社増えたので、やや悪くなる。
		通信会社（経営者）	・LPガス販売においては、通常、需要期が過ぎたこの時期はガス輸入価格が下がるのだが、CP価格が下がっても円安で相殺されてしまいコストが下がっていない。これから夏にかけて使用料が半分近くになるのだが、利幅がなく厳しい状況が見込まれる。加えて市場は、安値顧客争奪戦で保安は二の次の状態となっている。危険物である以上ある程度の規制は必要である。
		ゴルフ場（業務担当）	・今月については好天に恵まれたためか、入場者、売上共に前年を若干上回ることができた。ただし、部門別の単価、売上を見ると、キャディーフィーなどの売上が落ちており、セルフ志向が強くなっているのが実情である。会員募集については予想以上に順調に推移しており、特にシニア層については今まで持っていた金を使い出したということなのか、募集に賛同して入会している。ただし、景気が良くなってきたかどうかの判断についてはなかなか難しい部分もある。
悪くなる		商店街（代表者）	・大企業は大変もうかっているが、小さな企業の景気が良くならないと商店街は良くならない。日常生活に必要な食品や日用雑貨品の購買が上向かないと、景気回復はまだ先のようなのである。
		一般小売店〔衣料〕（経営者）	・新政権になって以来、株価が上がったりして良いような雰囲気はあるが、アベノミクスは実質的なものではなく、何か不安定な要素にも見える。それで良くなっていくようには感じられず、残念である。
		スーパー（経営者）	・価格競争の激化によって悪くなる。
		コンビニ（経営者）	・現在、来客数はほぼ前年並みとなってきたが、客単価が低く、販売量も少なくなってきた。これではまだ良くなるとは思えない。
		タクシー運転手	・今の調子では、今後良くなる気配が全くない。駅前ですら電車から降りた人だけで、ひっそりとしていて人通りがない。もちろん深夜もない。
企業 動向 関連 (北関東)	良くなる	その他製造業〔環境機器〕（経営者）	・民間大手の産業廃棄物事業者が安全処理装置を導入する機運になりつつあるため、良くなる。
	やや良くなる	食料品製造業（営業統括）	・ワイン組合を中心に新たなイベントを企画して業界全体のかさ上げを図っている。そのほか、今後は富士五湖周辺の売店、ホテル、ペンション等への売上増が見込まれる。
		食料品製造業（製造担当）	・工場直売で集客し、売上の確保に努める。スーパーの価格では原価が叩かれて安くなるが、直売では言い値で売れるので何とかそちらの集客を努めて良くするしかない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・夏から油圧建機分野の仕事が増産になるとの情報が複数あり、ベースとなる売上は確実に安定する。
		建設業（経営者）	・公共事業の発注が続く。
		金融業（調査担当）	・公共工事の増加に加え、製造業でも国内経済の改善が徐々に地方にも波及していくことが期待される。一方、急速な円安に伴う原材料価格の高騰の影響も懸念される。
		金融業（役員）	・自動車関連で7月から秋口にかけて増産計画があることや建築関係で今後かなり公共工事の受注が出るということなので、やや良くなる。
		金融業（経営企画担当）	・サービス業において、富士山の世界遺産登録の影響に期待している。
		経営コンサルタント	・期待先行、イメージ先行の現状の経済が実態的な成長感を実感するにつれて、本格的な投資活動、消費行動につながってくるものと思われる。今後は個別企業のマーケティングと効果的な営業の成否が結果を左右する。
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・引き合い、商談件数が徐々にではあるが増加傾向にある。ここ数か月の変化に注力していきたい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	窯業・土石製品製造業（経営者）	・自社新商品、新体験講座メニューを展開しているが、予想すらつかない最悪の状態である。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	・今のところ、2～3か月先に先良くなる様子はない。
		金属製品製造業（経営者）	・どの取引先も注文が少なくなっていて良くなる見込みがない。例えば、換気扇の部品関連の得意先も分からない、その他の得意先も見通しがつかないということで、とても不安に思っている。
		一般機械器具製造業（経営者）	・2～3件、新規品の引き合いが来始めたので、ここ2～3か月は人員整理を見送り、様子を見ることとする。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・円安、株高になっても、まだまだ我々中小企業では注文量が増えていない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・開始された新機種の生産計画がまだ不透明である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・現在の低空飛行が続く。今、新規に営業をかけていて多少なりとも実ってきているが、製造業は全般に動きが少ない。地元の大手メーカーが唯一元気が良く、関連の下請会社は忙しいが、他の電機関係はかなり低空飛行で厳しい状況である。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・一部企業では円安、株高、アベノミクス効果の恩恵を受けているようだが、我々は相変わらず受注競争がし烈で、景気回復がいつになるか分からない状況である。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・2～3か月でも変動が大きく、非常に忙しい月もあるし、仕事が減る状況の時もあるので、2～3か月先は何とも分からない。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・期待感はあるが、現実として一般企業では給与が上がらず、地方公務員は給与の減額に直面しているなかで、プチゼイタクはあるかもしれないが、宝飾品の需要まではまだ回ってこない。
		建設業（総務担当）	・業界全体的にも、補正予算による効果が期待だけで終わってしまうことを大変危惧している。予算は順調に執行されているという報道もあるが、とても信じられない。
		輸送業（営業担当）	・夏場に向かい季節商材等の物量が増える状況だが、現状アベノミクス等の経済効果による景気回復で仕事量が増えるようには考えにくく、逆に運送業界としては円安による燃料高のコスト負担が厳しい状況が続くそうである。
		通信業（経営者）	・景気回復への期待感ばかりが先行して実体を伴っていないようである。
		不動産業（管理担当）	・燃料費や資材が値上がり傾向にあり、業務の受注が増えても利益圧迫要因になると思われる。
		広告代理店（営業担当）	・地方経済の改善の前に景気が失速すると思われる。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・7月に家電量販店の新規出店が予定されており、ボーナス時期と重なり同業他社の応戦が期待されることである。ただし、民間企業等のボーナス回答は、今のところ成果に対する配分を留保していると話す役員もいる。
		社会保険労務士	・中小企業の賞与は変わらないため、まだ今年の夏は大きな変化はない。
やや悪くなる		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・仕事量も減ってきているが、利幅も少ない。
		化学工業（経営者）	・関西地区の電気料金値上げのため、仕入原材料が7月から多少なりとも上がりそうである。売価にどこまで転嫁できるか未定である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・仕事が成約できず厳しい状況が続いている。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・大手自動車メーカーの3か月見通しでは数量が落ち込み始めている。生産の数量から見ると引き続き高水準にあることは変わらないが、円安により燃料価格、素材などが上がり始めているということで、非常に収益が圧迫されつつあり、売上は前年比で減少、原価率も高くなっていくので収益は落ち込む予定という見方をしている。
		不動産業（経営者）	・経済改革の具体策が示されていないことや、これまで日本経済を支えてきた技術や将来必要と思われる資源のない国で生かされるべき職種の労働環境が劣悪であり、将来性が見えない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	建設業（開発担当）	・公共工事は東日本大震災の復興で人件費が上昇したため、労務単価が何年かぶりに見直された。これまでの数年間は受注しても利益計上が難しい状況が続いていたが、今後は何とか利益計上ができるようになると思われるので期待したい。今期は売上高をアップさせるため、新たに営業ルートを開拓していく計画を実践している。
雇用 関連 (北関東)	良くなる	人材派遣会社（営業担当）	・円安で輸出型の製造業が活況である。株高で景況感も改善し、県内のアウトレットは盛況である。
		人材派遣会社（管理担当）	・派遣先の生産計画が発表され、7月までは安定して派遣社員の採用が増加するためである。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・5月が悪かったので、今後2～3か月先は元の景気に戻り、やや良くなる傾向である。
		職業安定所（職員）	・中央の大手企業の株高等による良い影響が地方にも現われるところである。
	学校〔専門学校〕（副校長）	・企業の求めている人材レベルと求職者のレベルのミスマッチは変わらない。一部の求職者以外、将来を展望できる就職は望めないのではないだろうか。	
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・ガソリン価格の動きがあまり見られず、140円台で、運送業界の方に影響が出てきているように見受けられる。住宅関連は公共事業を含めてあまり動きがないように見受けられる。販売員関係は募集傾向は多く見られたが、このあたりは微妙なところである。
		人材派遣会社（経営者）	・テレビなどでは忙しいような報道が多く出ているが、実際、下の方はまだまだあまり仕事がない。
職業安定所（職員）		・製造業の求人が伸びていないことや、求人数が増えたといっても正社員求人よりは非正規雇用の求人が増加しているため、変わらない。	
職業安定所（職員）		・アベノミクスなどにより全国的には期待されているようだが、地方である当地域においては、その影響もしばらく先になるものと予想される。主力産業であった製造業も、底打ち状態ではあるが、一部（食品製造）を除き横ばい傾向で推移するものと思われ、非常に厳しい状態が続いている。また、富士山の世界遺産登録などで宿泊業においては観光客の増加が期待されるなど、業界内でも一部で明るい兆しがあると考えているようだが、実際にその影響が表れるのも観光シーズンとなる秋以降になるのではないかとと思われる。	
民間職業紹介機関（経営者）		・先行き不透明感から、経営者は慎重な姿勢を崩していない。	
やや悪くなる	職業安定所（職員）	・ここ数か月の新規求人状況を見ると、前年同月比で2月はほぼ横ばいだったが、3月は5.6%、4月は8.6%の減となっている。対して新規求職者数を見ると、4～6月にかけて早期退職の追加実施もあり、4月以降も前年同月比で7.5%増と見込んでいる。求人減、求職者増という傾向で動いている。また、企業訪問時などに事業主に話を聞いても新規求人はやはり厳しい状況である。	
悪くなる	—	—	

4. 南関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (南関東)	良くなる	コンビニ（経営者）	・総体的な購買意欲が非常に強く出ているため、継続すれば、全体的に商売もうまくいく。
		家電量販店（営業統括）	・テレビは家電エコポイント制度終了後の大幅な販売数、製品単価の下落に何とか歯止めがかかり、新たなジャンルとして4Kテレビが各社から発表され、注目を浴びている。また、為替変動での値上げが迫る輸入商品にも、駆け込み的な購入が一時的に活発化している。
		その他小売〔雑貨卸〕（経営者）	・アベノミクス及び日銀の政策発動の効果があると思うからである。
		通信会社（経営者）	・アベノミクスの効果を期待している。
	住宅販売会社（従業員）	・来場者数が増えていることで、ここ2～3か月の契約増加が見込まれる。	
やや良くなる	商店街（代表者）	・良くなって欲しい。マスコミは水を差さないように気を付けて欲しい。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔家電〕 (経理担当)	・アベノミクス効果が末端まで浸透するには時間がかかるが、明るい兆しを感じたり、節約疲れもあって購入意欲は良くなっているようである。
		一般小売店〔家電〕 (経営者)	・アベノミクスの影響で消費者の心理が良くなってきているようである。
		一般小売店〔祭用品〕 (経営者)	・夏に向けて消費が伸びることに期待する。
		一般小売店〔米穀〕 (経営者)	・テレビやメディア関係の話から、やや良くなる。
		一般小売店〔文具〕 (販売企画担当)	・消費税増税前に、建物の付帯設備や新しい店舗のじゅう器などの買取りが必要な物に関しては、早め早めに買っておこうというような動きがある。そのような特需がきているため、数か月先の案件が多少みえている。ただし、この反動が来年の3、4月以降にきたら怖い、今は景気が良い。
		百貨店(総務担当)	・株価なども安定しておらず、消費を押し上げる要素が少ない。ただし、消費税増税間際になれば短期的には消費が増えると考えており、少しずつ良くなりそうである。
		百貨店(店長)	・株価の好調と円安などで企業の業績や給与が改善されれば、効果が出てくる。
		百貨店(販売管理担当)	・今までは時計や宝飾品といった高額品の動きが中心となっていたが、現在は裾野が広がり、最寄り品や日用品でもワンランク上の商品を選択する客が増加している。また、ファッション関連商材も、気温の上昇とともに、春物から初夏物に順調にシフトしている。
		百貨店(副店長)	・食料品などの最寄り品に好影響が出るのはまだ時間がかかりそうである。しかし、来客数は増えており、高額品だけではなくファッション雑貨などに好転の兆しが見えてきている。
		スーパー(店長)	・今が底と考えているため、3か月後の景気はやや良くなる。これ以上変わらないとか悪くなると回答してしまうと、自分の給料がなくなってしまうので、良い意味でも悪い意味でも前向きにとらえている。店も客に喜ばれる接客サービス、あるいは販売促進等している、ある程度期待値はある。
		スーパー(仕入担当)	・景気そのものが上向きになっていくが、円安で輸入品の価格が7月より一斉に上がるため、物価が上昇し、財布のひもはすぐには緩んでこない。
		コンビニ(経営者)	・季節的に暑くなってくるため、来客数、売上共に増えると思うが、本格的な景気回復まではいかない。限定的にやや良くなる。
		コンビニ(経営者)	・高付加価値商品は、今後も伸びていくと思われ、天候の大幅な崩れのない限り、しばらくは好調に推移していく。
		コンビニ(経営者)	・近隣のスーパーが閉店したため、一時的に客単価が上昇して、良くなっている。
		コンビニ(エリア担当)	・たばこ購入者の減少傾向に変わりはないが、一方で高単価商品に対して反応する客も増えつつあるため、やや良くなるのではないかとみている。
		コンビニ(店長)	・夏の予報では暑くなるので、夏らしい、客に役立つ売り場を作っていくことで多少なりとも改善していく。
		コンビニ(商品開発担当)	・消費税増税前の駆け込み需要により、客の財布のひもが全体的に緩むのではないかと期待している。
		家電量販店(統括)	・夏商戦以降、消費税増税前の需要増が見込まれる。
		乗用車販売店(経営者)	・現状は販売があまり良くないが、来年の4月から消費税が上がるということで、今年の7月以降から販売が伸びるのではないかとみている。
		乗用車販売店(経営者)	・新車の販売量は景気に左右されやすいが、最近では商用車の売上が伸びてきている。
		乗用車販売店(販売担当)	・昨年から続いていた環境関係のトラックの助成金はなくなったが、ユーザー自体がどちらかというと前向きで、購買意欲はたくさんあるため、先行きはやはりやや良くなる。まして、建築関係では需要も相当大きく、ダンプカー、クレーン車は異常なほどの高値で買い取りをされている状態なので、今後とも上向きになる。また、メーカーとしても増産体制を要請しているような状況のため、景気は上り調子だと判断している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（店長）	・5月はゴールデンウィークの絡みで、1、2週は非常に厳しかったが、営業の努力で、営業効率は非常に上がってきている。それを軸に、新型の軽自動車で巻き返すつもりである。
		乗用車販売店（総務担当）	・新型車の投入や需要月でもあり、販売量が増えると予想される。
		高級レストラン（店長）	・宴会予約の推移から判断している。
		一般レストラン（経営者）	・株価の上昇や円安、インフレになりつつあるため、まだ所得は増えていないと思うが、企業自体の景気が良くなってきており、接待などを経費で落とせる状況が増えてくると思う。飲食店も2、3か月後にはより一層良くなっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・アベノミクス効果が、徐々に消費にも出始める。
		旅行代理店（経営者）	・輸出関係は大分良くなっているようだが、株価も少し上下が激しくなっていており、3か月ぐらいたればやや落ち着いてきて、皆それなりに財布のひもを緩めてくれると思う。
		旅行代理店（従業員）	・まだまだ間際の団体旅行の申込が増えている。見積り数も増えて、成約率も高くなっている。
		タクシー運転手	・この先梅雨時を迎え、かなり忙しくなる。また、梅雨が明けなくても昨年のような暑い日が続くと利用が増えることは間違いない。ただし、株価暴落が気になる場所である。
		タクシー運転手	・そろそろ梅雨の季節になり、傘代わりにタクシーを利用する客が増え、周辺ターミナル駅等は忙しくなりそうである。
		タクシー運転手	・仕事の関係上、梅雨に入れば客足が伸びる。
		通信会社（経営者）	・今月から開始された動画コンテンツの配信サービスにより、スマートフォンで見ていた映画などが、自宅のスマートテレビ向けのセットトップボックスでもシームレスに視聴できるため、今後需要が期待できる。
		通信会社（経営者）	・アベノミクス効果で心理的に明るくなる。また、夏のボーナスが前年より良くなると思われる。
		通信会社（社員）	・円安、株高の世の中の動きにより、回復している気分が漂っている。ただし、現実生活においての実感薄い。
		通信会社（営業担当）	・ニュースで景気が良くなる話が多く、消費者は近い将来景気が良くなると思っているようである。
		その他レジャー施設（経営企画担当）	・消費マインドが改善傾向にあることと、ゴールデンウィークと同様に、夏のレジャーシーズンにおいても円安などによる日本人客の国内需要、海外客のインバウンド需要が見込める可能性が高い。
		設計事務所（経営者）	・当社への仕事依頼の問い合わせが出てきている。実際に仕事に結び付くかは不明だが、時間や費用がそれなりにかかる仕事への依頼があるということは、少しは景気が上向く傾向ではないかとみている。
		設計事務所（経営者）	・新政権に変わり、アベノミクスの影響と思われるが、前年度よりも指名回数が非常に多くなった。当社も業務を選びながら指名に対応し、明日につながる仕事に結び付けていくが、これと同時に民間の方も消費税増税の先取りの関係で多くなっている。ただし、日々仕事にチャレンジできるように所員共々頑張っているが、行政の仕事がますます多く、また、良いものを多くやるためには厳しい判断が必要だと思う。大変良い傾向である。
		設計事務所（所長）	・新年度になり、官公庁の指名も多くなり公民共に動きが出始めたので、そのまま上昇を期待して良くなるということである。
		住宅販売会社（経営者）	・やや良くなることを期待している。円安の影響で、自動車産業などの輸出関連企業は大変良いようだが、我々中小企業は、まだ不況のなかにいる。大企業だけではなく、中小企業向けの景気対策を期待している。
		住宅販売会社（従業員）	・まだまだ景気は上向きに推移すると思う。ただし、うまく便乗し仕入販売に結び付けないと厳しくなる。このことを念頭において客の動向を把握して、アプローチしていけば良くなる。
		住宅販売会社（従業員）	・マンションの販売センターにおける、客の購入意欲が上向いている。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税前の駆け込み需要が現実のものとなってきた感じを受ける。今後、戸建住宅だけでなく、アパート等の収益物件にも波及することを期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		住宅販売会社（従業員）	・住宅の新築、建て替えの検討客が増えてきているため、傾向的には良くなる。また、これまでの受注残が完工してくるので売上は前年より増加してくる。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税前の駆け込み需要により、景気はやや良くなる。現在検討中の税制改正が決まれば、さらに客の動きが出てくると思われる。また、木造建築をしている当社にとって木材利用ポイント制度も追い風になる。
		商店街（代表者）	・3月末から4月まで続いた良い流れは、あまり足腰の強いものとはいえない感じである。アベノミクスの勢いが続き、日本全体の景況感が良くならないと、本当の回復基調は出てこない。
		商店街（代表者）	・上ぶれ、下ぶれの要因がアベノミクスの成功いかんにかかっているため、現実的にはどちらになるか決めかねる。
		商店街（代表者）	・新聞、テレビなどの報道で、消費者も勉強しているため、アベノミクスの効果にも株価や為替の動向などが微妙に影響してくるのではないかと。今の状況では何とも言えない。
		商店街（代表者）	・今年は梅雨が割と早くくるようなので、梅雨が終わるまでは商売が難しくなる。とにかく天候が一番商売につながる業界なので、難しい状態が続く。
		商店街（代表者）	・最近のテレビ、新聞で報道されている状況からすると、大企業についてはかなり良いところも出てきているようだが、我々中小零細企業についてはなかなか難しい状況である。以前と比べていくらか変わってきたと感じるのは多分今年の暮れか来年の春ではないかと感じている。
		一般小売店〔和菓子〕（経営者）	・マスコミではアベノミクスの影響で良くなっているとの報道があるが、一般小売店としてはあまり実感がなく、株価も不透明感があり、期待感はあるが、まだ分からない。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・5月は新茶の季節である。連日、新聞には産地直送による、他県の深蒸し茶と景品のセット販売が掲載されており、大きな影響を受けている。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	・これから2、3か月先であるが、値上がりの傾向があるため、客は値上がり前に購入しようという機運が多少あるのではないかと期待している。それほど良くはならないので、変わらない。
		一般小売店〔文房具〕（経営者）	・業種的に言っても、それほど売上が上下するような商売ではないので、現在の状況がこのまま続く。それほど悪くなるということはないかもしれないが、良くなるということもありえない。平均的なところではないかと考えている。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・景気は非常に良くなっていると言うが、やはり末端までそれが波及するには、相当時間がかかると思うので、粘り強い行政の力が必要である。ぜひ断ち切れずに持続してもらいたい。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	・全体の売上を考えると、まだ景気回復は望めないが、少なくとも個人消費者向けのお茶などは、少しずつ回復傾向に向かっている。
		百貨店（売場主任）	・ボーナスの増額は一部の人に限られている。また、原材料が高くなっているため、様子見をしている客が多い。
		百貨店（総務担当）	・仕入価格や電気料金などの、今後コスト増になっていくと思われるものもあるが、ボーナスや来年の消費税増税までは円安、株価の上昇をにらみながらこの調子が続く。
		百貨店（広報担当）	・これまでは、一本調子の円安、株高が心理的に好景気感を醸成し、実際の購買行動に結び付いていたが、ここに来て株価の乱高下、長期金利上昇や国債価格下落など購買心理にマイナス影響をもたらす現象が生じている。株価などの経済指標に敏感に反応する百貨店の富裕層の客は、極端な買い控えなどはないものの、消費税増税に伴う購買のタイミングなど、経済動向の様子見でしばらくは現状並みの買上傾向が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業担当）	・一般消費者にとっては、アベノミクス効果が表れるのはまだ先の話であり、一部の企業では臨時賞与等の支給について新聞等で取り上げられているが、実態としてはまだまだといったところである。婦人アパレル、高級品等はしばらく伸びることが予想されるが、一方で毎日消費される食料品に力強さがみられない。円安による原材料の上昇で商品単価が上昇し、売上の底上げが今後出てくると思われるが、消費量の落ち込みも考えると、全体では大きな変化はみられない。ただし、消費構造が変わってくることは今後間違いなく発生すると推測される。
		百貨店（営業担当）	・大きい変化はない。これから夏物の最盛期を迎えるが兆しは感じられず、秋以降の商品をメーカーも作っておらず、大きな流れは変わらない。
		百貨店（営業担当）	・アベノミクスの影響で円安、株高が続いており、アクセサリ、時計、宝飾品、美術品等の高額商品の動きが良い。一方、婦人服、紳士服、子ども服等の衣料品はさほど伸びていないので、まだまだ景気が回復しているとは言えない。
		百貨店（販売促進担当）	・各社のボーナスが増えるなど、明るいニュースはあるが、個人の消費はまだ慎重である。
		百貨店（営業企画担当）	・株価の急落があったように、今後一本調子で株価が上昇するとは考えられず、資産効果だけではなく、ボーナス、給与、雇用など実体経済が良くならなければ、継続的な景気拡大は期待できない。
		百貨店（計画管理担当）	・現状の景気が良いように感じられるのは、株価の含み益であったり、一部の富裕層が高額品を購入しているためと思われる。本当の意味での景気回復になるには、一般消費者に利益還元される必要があるが、2、3か月ではそこまでは達しない。
		スーパー（経営者）	・今の状況だと2～3か月先も悪い状態がずっと続く。一番は競合状態だが、客は必要以外の物はあまり買わないという傾向が強くなっている。値上げや消費税増税、様々な要因も関係してくるのかなと思う。以前に比べて買い控えているようだということと、4月は天候が良くなかったのが悪かったが、5月はそうでもなかった割にそれほど回復していないということで、非常に厳しい状況が続いている。
		スーパー（店長）	・客単価の低下はこのまま続き、更に来客数も今後厳しくなってくると思う。特に最近では、週末の客が減ってきて、ファミリー層の買物が非常に少なくなってきたため、この先も厳しい状況が変わらず続く。
		スーパー（店長）	・円安、株高など、輸出関連企業等には良い方向に向いていると思うが、当業界では原材料の値上げ等不利な部分が多く、商品によっては販売価格を値上げせざるを得ない物も出てくるため、消費者全体の節約志向が抜けるまではしばらくこの状況が続く。
		スーパー（店員）	・客の買上額、数量をみると、数量はわずかながら伸びている。景気そのものが上向き傾向にあるという意識から、商品に手が出た物を買う行動には移っているが、まだまだ高単価の物には手が出ず、低単価メインの消費動向に思われる。
		スーパー（総務担当）	・気温の上下によって夏物が動いたりしているが、5月の状況をみていると、気温が高くなっても夏物がなかなか動かず頻度性の高い物もあまり良くないので、今後売上が上がる見通しはなかなかない。スーパーなので全く売上がなくなるといったこともないが、このまま低迷した状況が続く。
		スーパー（営業担当）	・円安、株高の基調が安定すれば、更に景気は上向くと思うが、株の乱高下等で安定してこない場合は、景気に陰りが出る可能性がある。
		スーパー（仕入担当）	・円安による原料高騰により、商品によっては値上げの話が出ているが、競合各社の状況、またナショナルブランドメーカーの戦略により、価格据置きの方になっている。
		コンビニ（経営者）	・徐々に良くなっている傾向にあるが、まだまだ楽観はできない。
		コンビニ（経営者）	・ここしばらく来客数の減少が続いている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・最近の店の傾向は、天候に左右される部分が多い。今年梅雨入りも早く、空梅雨になるか、それとも雨が降り梅雨になるか予測できないが、客の来店を考えると雨があまり降らないで客が荷物を持てるような天候が続くことを願っている。店の周りにアーケード、駅中店舗等もあるため、天候によって大変左右されるようになってきている。
		コンビニ（商品開発担当）	・来客数の増加につながるような材料も少なく、厳しい状況が続くことが予想される。
		衣料品専門店（経営者）	・景気が良くなってきたという実感がなく、来客数が増えてこない現状では、しばらく時間がかかりそうである。
		衣料品専門店（経営者）	・小旅行、スカイツリーや私鉄の相互直通運転によって出掛ける回数が増えているため、良い方向に行く。
		衣料品専門店（経営者）	・天候が急に暖かくなり、商品の展開が難しい。暑いという長期予報にセールを含む予算立ても難しい。
		衣料品専門店（経営者）	・7月の選挙結果にもよると思うが、2～3か月先まではあまり変わらない。秋口からは良い方向に行くのではないかと期待はしている。
		衣料品専門店（経営者）	・変わらないというのは、アベノミクス効果で逆に円安先行のため、輸入品が値上がりし、消費税も増税予定なので、収入が上がらないと本当の景気浮上はまだだと思う。まだまだ秋から冬にかけて、効果がどうなのかということで、末端の店ではまだ良い方の結果は先のように思われる。
		衣料品専門店（店長）	・アベノミクス効果は、当店の数値には出ていない。手取りが増えるということではなく、賞与などの臨時収入ということでは、消費の増加につながるには1年先になるとみている。
		衣料品専門店（営業担当）	・消費税増税までは変わらぬ景気だと思うが、導入と同時に小売業は厳しくなることが目に見えている。
		家電量販店（店員）	・過去2、3か月と変わらない状態が続く。
		乗用車販売店（経営者）	・一時はアベノミクス効果なのか来客数が増えたが、今月は例年よりも少ない。
		乗用車販売店（営業担当）	・ニュースなどを見ると、中国の景気や政治の動きによって左右されているようであり、今以上の景気は見込めない。
		その他専門店〔雑貨〕（従業員）	・最近低迷していた開店数が上がってきているため、好調である。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・アベノミクスの恩恵を最終消費者が受けるのは、もっと先のように思う。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・ここ最近の株価や為替の不安定に加え、長期金利の上昇と不安要素が露呈してきており、消費マインドもどちらを向けば良いのか迷走状態にある。
		その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	・変わらないというより分からない。円安や株価上昇による一部の人の利益が世間に回ってくるのを待つばかりである。
		その他小売〔ゲーム〕（開発戦略担当）	・6月は米国でショーが開催され、新ハードの情報が詳しく開示される見通しだが、現在の低調は続くと思われる。
		高級レストラン（支配人）	・比較的好調だったこの春先に比べ、6月以降の受注状況があまり良くない。企業の接待なども一時増えたが、このところ落ち着いてきている。一時的な好況感の反動でないといいが。
		一般レストラン（経営者）	・依然、景気全般の不透明感はぬぐいきれないが、客の新旧交代もあり、新たなリピーターも期待できそうである。
		一般レストラン（経営者）	・今年に入って売上の前年比が、1月は94.4%、2月は98.9%、3月は102%、4月は96.7%、5月はこれからの天気次第であるが101%前後になる。まだ前年を超えたり超えなかったりである。今やと下げ止まりの気配を感じている。
		一般レストラン（経営者）	・景気が良くなるということにまだ疑心暗鬼などところもあるが、客の間では期待がまだ少し残っているので、これからまだ横ばい、一進一退の状態が続く。選挙が終わってからは分からないような感じがしている。
		一般レストラン（スタッフ）	・基本的に悪くないが、さほど良くもなく、様々な出費があるため、プラスマイナスでさほど良くない。当社は自社ビルもあるため、少し前のように悲観的になるより楽天的に考えているが、今後は税金も増える。しかし、気分を明るくしていれば、きっと良くなると思っている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（スタッフ）	・月により販売量に波があり、良い月と悪い月がはっきりしている。先々の予約状況も同様で、直近での動きが以前に比べると鈍く、予想が立てづらい状況である。全般的に問い合わせが大幅に増えているわけでもなく、売上は現状維持がやっとなのである。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宴会関係は時期的なものがあるのか、法人宴会は夏から秋にかけての予約人数が前年を下回り、厳しい状況である。婚礼も当社の提案する料金で交渉できる客と、全く料金のあわない客の両極端があり、件数が思うほど伸びない。披露宴を安くできるという紹介会社があり、新郎新婦が相談に行き披露宴自体は安くできるが、紹介会社に手数料を支払い、結果ホテルと直接打ち合せしたのと変わらない金額の披露宴があり、苦慮している。レストランでは記念日の家族利用は土日、祝日を中心に安定して昼の利用はあるが、夜の法人関係の利用が伸びない。宿泊は東京の稼働率が高く推移しているとのことだが、当社までは波及していない。
		旅行代理店（従業員） 旅行代理店（支店長）	・販売価格は安くなっており、2、3か月では上がらない。 ・2、3か月後だと夏休みということになるが、今の団体の動きにはなかなか良い点がない。個人は海外を中心にやや動きが早い感じがある。特に、ヨーロッパやアメリカなどの長期については早めの問い合わせもきており、早割のお得感を出すためのセールスをかけているので、個人に対する期待はあるが全体としては変わらないというような実感である。
		タクシー運転手	・株価が上がり、大手企業、主に輸出関連会社の売上状況が良くなってきているのは分かる。また、先に恩恵を受けるのは富裕層であり、一部では景気の良い話が聞こえてきている。しかしながら、一般消費者の立場としては、景気が良いと実感するのはまだまだ先の話である。ただし、景気が良くなる方向へと着実に進んでいる。
		タクシー運転手	・これからの見通しは、株の乱高下があり、あまり良くない。当業界は、その影響もあまり受けずに変わらない。
		タクシー（団体役員）	・株価や為替が安定していない。マスコミ等で報道されている好景気感は、当業界には実感としてない。当面は変わらない。
		通信会社（営業担当）	・現在、有料テレビサービスの契約件数は上昇傾向にあるものの、依然として割安なサービスを求めている顧客も多く、ここからの大きな上昇は望めない。
		通信会社（営業担当）	・新規契約数に大きな伸びはなく、低位での伸び悩む状況が続く。
		通信会社（総務担当）	・景気回復の兆しはみられるが、円安の影響によりほぼ横ばいである。
		通信会社（局長）	・現実的に世帯収入が増えて安心感が増えないと、購買へ気持ちはすぐにはいかない。
		通信会社（営業担当）	・アベノミクス効果が庶民レベルにまで波及するには相当の時間がかかりそうである。
		通信会社（管理担当）	・例年、夏は販売量が落ちることから、10月ごろまでは横ばい状態が続く。
		通信会社（局長）	・円安による輸出企業の好景気、株式資産の含み益からくる景気の波は、通常生活においては全く実感がない。ごく一部の限られた人を対象にした事態と冷静に受け止めている。
		観光名所（職員）	・5月は観光地にとってはトップの数字を出せる月である。3か月後になると夏休みに入り、旅客は若干増えると思うが、5月よりは若干少ないと思う。
		ゴルフ場（従業員）	・公共工事発注の労務単価はかなり上昇したようだが、その効果が広く国民に波及するまで、どのくらいかかるのかと考えてしまう。まだまだ景気回復まで政策も時間も要する。
		ゴルフ場（支配人）	・予約状況が平年並みである。
		パチンコ店（経営者）	・低玉貸しの客が少しずつ増えてきている。それは有難いことだが、以前と比べると客が若干増えても、お金を使わなくなっているため、トータルの売上はさほど上がってはおらず、逆に少し下がっている。なかなか厳しい状況である。急に改善されるようなことはないので、3か月後も今のままで変わらない。
		その他レジャー施設 〔ボウリング場〕（支配人）	・アベノミクス効果により、円安、株価上昇が進み、景気が上向きとの報道が目立つが、まだまだ消費には回ってこない。ただし、今後、特に夏の賞与が支給されてからは期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他レジャー施設 [アミューズメント] (店長)	・現在の閑散期から夏季繁忙期に向けて、今が一番厳しい時期のため、これ以上の不安材料はない。ただし、夏季繁忙期に向けての好転材料もない。
		美容室(経営者)	・テレビで報道されている様々なことは、あまり良く分からないが、それほど動きがないのではないか。
		その他サービス[保険 代理店](経営者)	・顧客単価は微増するものの、やや良くなるというほどの期待はできない。
		その他サービス[立体 駐車場](経営者)	・買物客が減っていたり、会社関係の転勤でまだ仕事での異動を始めていないようである。
		その他サービス[福祉 輸送](経営者)	・今度の都議会選挙、参議院選挙を踏まえて、内閣が発表する具体的な経済政策によっても大きく違ってくると考えている。また、選挙結果によっても様々な影響が表れる。そういった意味で、上がることも下がることも3か月程度は分からないため、変わらない。ただし、年度末に向けて消費税増税といったようなものがあれば、ただ前倒しになるだけだが、消費税増税前の一時的な需要の高まりは、今年度、来年の3月に向けて、ある程度出ると考えている。
		その他サービス[学習 塾](経営者)	・ここ数か月は、女子生徒や新入生が減っている。女子生徒の減少に関しては、遠くから来ている子も多かったが、関東周辺の地震の発表や地震予測で、近くの塾に皆行くという傾向がある。これは景気とは直接関係があるのかどうか分からないが、東日本大震災後の地震の発表は、小さな塾ではかなり影響を受けている。
		その他サービス[学習 塾](経営者)	・1学期の入塾者数が前年度とほぼ同じである。
		設計事務所(所長)	・参議院選挙もあるが、どこで回復に向かうのか。株価の動きも良くない。今のままが続くのか、まだこれ以下があるのかと考えると、変わらない。
		設計事務所(職員)	・デフレ脱却から景気回復への安定した動きとなるか注視する必要がある、当面は大きな変化がないとみている。
		その他住宅[住宅資 材](営業)	・消費税増税前の駆け込み需要は、まだしばらく続きそうである。
	やや悪くなる	一般小売店[家電] (経理担当)	・量販店同士の価格競争が激しいため、消費者が価格に敏感になり、販売価格が折り合わず、量販店に流れていく客が多くみられる。
		百貨店(総務担当)	・実態のない円安や株高はいずれ限界がくるため、賞与は多少上がっても、給与自体は上がらない。加えて、公共料金の値上げ、金利の上昇は個人消費への影響が大きい。
		百貨店(営業企画担 当)	・株式市場が不安定になってきているため、今の好調な状態は少し弱まる。
		コンビニ(経営者)	・景気が良くなることは大いに期待しているが、客にお金を使ってもらうところまでには、まだ時間が相当かかる。
		乗用車販売店(販売担 当)	・今の段階でユーザーが購入するメリットが感じられない。2014年4月より消費税増税などと報道されれば、購入意欲に変化が現れるかもしれない。
		住関連専門店(店長)	・円安と株価の不安定さのためである。
		住関連専門店(統括)	・現在の落ち込みはこの先2~3か月では戻ることがない。
		その他専門店[ドラッ グストア](経営者)	・原料の高騰により、商品原価が上がるのが懸念される。
		都市型ホテル(経営 者)	・引き続き、客単価はあまり上がらず、原価が高騰している状況は、この先も変わらず続く。アベノミクス効果は反映されていない。
		都市型ホテル(スタッ フ)	・結婚式の予約状況は、伸びがあまり良くない。前年比も悪い状態である。
		旅行代理店(従業員)	・円安の基調が止まらず、先行きの同期比の見込みが悪い。
		タクシー運転手	・まだ自分たちの給料が上がってないのに、様々な物の便乗値上げがあるため、やはり財布のひもは固くなっている。あまり良い方向ではない。
		遊園地(職員)	・景気回復の実感はなく、逆に値上がり商品も多いためである。
		設計事務所(所長)	・いずれにしても景気そのものは依然として、まだ非常に地盤が弱い部分がある。海外へ企業が進出していくようでは、もう少し国内の生産が伸びてこない、国内の景気や雇用にしても良くならない。したがって非常に先行きは楽観できない。結果として、それほど良くならない方向ではない。
	悪くなる	一般小売店[食料雑 貨](経営者)	・競合店オープンの影響が日増しに大きくなってきている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔靴・履物〕（店長）	・大企業では賞与や給料も上がるため良いが、我々一般消費者の生活をみると、給料も上がる様子も全然ないし、電気料金などが上がるため、ますます景気は悪くなる。
企業動向 関連 (南関東)	良くなる	金融業（支店長）	・現在のところ、実体経済以上に株価上昇が先行している感があるが、アベノミクス成長戦略が打ち出されており、本格回復のけん引役になりそうである。
		金融業（役員）	・輸出企業の業績回復を受けて、中小企業の受注状況も改善されるのではないかと期待感がある。可処分所得の増加を見込んで、消費態度にも変化がみられる。
不動産業（従業員）		・業者、個人共に住宅用地の引き合いが増加している。ただし、工場用地、商用地等の引き合いは以前と同じく少ない状況が続いている。	
	やや良くなる	食料品製造業（経営者）	・これから良くなるように状況が変化した感じがするため、まだ継続してそのような方向に進む。
出版・印刷・同関連産業（経営者）		・新規事業が開始される予定であり、期待できそうである。	
出版・印刷・同関連産業（経営者）		・企業がそれぞれに努力しているようにも思う。	
出版・印刷・同関連産業（所長）		・消費税増税前の駆け込み需要で、輸入車関連や不動産関連の受注が少し増えていきそうである。これから他の案件も増えることを期待したい。	
輸送用機械器具製造業（経営者）		・景気が良い、悪いというのは自分たちの問題であるが、今まで停滞していたのだから、皆少し雰囲気は良くなったら育てるようなことをしていけないといけな。たった2～3か月で足を引っ張ったり、もう終わりだとか言うことでは何も打ちだすことができない。これからまた消費税も上がるし、年配者も多くなる。グローバル化の時代に景気が1年、2年と続くことはあり得ないので、少しでも良くなったのならばそれを育ててやっていくより仕方がない。	
その他製造業〔化粧品〕（営業担当）		・現段階では、景気が良くなっている数字は出ていない。しかし、アベノミクスの影響が今後じわじわと出てくる空気感はある。	
建設業（経営者）		・動き出した計画が順調に進んでいる。消費者も動き始めた感がある。	
建設業（従業員）		・会社の経営状況が良くなる傾向である。	
建設業（経理担当）		・補助金を当てにした耐震補強工事等が多数出てきている。これからも改築工事が、今までより多く出てきそうである。	
輸送業（経営者）		・6月以降納品先の増加が決定しており、増加分が利益を生むことを期待している。	
輸送業（経営者）		・先は見えないが、せめて少しでも良くなってもらいたい。	
輸送業（総務担当）		・得意先荷主の国内出荷は低調であるが、輸出向けの出荷は計画通り順調であり、船積み準備に入っている。	
通信業（広報担当）		・成長戦略が具現化して、徐々に回復していく。	
金融業（統括）		・徐々に景気が回復してきているような雰囲気があるため、今後も伸びていく。	
不動産業（経営者）		・賃貸市場は相変わらず低迷が続くなか、売買については明るいニュースがある。これに伴い、賃貸にも好転の兆しがあればと期待する。	
不動産業（総務担当）		・マンションの販売も、来年4月の消費税増税による悪影響よりもローン減税の拡充の方に魅力を感じている顧客が多いようなので、今後、徐々にファミリー層のマンション需要が伸びてくる。	
広告代理店（経営者）		・今年ワンショットの新規案件が恐らく動き出すが、これも景気が良いから生じた新規案件ではなく、数年前から予定していた規模を縮小して実施する周年事業なので、景気によるものではない。	
広告代理店（従業員）		・2～3か月先の受注予定が増加している。	
広告代理店（営業担当）		・各社からの新規の良い話が実ると思う。話がない状態からは改善されている。	
税理士		・夏の賞与がここ数年来の数字を大きく上回り、消費税増税前の購買意欲をかき立てるであろう。	
経営コンサルタント	・包装、荷造り材料の卸売会社の社長と話をする機会があった。最近の業績を聞くと、このところ商品の動きが上向きに転じている、どこの企業も包装、荷造り材料は在庫をあまり持たないため、かなり早い段階で企業業績が上向いてくるのではないかと社長は予測していた。限られた業種での話だが、これまでと状況が少し変わっていきそうである。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		税理士	・アメリカの景気が、シェールガス革命等によって少し良くなってきていることで、日本車が売れている。中国の景気はやや不透明で、2～3年前からすると逆の状況になってきている。日本はこの2つの大きな影響を受けていることがある。もう一つに、今までは政治が混乱していたのが、今はアベノミクスで前向きに伸びて観念的に良くなってきていることがある。この3つから良くなっていくような方向に感じている。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	・全体的に、仕事量が増えてきている。
		食料品製造業（経営者）	・今の売上を維持していけそうな動きである。
		繊維工業（従業員）	・今後も原材料高、入手難の現状が続く。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・国外に工場などがある企業は、忙しくなれば全部仕事を国外へ持って行ってしまっている。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・店頭では法人客と実印や銀行印の個人客を相手しているが、両方とも変わらないと感じている。外回り営業は以前に比べるとかなり少なくなっているため、そちらの販売が少ない状況は変わらない。
		出版・印刷・同関連産業（総務担当）	・景気が回復するか、回復しているかという様子見の時期であると思う。受注減の時期になるが、先行きには若干の明るさを感じている。
		化学工業（従業員）	・国内では、販売量が少しずつ減っており、この傾向は続きそうである。しかし、東南アジア方面では、順調に注文が出てきそうであり、期待できる。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・各顧客とも、受注量に大きな増加は見込めないが、新企画が少しずつではあるが決まり始めているため、徐々に回復傾向に向かう。
		金属製品製造業（経営者）	・業界により差が大きいので、景気は変わらないと感じる。輸出が良くなってきているようだが、既に現地生産化されたものを日本で製作するところまでは届いていないように感じる。
		金属製品製造業（経営者）	・自動車部品は残業するほどでもないが回復の兆しがみえてきた。しかし、他では全く心配がない。材料などの値上がりもあり、しばらく時間がかかりそうである。
		一般機械器具製造業（経営者）	・仕事の内容が一定しており、ほとんど変わらない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・今月の売上も悪いが、新しい品物で新規立ち上がりという話が全然ない。手持ちの品物だけで売上増を、ということあまり考えられないので良くなる。困っている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・円安、株高で一般商材は高級品が売れ出しているようだが、設備投資にはまだお金が回っていないようである。輸出で稼ぎたいが、まだ道半ばである。
		電気機械器具製造業（経営者）	・景気は上昇ムードにあり、現実には引き合い、その他で動き始めているが、まだ成約が増えるという状況には入っていないため、まだ見通しとしては力がない状態で、デフレの雰囲気を引きずっている。
		その他製造業〔靴〕（経営者）	・以前の「変わらない」は、景気が落ちるのではないかという不安を含みながらの変わらないであったが、最近の傾向としては上がるのではないかという思いからである。とはいえ目の前で大きく景気が良くなるということはまず考えられないのではないかと。不安がなくなってきたことは確かである。
		建設業（経営者）	・景気対策の効果は、我々のところまでまだ、及んでいない。
		建設業（営業担当）	・政府の景気対策により、円安や株価の上昇に伴い好景気の風が吹いている。しかし、現在資材等の物価が月ごとに上昇し、契約後完成までに時間がかかるものについては利益においても懸念される。
		輸送業（経営者）	・経済の先行きについては非常に判断が難しいところがあるので、一概に方向を打ち出すことは危険性があると思うが、いずれにせよ現在はお金の流れだけの話であり、急に変わるようなことはない。
		金融業（従業員）	・景況改善への期待は高まっているが、中小企業の売上や収益の改善にはつながっていない。業種別では小売業の低迷が目立つようである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		経営コンサルタント	・1年程度は現在の低調のまま推移し、実体経済、物的な消費等の増加などが出てきて初めて中小企業にも増加の波及が出る。
		社会保険労務士	・中小企業にとっては、まだまだ良くなるという要因が見当たらない。
		その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	・夏の参議院選挙までは上昇気分が続くとは思いますが、まだ中小企業に実感はない。また、大きく景気が良くなるような兆候もない。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・取引先などの、現状や先行きに対する予想があまり良くない。不安定な状態がしばらく続きそうである。
		その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	・特に悪化や好転要因も見当たらず、現在の状況が継続していく。
	やや悪くなる	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・今後、印刷用紙にとどまらず、封筒関連の仕入価格も上がると聞いている。
		金属製品製造業（経営者）	・アベノミクス3本目の中小企業への助成金などで、設備投資への助成金を出しているが、それで合理化をしたらそれをみたかのように値下げの交渉がくる。また、電気料金やガス料金、材料共に価格が上昇しているにもかかわらず、価格に転嫁することはできないため、非常に困っている。助成金の効果が表れるように大企業に対する対策をしてもらいたい。
		精密機械器具製造業（経営者）	・このまま大企業のみしか恩恵がないのであれば、98%が中小企業であるため、消費税など支払う金額が増えれば国民はますます苦しくなる。
		金融業（支店長）	・株価の乱高下、円安がまだ続いているなか、取引先の売上等、受注は増えていないということが、まず大きな点で悪くなると思う。やはり円安のため、材料費等はまだまだ上がっており、利幅は取れていないのが現状である。また、全般的に様子見という形で消費がそれほど増えていないため、今後、税金や費用等が増えるということを鑑みると、少し悪くなる。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・少しバブルなのではないか。
悪くなる	建設業（経営者）	・消費税増税で足止めされそうであり、恐怖感がある。	
雇用 関連 (南関東)	良くなる	民間職業紹介機関（職員）	・求人数増加が落ち着く兆しがみえないためである。
	やや良くなる	人材派遣会社（営業担当）	・アベノミクス効果を含め、経済が活性化され、それにけん引されて人材派遣業界の動きも出始めている。ただし、求める人材のスキルレベルが高くなっており、採用に対して慎重な姿勢はあまり変わらないと思われるので、景気は若干良くなるというところである。
		人材派遣会社（支店長）	・引き続き求人数が増加しているためである。
		人材派遣会社（営業担当）	・参議院選挙による特需が期待できる。また、参議院選挙の結果次第で好景気感が安定するかもしれない。
		人材派遣会社（営業担当）	・雇用、給与が改善すれば、上向くのではないか。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・新卒採用数は上向きにあり、夏以降、企業人事への企画提案が増えそうである。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・まだほんの一部ではあるが、新たな設備投資や業務拡張の兆しが見え始めている。それに伴い、経験者や有資格者の求人が出始めている。
		職業安定所（職員）	・企業側の前向きな動きがボーナス等賃金に反映され、労働者の手取り賃金も増え、個人消費の増加につながっていく可能性がある。
		職業安定所（職員）	・新規求職者は引き続き減少傾向にあり、新規求人は今後も微増または横ばいに推移し、雇用環境は緩やかに改善すると思われる。
		職業安定所（職員）	・全体的に求人数が前年同月を上回っている状況がずっと続いているため、この傾向が続く。
		民間職業紹介機関（経営者）	・期待から現実には求人数が増えてきた。採用まではいまだにハードルが高いが、兆しは感じる。
		民間職業紹介機関（経営者）	・企業は既に海外移転を進めており、中長期的に、為替の影響を受けにくい体質づくりを変えることはないと思われる。海外でも活躍できる人材が期待されている。
		民間職業紹介機関（職員）	・我々の業績連動性が高い外部指標のC I 選行指数が改善傾向を示しており、今後も堅調に推移しそうである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・一部円安効果により、輸出関連企業の収益改善がみられるが、国内の景気については依然先行き不透明感が残り、景気回復の実態がみえにくい。
		人材派遣会社（社員）	・おう盛な人材需要が継続すると見込まれる。
		人材派遣会社（社員）	・経営者の何人かと話をしたが、アベノミクスについてよく分からないという人が多かった。円安は輸出関連企業にとっては非常に良いが、輸入材料等に頼って製造している企業にはコスト高が逆風になってきている。更に電気料金等も上がるということで、どうすれば原価を上げないで済むかと模索している人が多く、まだまだ景気回復は難しい。特に賃金に反映させるのは難しいという人が大半である。
		人材派遣会社（社員）	・取引先の担当者と話をしていても、アベノミクスの影響で、という話が増えてきており、一部の製造業でも以前に比べ、雰囲気は明るくなっている。また、急な増産などで今まで人材派遣の利用を控えていた企業からも依頼が入るようになってきている。
		人材派遣会社（支店長）	・派遣受注が増加傾向だが、人材紹介受注はそれほど増えておらず、本格的な景気回復はまだだと思われる。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・年明けに比べると、若干求人数の動きが下がってきている。変わる気配というのはあまり感じられない。
		求人情報誌製作会社（広報担当）	・期待感はあるものの、不景気といわれる期間が長すぎた上に、業績が上向いているという話は周辺企業ではあまり聞かない。それでは給与や賞与に反映されないので、景気は良くならない。
		職業安定所（職員）	・最近の金融市場が不安定である。
		職業安定所（職員）	・現時点では判断、予測が難しい。
		学校〔専修学校〕（就職担当）	・新規求人公開、募集人数の増加などが事前調査結果と変わらない。
	やや悪くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・ニッパチの8月に向けて募集が減少するなかで、夏季限定募集、あるいはボーナス時期の正社員採用は、ほとんど話題にも上らない。どうしのいでいくかということである。何とか頑張るしかない。
悪くなる			—

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (東海)	良くなる	商店街（代表者）	・アベノミクスがずっと効果を発揮しそうな気がする。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・この傾向は来春まで続くとみられる。
		百貨店（販売促進担当）	・投資の利益確定で顧客の手持ち現金が増え、今後も売上は落ちないと予測する。
		百貨店（販売担当）	・消費税増税前の3月まではこのまま上昇カーブを描いていくことが予測される。夏のボーナスが増加し、その先の冬のボーナスも同様に上昇することが予測できれば、消費者は、その先の先を考えた上で、身の丈に合った「今のうちぜいたく」をする可能性が高い。
		スーパー（経営者）	・20年に1度の式年遷宮で、間違いなく多くの参拝客が見込まれる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・販売量の動きは変わらないが、購買意欲が見られるようになり、少し明るい兆しがうかがえる。
		商店街（代表者）	・地上デジタル化以降、販売低迷していたテレビが、そろそろ買換えの時期に差し掛かってきている。
		一般小売店〔高級精肉〕（企画担当）	・お中元商戦に期待する。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・式年遷宮の本番は10月なので、これからさらに参拝者は増える。
		一般小売店〔書店〕（経営者）	・男性客と女性客で買物の仕方に違いが出ている。女性客は良くなっているが、男性客がいま一つである。そのうち良くなるという期待感はある。消費税の増税がはっきりした時にどうなるのかが心配である。
		一般小売店〔和菓子〕（企画担当）	・政権が変わり、とにかく前に進むよう、動いていくと期待している。
		百貨店（売場主任）	・買物意欲のある客が増え、暇に感じた日でも売上予算を達成できている。ポイントアップやセール等に関係なく買う客が多いため、景気は上向いている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（経理担当）	・夏のボーナスが増額となれば、消費マインドも上昇し、お中元商戦にも好影響を与えると期待をしている。
		百貨店（営業企画担当）	・しばらくは単価が上がる一方で来客数が落ちる状態が続くと考えられる。ただし、富士山の世界遺産登録など、地域特有の好材料があるため、今後の景気には少し期待が持てる。
		百貨店（販売担当）	・輸出メインの製造業が多い地域のため、円安で利益が増加し、夏のボーナス時期には消費意欲の向上を期待できる。
		スーパー（店員）	・値下げする商品の減少及び仕入れた商品のさばきをみる限り、順調と思える。
		スーパー（総務担当）	・値上げが予想される加工食品で、特売品が良く売れている。
		スーパー（営業企画）	・実体は伴っていないが、アベノミクスによる好況感の雰囲気、もう少しは景気引上げ効果があると思う。ただし、食品のような生活必需品では大きな変化がなく微増である。消費税率引上げが確定すると、急激に悪くなるのではないかと懸念される。
		スーパー（支店長）	・アベノミクスに本物の景気回復を期待する。
		スーパー（商品開発担当）	・依然として厳しさは変わらず楽観はできないが、自動車関係の労働人口が増えているためか、前年にはなかった好調な場面が少しずつ出てきている。
		コンビニ（企画担当）	・あくまでも、やや良いという空気である。
		コンビニ（エリア担当）	・好調な売上は今後も継続し、前年をクリアできる日も近いと感じる。
		コンビニ（店長）	・暑くなってきて飲料水、アイスクリームが売れるため、業況は良くなる。
		コンビニ（店長）	・ボーナスが出てからの動きを注視している。アベノミクスの効果で多少客の動きが良くなり、買上点数も増える。
		衣料品専門店（販売企画担当）	・少しずつだが、客の購買意欲が高くなってきている。
		乗用車販売店（経営者）	・今後は、ボーナス商戦がスタートする。また来年の消費税アップを視野に入れた行動が、販売・購入側ともに進むものと思われる。
		乗用車販売店（総務担当）	・アベノミクスの効果が、一般消費者にも広がっていくと思う。
		乗用車販売店（販売担当）	・注文の登録残もあり、好調である。ディーゼル車が好調であるため良くなる傾向にある。
		住関連専門店（営業担当）	・新築住宅、マンションの販売が増えており、内装工事も増えている。リフォーム工事、大規模改修工事も、消費税増税前に実施する動きが出ている。公共工事、商業施設にもそのような動きがある。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（営業担当）	・前年と比べ購買行動では円安の影響を受ける。夏休みの海外旅行等は、減少するのではないと思う。
		一般レストラン（従業員）	・景気が悪いとはいえ、当店は冬場より夏場の方が忙しく、来客数も増加する。
		観光型ホテル（経営者）	・7～8月は前年同月の宿泊予約数を上回っているため、やや良くなる。レジャー産業は風水害、地震等に敏感であるため、災害が発生しないことを祈る。
		都市型ホテル（営業担当）	・秋に向けて企業の設備投資も増えて、出張の増加や法人宴会のパーティーも増加傾向になっていく。
		旅行代理店（経営者）	・アベノミクスの効果が、そろそろ出てくるのではないかとと思われる。
		旅行代理店（経営者）	・参議院選挙もあり、選挙後は社会も安定し、景気は少し良くなる。
		旅行代理店（経営者）	・円安、円高と動きが読めない様子ではあるが、夏休みにかけての予約の動きから、景気回復の兆候がみられる。
		タクシー運転手	・今年はボーナスが好調な会社もある。また、暑くなるとタクシーを利用する客が多くなるため、この先は良くなる。
		タクシー運転手	・これまでがひどすぎたため、この先はこのようなことはない。
		タクシー運転手	・例年ゴールデンウィーク明けには売上が極端に減少するが、今年はさほどの落ち込みもみられない。夜の繁華街の人出が多くなり、少しずつでも景気が上向いている。
		通信会社（企画担当）	・株価の戻りはあったものの、まだ回復基調にあるように感じる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（サービス担当）	・新しくスタートしたWeb割（長期割引）申込と光回線の提供開始となる新開局ビルにより、新規申込が増えていく。長期割引に伴い制約期間が付くので、顧客が定着すれば今よりも景気が良くなる。
		美容室（経営者）	・これから夏のボーナス等で、客の財布のひもが少し緩むと期待している。
		住宅販売会社（従業員）	・景気の回復とは言い難いが、消費税増税による一時的な駆け込み受注が見込まれる。
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（経営者）	・今の反響や契約の勢いを継続させる期待感がある。
	変わらない	商店街（代表者）	・これ以上悪くはならないと思うが、良くなる要素も少ないので平行線で推移する。
		商店街（代表者）	・客は進物用の商品は買うが、自分のための商品購入が伸びてこない限り、良くなっているという判断はできない。
		商店街（代表者）	・個人消費者の客単価が上がらないのは仕方ないが、法人需要がもう少し力強くなると、横ばいをキープするのがやっとという感じである。
		商店街（代表者）	・良くなるか悪くなるかは、今後の株価次第である。
		一般小売店〔結納品〕（経営者）	・地方都市の個人消費はまだまだ上向いていないため、しばらくはこの状態が続く。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・飲食店への来客数は増えているが、単価は上がっていない。財布のひもは、まだまだ固い。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・急激に良くなるものでもない。少しずつでも良くなることを祈るばかりである。
		一般小売店〔薬局〕（経営者）	・同業の経営者の中では、院外処方箋はまあまあだが一般の小売りはさっぱりとの声が多い。安い生活必需品の動きは良いが、高額品の動きはまだ悪い。ドリンクの動きは最近が良いようで、これから夏場に向かって多少期待感を持っている。
		一般小売店〔自然食品〕（経営者）	・客との会話から、収入が増えないことには支出も増えないという雰囲気がよくわかる。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	・景気が良くなっているという話を周りでは聞かない。
		一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・贈答品の売行きは変わらない。財布のひもの固さは同じように続く。自分に対するご褒美は増えるが、他人へのプレゼント、お返しは控える傾向になる。
		一般小売店〔果物〕（店員）	・3か月ほどでは変わらない。
		百貨店（売場主任）	・先月までの生活を見つめ直して、また財布のひもを締め始めたように思う。
		百貨店（企画担当）	・全アイテムの売上が好調というわけではない。時計宝飾品やインポートバッグなどの高額品は、数か月来好調を維持しているが、衣料品や雑貨類の売上は前年同月を継続的に超えておらず、気温に影響されている傾向が強い。
		百貨店（販売担当）	・前年に比べて長雨ではないので、来月に期待している。
		百貨店（営業企画担当）	・急激な株安など直近では不安材料があり、消費マインドの冷え込みを懸念するが、現状のトレンドは維持可能と予測する。
		スーパー（経営者）	・8月ごろの景気は円安の効果が続き、輸出は伸びてくる。食料品、日用雑貨、衣料等は円安で輸入商品が徐々に高くなる。輸出企業の収益は増えるが、家庭の支出は増えて、家計を預かる主婦は大変である。各種の税金、社会保険料は徐々に上がってきているため、全体的には変わらない状態である。
		スーパー（店長）	・円安が商品の原価アップに繋がり、商品価格に転嫁できないため厳しくなる。消費者の買い控え等も考えられ、不安要素が非常に多い。
		スーパー（店長）	・製造業等の景気は向上しているものの、食料品等は節約癖が続いており、まだまだ食料品関係には好景気が回ってこない。
		スーパー（店長）	・給与が現実には増えておらず、可処分所得の増加には至っていない。
		スーパー（販売促進担当）	・競合大型店を調査しても、客の購入動向が良くなっていない。来客数を多く集めているとは思えず、エリアを広げて販促を仕掛けている状態のようである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（店長）	・顧客の高齢化により、個人向け販売量が減っている。ただし、景気回復感があるので、法人利用に期待している。トータルでは横ばいでないか。
		コンビニ（エリア担当）	・夏季は、気温や天気が大きく左右されそうな状況である。
		コンビニ（商品開発担当）	・景気が回復しているとされるが、今のところ客単価の動きからは感じられない。景気が上向くのはもう少し先になる。
		衣料品専門店（経営者）	・バーゲンに対しても、予算を決めて必要な物しか買わない傾向になっている。
		家電量販店（店員）	・販売数は減っているが予算は上がっている。トータルとしては変わらない結果となりそうである。
		家電量販店（店員）	・消費税が上がる来年3月には、駆け込みによる販売額が増えると思うが、この先の景気として、3か月先に良くなるようには思えない。
		家電量販店（店員）	・単価は横ばいである。円安になるため輸出は伸びるが、混沌としているため、分からない。
		乗用車販売店（経営者）	・特に良くなる見込みがない。
		乗用車販売店（経営者）	・一部の業界や企業では好転するが、その他の多くの企業への影響は考えにくい。
		乗用車販売店（従業員）	・足元では悪くなく、想定よりは良いという感覚である。良くなり続けるかどうか、判断する材料が乏しい。
		乗用車販売店（従業員）	・人気車種の品薄状態は続いている。客からの引き合いは多いが要求はきつく、市場環境はまだまだ厳しい状態が続いている。客から懐具合が暖まってきたという言葉はなく、まだ、景気が上向きそうだという気持ちが、先行しているようにみられる。
		乗用車販売店（従業員）	・来月より新型車や特別仕様車が続々登場してくるが、現時点での客の反応はいま一つで、正直、期待しかねる状況である。世間はアベノミクスでにぎわっているが、実際のところ大多数の客では、車のような高額商品への支出は、必要がないと慎重であることがうかがえる。
		乗用車販売店（経理担当）	・景況感は、良くも悪くもないといったところである。物価の上昇に給料の上昇がついていけば良いが、期待薄である。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・現在の状況が継続したとして、アベノミクスの効果が出るのは年末くらいとみる。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・現状を打破する企画がない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（経理担当）	・売上高は、前年同月比0.1%増加、来客数は、1.8%の減少で、総合的にみると景気は変わらずである。
		スナック（経営者）	・客の財布のひもが固く、期待できない。
		観光型ホテル（販売担当）	・世の中がいくらテンポ良く変化しても、当業界は何か月も遅れて現れてくる。夏の企画の造成を急ぎ、従前より早めに販売を始め、少しでも良い感触をつかめることに努力したい。
		都市型ホテル（従業員）	・予約数から、先行きも横ばいと判断している。
		都市型ホテル（経営者）	・まだまだ景気が良くなっているという実感は持てない。
		都市型ホテル（支配人）	・5月は勢いがあつたが、予約が直前に入ることに変わりない。
		都市型ホテル（経理担当）	・宿泊者数の状況や単価の低下による。
		旅行代理店（経営者）	・小規模グループ客は比較的堅調に受注している。ボーナスが実際に出ないと動きづらいつの、夏の個人客の受注には不安定要素がある。良くなりそうな気配はあるが、確実性がない。
		旅行代理店（経営者）	・国の様々な政策の効果は、末端まで届いているようには思えない。人材育成、シャッター商店街振興、成長戦略は、10年前から言われている気がする。待機児童数ゼロを実現した横浜市のように、従来型でなく旧来の考えに囚われない政策の実行と検証を行うべきである。今後の少子・高齢化を乗り切るのは、スピード感のある大胆な行動である。先送りする程、問題が山積みとなり構造改革ができなくなっていくが、既に20年同じままである。景気の先行きは変わらないとしか言いようがない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（従業員）	・旅行業にとっては、アベノミクスの効果を受けるにはまだ時間がかかる。円安で海外旅行の受注は減るため、良くなるのはまだ先である。
		タクシー運転手	・良くなったと言う人よりも、良くないと言う人の方が多いため、まだ景気は変わらない。
		テーマパーク（職員）	・期待としては良くなると思っていたものの、現状から、サービス業としては景気が良くなるのはもう少し先になると思う。
		ゴルフ場（企画担当）	・引き続き7～8月も入場者の予約が前年を上回っている。これから天候に大きく左右される時期となるが、ある程度このまま好調に推移すると考える。
		理美容室（経営者）	・客との会話では、景気が良いという実感はないが、良くなる気がするとの声を聞く。
		美顔美容室（経営者）	・7月末までキャンペーンがあるため、このままのペースでいく。
		美容室（経営者）	・3月の売上が良かったため、6、7月にパーマの客がまた来る頃であり、良くなって欲しい。
		美容室（経営者）	・業種によって良い悪いが出ている。当業種はあまり変わらない。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・仕入先との原価交渉に、時間を費やすことになりそうである。
		設計事務所（職員）	・これから景気が上向く方向感はあるが、民間はまだまだ冷え切っており、平行状態が続く。
		住宅販売会社（従業員）	・土地の売買実績が伸びてきているようだが、住宅の新築の動きは、いまだに鈍いままである。ただ借入金利の上昇が広く知れ渡ると、動きが出ようかと思う。
		その他住宅〔室内装飾業〕（経営者）	・元請けの受注状況を見ると、今後売上は増加しそうだが効果が出てくるのはしばらく先のことである。一般ユーザーからの引き合いは、先月と同程度の件数である。
		やや悪くなる	
百貨店（経理担当）	・これまで景気は一本調子で上向きのトレンドにあったが、このところ株価に乱高下が生じるなど、変調が出始めている。これに伴って、消費者心理も、いったんは後退する局面になるのではないかと。		
スーパー（店員）	・半年以内にまた競合店ができるため、客が分散される。		
コンビニ（エリア担当）	・株価は上がってきているが、賃金の上昇や、工場の稼働状況が良くなることはなく、来客数にも反映されていない。競争店ができて厳しくなっており、しばらくはこうした状況が続く。		
コンビニ（エリア担当）	・競争店の出店により、既存店の売上はますます厳しくなっていく。		
コンビニ（店長）	・アベノミクスの効果は全く実感できていない。		
乗用車販売店（従業員）	・自治体首長の発言問題や、政府が不安定になってきているため、景気が悪くなる。		
乗用車販売店（従業員）	・動き自体は悪くなく、販売にも繋がっていく気がしている。自動車業界、中古車業界をみていると、やや良くなっていく実感はある。		
その他専門店〔貴金属〕（店長）	・まだ実感としては変わらないが、少しずつでも給料が上がれば消費も伸びてくる。しかし、長期景気低迷のため、一気に好転とはいかない。		
一般レストラン（経営者）	・客として富裕層は少ない。今の政権になってから厳しい思いをしている人は少なくない。したがって、外食や外での飲酒は少なくなる。		
その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・急激に上昇している反動が現れる頃である。		
通信会社（営業担当）	・株価上昇、円安に伴う物価の上昇、近く行われる参議院選挙や諸外国への援助等が話題となっているが、国民の1人として景気回復を感じることはない。景気の回復として期待できることは何であろうか。		
通信会社（営業担当）	・他社の新しいサービスが登場するとの情報により、販売量の低迷が続くとみる。		
テーマパーク（職員）	・地方へのアベノミクスの効果は、まだまだ少ない。		
設計事務所（経営者）	・案件数が増加する気配が全くなく、むしろ単価が下がっている。良くなる要素が全くない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	住宅販売会社（経営者）	・建物の請負契約は、10月の契約から消費税が上がるため、それ以降の契約件数が減る。
		スーパー（経営者）	・ここ数か月の小売店の売上の悪さからは、この先も良くなる要素がなく、さらに悪化していく。
		スーパー（店長）	・周りの競争店舗の状況は変化がない見込みであるが、それに加え、円安により油、小麦粉、ツナ缶、パンなどの値上げが計画されている。客の財布のひもが固くなり、支出にも影響する。
		乗用車販売店（従業員）	・新車の発売予定も全くなく、この2か月の販売状況を考慮すると、かなり厳しい状況が見込まれる。
		パチンコ店（経営者）	・業界が低単価販売へ動き、客も追隨しているため、薄利多売傾向では集客容量の大きな店舗が有利となる。
		理容室（経営者）	・まだまだ景気が良くなるとは思えない。
企業動向関連 (東海)	良くなる	企業広告制作業（経営者）	・好景気感はあるが、対外情勢や為替変動の影響で容易にしぼむことも考えられる。しかし景気はムードが重要であり、現政権がよほどの失敗を犯さない限り、回復傾向は続く。
	やや良くなる	食料品製造業（経営企画担当）	・夏季ボーナスが前年を上回る予想の企業も多く、消費意欲の活発化が期待できる。お中元商戦の盛り上がり期待する。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・8月は飲食店の閑散時期に入るため、広告出稿が控えられる。7月までに営業実績を上げて精一杯カバーしたい。
		化学工業（総務秘書）	・アベノミクスで消費マインドは楽観的になっている印象がある。
		窯業・土石製品製造業（社員）	・3か月後までには、最量販品の問題点を解決して、以前の受注量に回復している見込みである。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・新製品の受注予測も計画に対して上振れしており、年末に向けて売上の伸びが期待できる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・弊社のオリジナル製品の販売が期待できるため、3か月先は今より良くなる。
		建設業（経営者）	・今後しばらくはこの状況が続くと思われる。しかし、消費税増税前の駆け込み需要は、思ったほどはない。
		輸送業（従業員）	・依然として燃料費が高止まりで厳しい。特にトラック長距離輸送では荷主への運賃転嫁が難しく、対応に苦慮する業者がある。一方で、景気の好転感とともにドライバーの確保が難しくなっている。高速道路の割引見直しの動きもあって、実施されると燃料と通行料のダブルパンチが、物流業界には大きな痛手となることを懸念している。
		輸送業（エリア担当）	・輸出が伸びると予想する。
		輸送業（エリア担当）	・全体的に目に見えてはつきり良くなって来た感じは受けないが、自動車メーカー関連の荷動きが活発になってきている。
		輸送業（エリア担当）	・荷物の動きは良く、人員不足のため時給単価を上げて募集をしている。しかし、既存社員の給料が上がるまでには、まだ時間がかかると思われる。
		金融業（従業員）	・現在も多少は良くなっている。将来の見込みも良い方に傾いているという声が多い。
		金融業（法人営業担当）	・取引先の自動車部品メーカーの受注が増加している。
		不動産業（開発担当）	・消費税増税前の駆け込み期待している。
		広告代理店（制作担当）	・地元での大型商業施設の開設に伴い、それなりに活気が始まってきている。それが広告に繋がる期待感がある。
		経営コンサルタント	・海外を中心に不動産購入の流れが続いている。リートの取得も活発となっている。不動産の需給の流れはこれから広がってくる。株高もあり、景気は良くなっていく。
		会計事務所（社会保険労務士）	・顧問先では、受注量が増加してきているところが多く、資金繰りに少し余裕が出てきている。
		その他サービス業 [ソフト開発]（社員）	・7月以降、システム開発の案件が複数立ち上がる見込みである。
		その他サービス業 [広告印刷]（従業員）	・動きは出てきたように思うので、後はそれが現実の受注に結び付くことに期待をしている。
	変わらない	紙加工品 [段ボール] 製造業（経営者）	・販売量が減少する予定との報告が多く、新規増加の報告がない状態である。良くなると裏づけるデータ及び報告に欠けている。
		パルプ・紙・紙加工品 製造業（総務担当）	・アベノミクスでムードはいいが、受注量、販売量に反映されるには、まだまだ時間がかかる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		化学工業（人事担当）	・経済の実態には景気の良さがあまりみられず、円安による物価高が懸念され、しばらく足踏みするのではないかと思う。
		金属製品製造業（経営者）	・引き合いは、変わらない状況で推移している。
		一般機械器具製造業（営業担当）	・受注量は増えているが、今まで円高でストップしていた案件や買得な在庫処分案件等であって、新たな需要が増加しているようには見えない。特に中国では、人件費の高騰から携帯電話、PC関連ユーザーでも設備投資予算の増額を控えているという情報が入っているため、継続して受注量が増えるとは思えない。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・一定水準まで景気は回復しているが、更なる上昇に至るまでには、今一步である。
		電気機械器具製造業	・放送、通信業界では、競争に打ち勝つための設備投資が必要であるが、資本力の弱いところは、消費者マインドの冷え込みから実施に踏み出せないところがあり、業界内全体をみるとバラつきがある。当分の間、この傾向が続きそうである。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・現在の状態が続くかどうか、先行きは不透明である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・円安による素材の値上がりが見込まれるため、販売量が極端に増えることはない。今後2～3か月で悪くなるか良くなるかの判断は難しい。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・生産計画はしばらく上向き傾向が続くが、勢いよく上がるわけではない。
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・円安で輸出が伸びても今の水準は続く。トラック等の物流業者は、ガソリンの値上げもあって苦しいと聞いており、良いところと相半ばで今のままの推移となる。
		建設業（営業担当）	・消費税が上がるか上がらないという状況の中で、家を建築する際の浄化槽の設置と下水道整備の時期が合わないところがある。2～3か月ではわからないため、それほど変わることはない。
		輸送業（経営者）	・景気に対する荷主の見方は必ずしも楽観的ではなく、輸入も必要量だけに絞っている。また、強気の発注もみられない。
		通信会社（法人営業担当）	・円安、株価上昇の波及効果が見えてこない。総理の強いリーダーシップはよく理解でき期待感は大いだが、長年の経済停滞や過去の政治スタイルのため庶民は疲弊している。企業マインドも冷えたままである。
		金融業（企画担当）	・現状はマインドの変化の及ぼす影響が大きく、企業業績の回復とともに実態面がついてくるかどうかのポイントである。もうしばらく様子をみないと、現時点ではわからない。
		不動産業（経営者）	・現状維持の状態が今しばらくは続く。
		不動産業（管理担当）	・オフィス需要はどこの事務所も慎重な構えを崩していない。良くなる兆しが見えない。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・お中元商戦のチラシに期待したいが、告知方法がネットへ変わりつつあり、新聞業界では厳しさを感じる。
		行政書士	・一部の業者からは、上向きなのは大手と株価であり、零細業者は燃料価格が上がり、周囲でも景気は良くなっていないとの声を聞く。
		公認会計士	・中小企業の今後の業績は、直接・間接的に影響する輸入品の価格高騰に対して、どの程度、価格転嫁や売上数量の増加が図れるかによって影響を受ける。
		会計事務所（職員）	・消費関連が勢いづくには、賃金上昇が伴わないと続かないが、中小企業レベルでは昇給には至ってない。インフレによる物価高が先行する。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・この2か月位でいろいろな批判も出てくる。私見としては、対ドル円95円、ユーロ120円程度が理想である。相場は行き過ぎが起るため、判断が難しい。設備投資は少しは良い状態である。
	やや悪くなる	印刷業（営業担当）	・景気は良くなりつつあるとメディアで言われているが、それは一部の大手のみである。中小企業ではその心配がない。全体をみて、景気の上昇、下降を発表しなければいけない。
		鉄鋼業（経営者）	・原料や燃料の値上げが先行しているが、大手企業への製品納入単価は引き上げどころか再見積の名目で下げられている。かえって赤字幅を広げるばかりの中小企業が多い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金属製品製造業（従業員）	・同業者間でも当面の仕事量は少なくなると言われている。
		輸送業（エリア担当）	・日本の企業は、売上が増えないなかで、人件費の抑制等いかに支出を減らすかに頭を痛めている。しかし、人件費を抑制しては賃金は上がらないため、景気は伸びない。
	悪くなる	窯業・土石製品製造業（経理担当）	・新設住宅着工戸数の減少による。
雇用 関連 (東海)	良くなる	人材派遣会社（営業担当）	・周辺の企業でもアベノミクスによる景気上昇に期待している。株価上昇、円安が後押しする。
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・株高、NISA（少額投資非課税制度）の影響があり、証券業界を中心に金融業界の求人需要が高まっている。
		人材派遣会社（社員）	・正社員雇用の求人が堅調である。
		人材派遣会社（営業担当）	・現政権への期待による。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・国内自動車販売台数は、今後も微増ながらも右肩上がり、生産における労働時間も増加する。
		職業安定所（職員）	・円安の効果で製造業からの求人が増加傾向にある。
		職業安定所（職員）	・このまま求人数が増加し、求職者数が減少すると考えられる。
		職業安定所（職員）	・雇用環境は良くなっている様子だが、事業所からは金利上昇が経営を圧迫すると懸念する向きもある。
		職業安定所（職員）	・求人倍率の伸びが、減少から若干ではあるが、横ばいかやや良くなると推測している。
		職業安定所（職員）	・為替相場の変動はあるが円安基調となれば、自動車関連部品製造業の受注増による増員が、ある程度見込まれる。ただし、サプライヤーは原材料費が高騰する一方で、製品単価を上げられないのが現状である。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・中小企業への景気改善の波は、大手企業に比べて遅れて来ると予想され、今後、景気改善に繋がるものと期待する。
	学校〔専門学校〕（就職担当）	・前年同期と比較して、就職フォーラムへの参加数が増加している。従来からの企業の採用数が増加する一方、新規の企業の参加もある。	
	変わらない	人材派遣会社（経営企画）	・期が変わっても関東での予算削減が継続している。関東が好転する兆しは見えず、現在の状況が継続する見込みである。
		人材派遣会社（経営者）	・技術者派遣の業界では、ミスマッチが非常に多い。求人に対して、求職者がマッチングしていない状況が続いており、これからも続く。
新聞社〔求人広告〕（営業担当）		・政策次第である。	
職業安定所（職員）		・求人は増えつつあるが、求職者の数にはそれほど変化がない。	
職業安定所（職員）		・ここにきて急激な株価上昇と円安への反動で、株価が下落しているため、少し警戒している。しばらく様子をみていく状況になる。	
民間職業紹介機関（営業担当）		・円安に振れて企業の利益率は上がっているが、その動きで採用数増加に踏み切るかどうかは、まだ予断を許さない。	
やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・悪い現状において、さらに先の予約状況も悪く、今から予約が入っても例年並みには及ばない。	
	人材派遣会社（支店長）	・自由化派遣の期間抵触日に伴う派遣終了が予定されており、一時的な悪化が避けられない状況となっている。	
	悪くなる	—	—

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北陸)	良くなる	—	—
	やや良くなる	一般小売店〔精肉〕（店長）	・客単価が上がってきたように思われ、この傾向は続くように感じている。
百貨店（売場主任）		・高額商品だけではなく、一般商品でも売上単価の上昇傾向がみえる。気温も上昇しており、季節商材に期待できるとともに、ボーナスアップによる需要拡大が見込めそうである。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・まだまだ状況としては厳しいが、ボーナス商戦を控える6月に、買上があるのではないかと期待もある。ボーナスの増えた分が、生鮮食品を中心とした加工食品などスーパーマーケットにある程度の優位性のある食品で買上アップにつながってほしい。
		コンビニ（経営者）	・前年同月比で満足できる数字になるかどうかは判断できかねるが、気温の上昇とともに飲料の売行きが伸びることで、現在よりはやや上がることは間違いない。
		衣料品専門店（経営者）	・連日、株高や円安、高額品が売れだしているなどの報道がされているため、そろそろ身近で変化が表れるに違いないと信じている。そうでなければ、何のための政策なのか。ちまたでは20%くらいの企業、20%くらいの人が潤う政策だといわれている。
		家電量販店（店長）	・テレビの前年同月割れは避けられないが、今年の夏は猛暑が予想されているため、早期のエアコン購入が見込まれる。
		乗用車販売店（経営者）	・高級車の注文が少し増加してきている。
		乗用車販売店（役員）	・消費税率の引上げを控えて、政官財挙げて景気浮揚に腐心しなければならぬと思っているため、より一層のアベノミクス効果の浸透が図られると考えられる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・メーカー側の在庫計画が前年同月を上回ることや来客数の伸びが想定されることより、衣料品を中心に、夏物のバーゲンやクリアランスの売上に期待が持てる。
		観光型旅館（経営者）	・ゴールデンウィーク期間中、近隣のドライブインでは従来よりも少し単価の高い商品が売れ始めたと聞いている。今のところは宿泊料金までは波及していないが、一時の安売り競争からは少し脱却できるかもしれない。
		観光型旅館（スタッフ）	・予約状況は7月のみ前年同月を下回っているが、7月以外は前年同月を上回っている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・予約状況は順調に入っており、特にインバウンドは前年同月比倍増の勢いである。
		旅行代理店（従業員）	・問い合わせも多く、来客数及び単価ともに上昇している。高価格商品が一定に売れている。
		タクシー運転手	・深夜の繁華街は今でも良くないが、夜は多少であるが客が出てきている。
		その他レジャー施設（職員）	・『戦略市場創造プラン』で「健康寿命延長産業」として取上げられたり、孫の教育に関する支出についての贈与税の非課税制度が創設されたことに期待している。
		住宅販売会社（経営者）	・消費税率引上げ前の駆け込み需要が見込める。
		住宅販売会社（従業員）	・展示場の来場者数は思ったより伸びていないが、消費税率の引上げ後を見据えた大手他社の価格攻勢が目立ち、収益の確保は厳しくなることが予想されるが、受注増は期待できる。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税率の引上げによる受注先食い状況は、加熱していくと思われる。
	変わらない	商店街（代表者）	・6月下旬はセールであるため、大きな動きは期待できない。
		商店街（代表者）	・ここ2～3日暑い日が続いたが、夏物が動き出すというより、外出を控え来客数が減る傾向の方が強かったように思う。これから一気に暑くなるとどうなるか不安である。
		一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	・円安や株高はもちろん功罪併せ持つが、弊社では一部に悪影響がある。円安により冷凍エビなど輸入食材がこのところ急激に値上げされていることなどへの克服すべき課題は分かっているが、今のところ販売価格に転嫁できていない。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・市場全体が景気が良いと感じるのは、客の購買の様子などからまだまだ先と思われる。
		百貨店（営業担当）	・消費税率引上げや電気料金の高騰など、徐々に客の財布のひもが固くなっているのが実情ではないかと思う。現在、買い控えをしている様子は無いが、これから徐々に、財布のひもが固くなっていくのではないかと思われる。高額品が売れる一方で、財布のひもを締めるという客も多くなっているため、3か月後は、今とほぼ変わらないのではないかと思う。
		スーパー（店長）	・周りの状況を確認しても、この先も特に変化は無いとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（総務担当）	・円安による原材料費アップのため、一部メーカーからは値上げの要請が届いている。今後販売価格も上げざるを得ないため、消費者の動きが心配である。
		スーパー（総務担当）	・円安の影響で食品も値上げが相次いでおり、今後は資材なども含めた値上げが予想される。ただし、生活必需品に多大な影響を与えるにしても、もう少し後になると思われ、当面は変わらないと感じる。
		コンビニ（店長）	・本来であれば前年同月比越えで景気上向きを期待したいが、今月は全面改装の内的要因が無かったら同比率は割れていた程度の伸びでしかない。今後は、株価の不安定や住宅金利の上昇など、住宅ローンのある世代の方には不安ばかりが残る時代である。消費税率の引上げなども今後控えているなか、景気よくお金を使う方は少ないと考えられるが、今から夏となり、今月は前年同月比越えなどの近況から、今後2～3か月先の状況は変わらないと予想される。
		コンビニ（店舗管理）	・一部の大手企業を除いて、今春の給与のベースアップも叶わなかった。「株高」や「円安」と景気の良い話で一時的には明るい空気も漂ったが、ここへきて実態としての景気が好転していないと感じているように思う。
		衣料品専門店（経営者）	・昨今の株の不安定や消費税率の引上げなどもあり、一部大企業は好転しているといわれているが、中小企業までは好況感が回ってきていないし、期待もできそうにない。
		衣料品専門店（総括）	・外的要因が無ければ需要が上がらない状況では、景気は良くなるという判断はできない。
		家電量販店（店長）	・アベノミクス効果がよく取上げられているが、あまり効果がみえない。4Kテレビなど話題の商品が出ているが、単価が上がってきていない。
		家電量販店（管理本部）	・お金を投じてどうしても欲しいと思えるようなインパクトの強い新製品が少ない。
		乗用車販売店（経営者）	・車の購入は夏の賞与をみてからという言葉をよく聞くので、しばらくは変わらない。
		自動車備品販売店（従業員）	・集客面はまだ前年並みの状態が続いているが、主力の商品単価下落が続いており、回復の兆しがみえない状況で依然厳しい環境が続くと判断する。
		住関連専門店（店長）	・消費税率引上げによる新築の駆け込み需要に合わせて多少は上がってくると予想されるが、どこまで上がるかは不明である。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・輸出関連など景気が良くなっている業界もあるかと思うが、小売業界まで波及するのはまだまだである。引き続き辛い日々が続くと予想している。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・消費税率の引上げにより高価格商品は売れているが、低価格商品はより安い物を求めて一般消費者は購入している状況に変化は無い。
		その他専門店〔医薬品〕（総務担当）	・景気のよし悪しは、非日常性の商品が売れるかどうかにかかわるが、化粧品や健康食品、ダイエット関連商品の販売額に目立った変化は無く、今後もこの傾向は続くと考える。
		高級レストラン（スタッフ）	・予約の状況は、前年同月と同様に推移している。
		一般レストラン（店長）	・アベノミクスの地方波及を期待しているが、なかなか目に見えて表れない。反動が怖い。
		スナック（経営者）	・一部の職種だけが良いなかで、また、ムードだけが先行しているなかで、乱高下があり、どちらともいえない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・足元の予約状況は前年同月並みで推移している。欧米系の外国人の旅行客は確かに増えているが、全体の売上を底上げするには至っていない。日本人も旅行客はやや増えてきており、マインドは上向きになってきているように感じるが、商品の内容や価格に対する目は相変わらず厳しい。
		旅行代理店（従業員）	・ムード先行で、実態がまだまだ伴っていない。相変わらず一般の個人客は、必要最低限の旅行であっても価格には大変敏感である。また、価格帯も二極化している。「行きたければどこへでも行く」という旅行ニーズは、まだまだ望めない。
		タクシー運転手	・夏のボーナスも期待できるのではないかと。また、港では今後県などが豪華客船を一層誘致しているため、夏場にかけて入港が予定されている。経済効果があるため、引き続き期待できると思う。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（職員）	・株式市場の乱高下が続く、ちまたに不安が広がっており、先行きを楽観する人はまだまだ少ないように見受けられる。
		通信会社（営業担当）	・今月は販売量に大きな変化はこれといって無く、前年同月と同様の解約数であるため、現状すぐに状況が良くなるとは考えにくい。
		通信会社（営業担当）	・現在の端末への訴求が、しばらく継続するものと思われる。
		テーマパーク（職員）	・国内旅行の先行予約をみても、他の地区で大きなイベントなどもあり、全体としての動きは当地域は鈍くなっている。また、海外からのインバウンドも、これからはオフシーズンになり伸び率もそれほど多くは期待できないため、全体としては今の水準が変わらず続くのではないかと思う。
		競輪場（職員）	・アベノミクス効果が全く感じられない。ギャンブルにお金を使う余裕はまだまだ無さそうである。
		美容室（経営者）	・株価の上昇が一般消費者の消費意欲につながっている状況は今のところみられておらず、この先もまだ期待できない。
		住宅販売会社（従業員）	・前年同月と比較すると客の動きや成約数は増えているものの、2割増しには達していない。慎重な客層も多く、決断するまでの期間は長くなっていると思う。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税率引上げ前の9月末までに、請負契約の締結に向けて駆け込み需要が予想される。
		やや悪くなる	
百貨店（営業担当）	・今の予測ではボーナスはかなり期待ができると見通しているが、実質、客の買物の仕方をみていると、高額品に関してはどれだけ価格が下がるかであったり、迷って結局買わないといった慎重な購買行動がみられ、先はみえない。		
スーパー（統括）	・今後、円安に対する影響は、たとえば車のガソリンであるとか、電気やガス料金などの値上げということになってくると、生活に対する支出の割合が変わってくる。そうした場合、スーパーを始めとした小売業に関しては、全体の消費のなかで食料品に影響が出ると思う。		
通信会社（役員）	・少数ニーズをターゲットとした商品やサービスの多様化が進展しており、既存のテレビやインターネットサービスの提供シェアは、今後少しずつ低下していくと予想している。		
悪くなる	—	—	
企業 動向 関連 (北陸)	良くなる	一般機械器具製造業（総務担当）	・国内市場で工作機械の高齢化が進んでいるので、設備投資に後押しが必要との発表もあり、国内の中小企業からの受注が期待できる。
		食料品製造業（役員）	・今後も販売価格の高い製品の売行きが増加してくる状況が予測され、かつ主原料の価格が下がってくる傾向にあるため、やや良くなるものと思っている。
		繊維工業（経営者）	・コストアップが先行しているが、今の為替水準が続けば純輸出関連を中心に受注の回復が期待される。
		化学工業（総務担当）	・今後の生産予定が増加傾向にある。
		金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注の入り具合をみて、やや良くなる。
		建設業（経営者）	・4～5月の工事量が手薄の状態から、5月に受注した工事に取り掛かることができることで人手の余剰感は薄まる。
		金融業（融資担当）	・現在のアベノミクスへの期待による株価や為替相場の回復が継続し、実態の需要が出てくることで、企業への実績の動きが期待できる。
		金融業（融資担当）	・耐久消費財あるいは生活消費財ともに、今は良いとはいえない状態、気分のみが先行している状態と思われる。ただし、株価の上昇などもあるため、耐久消費財から先行して伸びていくことが考えられる。
		司法書士	・高い価格帯のマンションの売行きが良かったり、住宅新築の案件が多い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		税理士（所長）	・様々な経済の諸施策が出てくるように感じる。税理士としても、様々な中小企業の支援の施策について行政から案内があるが、中小企業に過度の事務負担とならないことを願っている。やはり景気は気分であるため、行政の役割というのが勢いをつけるアクション、パッションだと思われる。そちらの方でいくと、今の景気に水を差すことは無いのではないかと思う。あまりきめ細かい政策は必要なく、とにかく輸出できる環境を整えて頂く、やはり輸出立国であると思うため、そういったところを期待したい。
	変わらない	繊維工業（経営者）	・消費の動きはまだ先であると思う。今年の秋冬の生産がやや勢いはあるかなというところである。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・住宅市場は消費税率の引上げの影響が出る年末から拡大するとみているので、ここ2～3か月先では今と同じような状況が続くと考えている。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・円安や株高による高揚感で消費が伸びてきていると感じるが、景気上昇の持続には輸入品の価格上昇など懸念事項がある。
		精密機械器具製造業（経営者）	・アベノミクスや為替に期待感はあるものの、トレンドとしてまだ実際の数字に表れてきていると断言できない状況である。国内大手チェーン店からの高額商品の更なる受注が決まるなどの現象はあるが、全体的にはまだしばらく今のよう状況が続くと思われる。
		建設業（総務担当）	・依然として低価格で受注競争をする業者もあり、適正な採算での受注確保が難しい状況が続くと思われる。一方で、労務費を中心にコストが上昇傾向にあり、依然と厳しい環境が見込まれる。
		輸送業（配車担当）	・国内向けの物量が今後極端に増加するとは思えない。
		通信業（営業担当）	・建設会社あたりが従来は疲弊していたが、最近は徐々に元気になってきているように感じる。通信設備の更改も進んできている。
		不動産業（経営者）	・個人客から問い合わせや申込が多い状態になっている。この状態が2か月程度は続くと思われるが、3か月先となると落ちてくるの見通しである。
	やや悪くなる	新聞販売店〔広告〕（従業員）	・今年は5月に入っても暑くなく、夏物の衣料品の売行きが良いとは思えない。その反動が、7～8月のチラシ出稿量の減少につながるのではないかとと思われる。
	悪くなる	—	—
雇用 関連 (北陸)	良くなる	—	—
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・求人数が増えるにつれ、優秀な人材の確保や育成に取り組む、マッチング率を高めるように努める。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・建設業など一部の業種については人出不足感があり、求人に対する意欲は高いように感じる。この動きがほかの業種にも回ってくれば、景気は良くなっていくのではないかと考えている。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	・企業での人材不足が発生してこそ派遣需要に結びつくものである。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・正社員の大きな雇用計画が出てこない。
		職業安定所（職員）	・求人が増加傾向にあるが、パート求人などの非正規求人が中心となっており、正社員の求人はほとんど増加していない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は前年同月比17.7%増加したが、県内の主要産業である製造業の求人数の回復がみられない。
		職業安定所（職員）	・公共事業の増加など期待も大きいですが、原材料の高騰など、円安の影響が求人にも出ている。
		民間職業紹介機関（経営者）	・公共事業など実際に仕事として増加してこない、求人増につながらない状況にあり、まだ増えた実感が無い。
	やや悪くなる	—	—
	悪くなる	—	—

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向	良くなる	乗用車販売店（営業担当）	・新型車の販売もあるため、かなり景気は上向くと予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
関連 (近畿)		乗用車販売店（販売担当）	・円安、株高の影響が徐々に始まる。客との会話では、株などで利益が出ているという人も多い。
		都市型ホテル（客室担当）	・現在の状況をそのままに、夏も個人旅行の予約が堅調に入っている。海外客も増えており、悪くなる要素が見当たらない。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・夏の賞与が増加する期待があり、購買意欲の上昇に期待している。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・客の出入りが少し激しくなってきた、売上も増加しているので、これから良くなる。
		一般小売店〔酒〕（社員）	・円安や日経平均株価の上昇が情報媒体で報じられていることから、全体的に良い雰囲気が広がっていく。
		百貨店（売場主任）	・大規模な改装が実施された直後となるため、来客数が大幅に増え、売上も現在よりも大幅に増加する。また、株価が一時的に下がっているものの、景気回復に対する期待は大きく、客の消費も上向くことが予測される。
		百貨店（売場主任）	・製造業を中心とした夏のボーナスの増加に伴い、景況感は良くなると思うものの、購買に結びつくかどうかは販売側のプロモーション次第となる。
		百貨店（売場主任）	・高額商品の購買者だけでなく、中間層も景気の明るいニュースに反応している。劇的に購買量が増えることは期待できないが、来シーズンの衣料品の予約会などの反応をみると、目先の実需以外のプチゼいたくへの意識は高まっていると感じる。
		百貨店（企画担当）	・関西地域については、4月の梅田地区の商業施設開業に続き、来月中旬には阿倍野地区での開業も控えており、客の購買意欲が高まることが予想される。
		百貨店（営業担当）	・郊外に立地しているので回復の動きは遅いが、期待している。
		百貨店（服飾品担当）	・話題の新スポットが関西圏に多く出現し、外出したくなる要因ができたこともあり、消費意欲がかきたてられる状況にある。また、株価上昇のニュースを景気の良さの表れと考える客が多いことから、消費も増えやすくなる。
		百貨店（サービス担当）	・来月中旬に先行開業する新商業施設のオープン効果で、売上と来客数の増加は間違いないが、固定客としての囲い込みができるかが今後の課題である。
		百貨店（店長）	・一時的な株価の乱高下はあるものの、今後もアベノミクスにより、当面の間は安定した経済状況が続く。
		百貨店（マネージャー）	・製造業中心であるが、夏のボーナスが増えるほか、アベノミクスに対しての高評価の表れである政権の支持率も高い。
		スーパー（店長）	・来月は気温の上昇とともに猛暑の予想も出ており、季節品の動きが昨年より早く出るなど、大きなプラス要因になる可能性がある。ただし、食品を中心に節約の動きがあり、株価も不安定感が強いなど、実質的な景気回復にはまだ時間がかかりそうである。
		スーパー（店長）	・アベノミクスの影響で給与や賞与を上げた会社の従業員による、消費の増加が期待される。
		スーパー（店長）	・総じて季節商材の動きが良いことで、来月以降の好調につながるほか、買上点数も維持できている。
		スーパー（広報担当）	・原材料相場の高騰や円安により、各種商品の値上げが相次ぐことが懸念されるが、賞与の支給で多少なりとも手取り収入の増加が実感できれば、耐久消費財を中心に消費のプラス効果が期待できる。
		スーパー（社員）	・飲料関連、乳製品などの日配食品や防虫剤など、春夏物商材の動きの良い状態が続いている。また、そう菜など、売り方を工夫したこだわり商品などの伸びも良く、当面はこの傾向が続くと期待している。
		コンビニ（経営者）	・店舗の前のマンションが完成し、6月中旬ごろから入居が始まる予定で、隣のマンションとともに徐々に来客数が増える見込みである。
コンビニ（経営者）	・ファストフードの売上はまだ伸びそうで、高額商品の売上増も期待できるため、客単価の上昇が予想される。		
コンビニ（広告担当）	・アベノミクスの効果に期待したいが、現状の動きからは読み取れない。		
衣料品専門店（営業・販売担当）	・客の欲しい洋服についての会話が多くなってきている。		
家電量販店（経営者）	・消費税の増税前に、単価の高い家電製品への買換えを検討する傾向が強まっており、販売量の増加が見込まれる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（店長）	・電気料金の引上げによる省エネ家電商品の販売台数の増加と、消費増税前の商品単価アップが好調の要因である。ただし、消費増税後の来年4月以降の需要は、極端に落ちると予想される。
		家電量販店（店員）	・アベノミクス効果で、世間は景気が上向き傾向にあると思っているが、まだ庶民にとっては上向きにはなっていないのが現実である。
		家電量販店（企画担当）	・アベノミクス効果が出てきており、各メーカーから新製品が発売されたこともあってスマートフォン需要が高まるほか、電気料金の値上げによって省エネ家電への買換えが進む。
		乗用車販売店（経営者）	・参議院選挙に向けて一段と景気浮揚策が講じられるが、株価が非常に不安定になってきた気がする。
		乗用車販売店（経営者）	・女性の財布のひもは緩くなってきているが、男性の財布はいまだに固い。男性が使わなければ、大きなお金が動かず、空気も重くなってきている。
		乗用車販売店（経営者）	・現政権への安心感や、株高、円安など消費を刺激する材料が多いため、今後もしばらくは景気の改善が続く。
		住関連専門店（店員）	・気温の上昇で春夏商材の実績が上向きになる。
		その他専門店〔スポーツ用品〕（経理担当）	・大手企業のボーナスがアップするという情報が心強い。これが給与の増加に波及していけば、更に良くなる。
		高級レストラン（支配人）	・販売量、来客数、単価共に、わずかであるが前年を上回りつつあり、今後に期待できる。
		その他飲食〔コーヒーショップ〕（店長）	・来客数が徐々に伸びてきている。低単価のセルフ喫茶業のため、単価に大きな変化はみられないが、実質的な給与増がまだないながらも、先行きに対して心理的な余裕が感じられるようになってきた。低価格商品に限定されるものの、消費行動が回復してきたのではないかと感じる。
		観光型ホテル（経営者）	・市制70周年ということもあってイベントも多く、街自体が活気付いている。
		観光型ホテル（経営者）	・現時点では景気が良くなっているとの実感はないが、世の中の動き全体が明るくなってきているため、将来的には良くなる。
		観光型旅館（経営者）	・夏休みの予約も好調であるが、単価が伸びるかが問題である。
		観光型旅館（団体役員）	・宿泊人員は前年を7か月連続で上回っており、ようやく2年前の水準に戻ってきた。この調子でいくと、今年度の宿泊総数は昨年を上回り、2年前に追いつく。
		都市型ホテル（支配人）	・国内景気の上昇による、景気回復を期待する。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊はまだ不透明であるが、宴会などの7、8月の先行予約は順調で、会議だけの会合が宴会付きになったりしている。ただし、来月の宴会は前年比で記録的なマイナスとなる。定例会合の中止など、ある程度の理由はあるが、その代わりとなる会合が全く動かない。宿泊も動きが鈍く、全体収入も大きく減少する。
		都市型ホテル（総務担当）	・中高年の来客数が現在目立っているが、今後、夏季賞与が増額支給されることから、会社勤めの若い世代の来客が期待できる。
		タクシー運転手	・ボーナスのシーズンであり、暑くなるため、少しの距離でもタクシーの利用が見込まれる。夜の街も、人が今までよりも多い気がする。
		タクシー運転手	・今までは8時間勤務で7～8千円から1万2～3千円程度の売上であったが、ここ最近では1万6～7千円程度と良くなっている。
		タクシー運転手	・5月の連休が明けて、低下気味の景気であるが、これからは梅雨や株主総会、参議院選挙で上がっていく。
		タクシー運転手	・景気回復の見通しが徐々に具体化しつつあり、流し営業での客単価は変わらないが、乗車機会の増加により営業収入に反映されている。
		通信会社（経営者）	・地域経済まで实体经济の回復が広がることを期待する。
		通信会社（社員）	・新規商品などの投入を夏以降に控えており、需要の増加に期待している。少しずつであるが、割安感を打ち出す販促から目新しさ（スマートテレビなど）のアピールに変えていることで、反応が良くなりつつある。
		ゴルフ場（支配人）	・客の予約状況の推移をみると、前年と比べて改善しているので、今後も少しずつ良くなっていく。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	・経営者のやる気が良い方向に変わっている。最近、株価は乱高下しているが、それが落ち着き、投機的な動きが静かになれば、景気は徐々に改善していく。
		その他サービス〔マッサージ〕（スタッフ）	・オイルマッサージのため服を脱ぐので、毎年暖かい時期になると来客数が増える。
		その他サービス〔生命保険〕（営業担当）	・景気の先行きに対する期待感が高まっているため、生命保険への加入を検討する客が増える。
		住宅販売会社（総務担当）	・消費増税前の駆け込み需要が少し出始めている感がある。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・9月末までの注文住宅の契約は、消費増税の対象外なので、駆け込み需要が見込まれる。
		商店街（代表者）	・各店舗で扱う商品は高級志向の商品とは異なり、質や消費する量も毎日限られている。アベノミクスによる先行きへの期待を感じられるのは、現実としてはまだまだ先である。
		一般小売店〔花〕（経営者）	・株価の上昇などの明るいニュースもあるが、小売業に浸透するにはまだまだ時間が必要である。
		一般小売店〔精肉〕（管理担当）	・外食部門では法人の利用が少し増えてきたが、売上よりも経費の増加が進んでいるので、どう判断すればよいのか分からない。最終的にプラスとなれば歓迎すべき動きであるが、まだ実感はない。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・すぐに変動することは考えにくく、横ばいで推移する。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・ここ数日株価が下落している様子を見ると、今後の景気に対して楽観視はできないが、悪化していくようにも思えない。
		一般小売店〔野菜〕（店長）	・閉店の増加など、最後の淘汰が始まっている。
		百貨店（売場主任）	・阿倍野地区で商業施設がオープンするなど、周りの環境が厳しくなる。
		百貨店（売場主任）	・政治経済の長期安定化が優先である。
		百貨店（営業担当）	・美術品、高級ブランド品、金製品などの高額品のイベント開催が増えている。株価の上昇が続けば、あとしばらくは買上金額が増える。
		百貨店（商品担当）	・大阪市内は小売店舗の出店ラッシュが続いていて、商圈間の競合が一層激しくなり、予断を許さない状況である。
		百貨店（商品担当）	・一部の富裕層だけが高額品の活発な購入を続けている様子で、一般的な消費者については、天候が良いため夏物の婦人服や日ざし関連の雑貨が好調なだけである。まだ景気が良いとまではいえない。
		百貨店（外商担当）	・全体的な景気の上昇は続くと考えられるが、関西地区ではエリア間競争が非常に激しくなっており、4月末の大型商業施設のオープンの影響を受けて売上は減っている。6月には阿倍野地区の百貨店の増床オープンも控えており、その影響により売上の減少は避けられない。
		百貨店（売場マネージャー）	・一般消費者に関する景気回復はまだであり、消費行動が変化、向上するにはまだ少し時間がかかる。また、気候、気温（猛暑）の予測から、消費行動がどのように変化するのが読みづらい。
		百貨店（売場マネージャー）	・担当エリアの特性上、株価の動きが顧客動向に大きく影響する。乱高下が続いている状況では、一時は緩んだように思われた財布のひもが元に戻り、様子見の状況が続く。
		スーパー（経営者）	・今月末に近隣で商業施設が開店するので、その影響をどのくらい受けるのかが非常に気がかりである。毎日の商品管理に気をつけている。
スーパー（経営者）	・円安や政府売渡価格の上昇などで生活必需品の値上げが相次ぐ。ただし、店頭価格のデフレ傾向は落ち着きをみせたといっても、仕入価格だけが上昇し、販売価格は変わらない状況に陥る可能性が高く、収益面では厳しくなる。一方、昨年7月が冷夏であったのに対し、今年は平年並みの予想であり、これがプラス要因となる。		
スーパー（店長）	・直近の株価は不安定であり、参議院選挙の結果次第で景気の流れも左右される可能性がある。客の購買動向をみても、堅実で慎重な動きとなっている。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・大阪近郊では、梅田地区や神戸で商業施設のオープンがあったばかりだが、市内中心部や阿倍野地区でもオープンするため、既存店舗の落ち込みと新規店舗の目標割れが続く。円安で増えている外国人旅行者の取り込みも我々の業態では困難であり、先行きは不透明である。
		スーパー（店長）	・今のトレンド以下にはならない。
		スーパー（経理担当）	・ボーナスが増加見込みで、株高効果などの好要因も残るなか、寒さが長引いた後で急に暑くなり、梅雨入りも例年より早いなど、不安定な気温や天候が続いている。猛暑予測もあるが、天候要因が売上の動向を大きく左右する懸念がある。
		スーパー（販売担当）	・競合相手との価格競争により、平均単価が下がる傾向にある。客の買上数量は昨年を超えているが、単価が下がっている分、買上金額が昨年を上回る状況にはならない。
		スーパー（開発担当）	・アベノミクスで円安、株高となっているが、あまり中小企業には関係ない。一部の大企業のみが潤っている感が否めない。
		コンビニ（店長）	・気温の上昇に伴って来店頻度が増え、来客数は増えるが、全体的に売上が伸びることはない。円安や株高などで景気回復のムードはあるが、不安定であり、身の回りの景気に影響が出るほどではない。
		衣料品専門店（販売担当）	・電気料金などの光熱費の値上げや、消費税の増税もあり、景気が良くなってもどうなるか分からない。
		乗用車販売店（経営者）	・一般的に車の入庫台数が減ってきている。2、3か月先の新車購入や車検、そのほかの予約も少ない。
		乗用車販売店（経営者）	・車を手放す客の割合が高まっており、購入する客と比べれば、まだまだ数が増える。
		乗用車販売店（販売担当）	・一部の車種でマイナーチェンジがあるものの、材料としては乏しい。
		乗用車販売店（営業担当）	・直近の2、3か月で、購買意欲を刺激するような要素は見当たらない。
		住関連専門店（店長）	・消費者の購買意欲や心理的な安心感は政治次第の部分があるため、選挙が終わらないと何ともいえない。
		その他専門店〔宝石〕（経営者）	・政府から第3の矢が発表されて、それが着実に実行されると、今の景気の良さは続く。ただし、外的要因があれば変わる。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・これからじめじめとした、体には良くない気候になってくる。気分的に明るくなるような香りや制汗剤、除湿商品の品ぞろえや、客の購入意欲を高めるような陳列を行うことで、売上の増加を期待している。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・まだまだ何も変わらない。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・このまま円安が続けば、円高時代のコストで作られた商品の価格を合わせると、利益が得られないという状況が考えられる。
		その他小売〔インターネット通販〕（企画担当）	・晩夏物から初秋物の季節となってくるが、消費税の増税論議の活発化が予想される。先行きの不安が増大するため、積極的な購買は期待しにくい。
		高級レストラン（スタッフ）	・暑くなるにつれて、職場近くで飲んで帰るグループ客が増えてくる。
		一般レストラン（経営者）	・飲食業界がアベノミクス効果の恩恵を受けるまでには、まだまだ時間がかかる。
		一般レストラン（経営者）	・毎年暑さで昼は特に人通りが少なくなる。夜の来客数に期待したいが、先行きは分からない。
		一般レストラン（経営者）	・総選挙までは現状維持であり、その後の消費増税決定以降は、心理的なショックを上回る好況感があるかどうかである。
		一般レストラン（経理担当）	・円安が続けば海外からの観光客の増加が期待されるが、消費税の増税を考慮するとあまり景気は良くならない。
		その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・テレビでは景気が良くなっているという報道があるが、一部のみであり、来客数は以前と変わらない。
		観光型ホテル（経営者）	・今後、団体旅行の宿泊単価や付帯消費が改善すれば本物だが、そこまではまだまだ時間がかかる。
		観光型旅館（経営者）	・例年よりも予約の動きが少しだけ早い。
		観光型旅館（経営者）	・ガソリン価格が下がりつつあるが、電気やガス料金の値上がりのほか、食料品の一部値上がりによる景気への影響が出てくる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（マネージャー）	・宿泊部門は、先行予約が前年をやや上回る状況で堅調に推移すると思われるが、宴会部門の法人利用は株価が乱高下する状況が続くようであれば、大きく増加するとは思えない。
		旅行代理店（経営者）	・国内旅行は、アベノミクス効果でやや昨年を上回って動きそうである。一方、円安の影響による、海外旅行の価格上昇や買物での割高感がどのように効いてくるのか、予断を許さない。
		旅行代理店（従業員）	・参議院選挙までは、現状が大きく変わることはない。
		旅行代理店（広報担当）	・下期に向けては、消費税率の引上げを実際のものとする客の消費が、耐久消費財の方に回る。ただし、今年は年末年始の休みが9連休となり、既に予約の申込もある。
		観光名所（経理担当）	・リニューアル効果が最大限に得られるように、継続的な情報発信を行っていく。何とか夏場までは好調を維持したい。
		観光名所（経理担当）	・今月も天候に恵まれ、連休も好天が続いたことで、昨年を上回る来街者があり、売上は前年比で7.3%増となっている。なかでもガラス体験教室はかなり伸びた。やはり手作りへの関心は強く、もっと受け入れ体制を拡充すべく計画している。アベノミクスの心理的効果かもしれないが、少し購買単価が上がってきたように感じる。
		その他レジャー施設 〔イベントホール〕 (職員)	・最近の株価の異常な変動、急激な円安など、アベノミクスの結果が異様な形で表れている。いつ円高になるかも分からない状況下で、今後を予測するのは難しい。
		その他レジャー施設 〔球場〕（経理担当）	・6月はプロ野球の交流戦があり、8月には人気球団の試合がある。ほかにも人気グループのコンサートがあり、夏休み期間でもあるため、多数の来場者を見込んでいる。
		美容室（経営者）	・ボーナスの支給額が増えた人はそれなりに使うかもしれないが、年金生活者の財布のひもは固い。店で景気が良かった話は聞かれず、今月は周囲で4店舗が閉店となっている。
		その他サービス〔ビデオ・CDレンタル〕 (エリア担当)	・レンタル売上は前年比で復調の兆しがみられるものの、本格的な回復とはまだまだ言い難い。書籍売上のアップ策として、カフェなどの導入で集客を目指す。
		住宅販売会社（従業員）	・新政権への期待感を反映した株価の上昇は既に一服感が出ており、実体経済が上向くまでにはまだまだ時間がかかる。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・不動産市場では価格調整が予想される。一般的な景気は、今後の長期金利の動向によっては後退もあり得る。
		その他住宅〔情報誌〕 (編集者)	・現在以上に上向き感が高まらないと思われるものの、消費税率アップ前の駆け込み契約を促進する動きが、景況感にどこまで影響を与えるのか、今後注視する必要がある。
やや悪くなる		商店街（代表者）	・今後は勝ち組のいない競争が続くと予想される。
		一般小売店〔時計〕 (経営者)	・メーカーや代理店の体制が少しずつ厳しくなってきたり、無償修理の範囲が狭められており、対応の難しさを感じるものが多くなっている。メーカー側の経費削減や、購入者の使い方の問題もあり、間に立つ小売店としては予想外の出費も考えなければならぬ。この先、この状況が良い方向に変わることは望めそうにない。
		一般小売店〔花〕（店長）	・梅雨の影響が多少出てくる。
		百貨店（売場主任）	・株価の変動による消費面での資産効果の低下や、前年と同様に、夏物セールスタート時期の分散化による購買意欲の低下などが懸念される。
		百貨店（企画担当）	・ボリューム層の客の購買が伸びていないなかで、来月には阿倍野地区での商業施設の先行開業があるなど、競合状況は更に厳しくなる。現在は固定客の売上を支えに前年並みの売上で推移しているが、消費税率引上げ前の駆け込み需要が出てくるまでは、厳しい状況が続く。
		百貨店（販促担当）	・アベノミクス効果と競合相手の増加が、売上を相殺し合う状況が続く。特に、夏休み期間は新商業施設への来場の増加が予測され、やや悪くなる可能性もある。商圏人口に対し、商業施設が過剰となるなか、消耗戦となることが危惧される。
		スーパー（企画担当）	・株高、円安でデフレ脱却や景気の回復感はあるが、スーパー業界の競争は激しく、現状維持すらできない状況は変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（企画）	・7月以降、円安の影響で商品の仕入原価が上昇に転じ、一部では店頭売価の値上げも行われる。消費者は価格によりシビアとなることから、競争が激しくなり、業界内での淘汰が進む。また、電気料金などの生活関連の出費も増加していることから、追い打ちの形となる。現状は株価や円安の恩恵を受けるよりも、圧倒的に負の影響を受ける人が多い。
		スーパー（管理担当）	・円安による原材料価格の高騰が、追い打ちとなりそうである。
		衣料品専門店（経営者）	・電気料金やガス料金などが値上がりしているが、個人の収入は増加していないため、節約ムードがより一層高まる。
		一般レストラン（スタッフ）	・景気の回復期待を象徴していた株価が急落したほか、円安による輸入品の価格上昇が生活に影響を及ぼし、家計支出が抑えられる懸念がある。
		一般レストラン（店員）	・新たに大手スーパーがオープンするが、フードコートがあるため影響が出てくる。
		スナック（経営者）	・可もなく不可もなくといったところで、このままでは大きな改善は期待できない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・例年のビジネス街での宴会利用が伸び悩んでおり、観光目的での宿泊やランチ、ディナーの予約は期待できるものの、大きな収入は見込めない。
		テーマパーク（職員）	・温暖化の影響か、夏としての暑さを感じる期間が長くなっているため、夏の暑さを売りにできない娯楽施設などはやはり厳しくなる。
		競輪場（職員）	・本当のところは景気が良いとは思えない。今後は、見せかけの景気につられて金利が上昇する。
		競艇場（職員）	・1人当たりの購買単価は現在と同じ水準で推移していくと考えているが、来客数は減少傾向にあり、全体としては悪くなる。
		住宅販売会社（経営者）	・業界内で、大手と中小零細企業の格差が広がりつつあるように感じる。全体の景気が変わるだけで、中小零細企業にその恩恵が及びにくい状況になってきている。
		住宅販売会社（従業員）	・土地価格の上昇と建築費の急激な高騰により、新築マンションの販売価格は上昇傾向にあり、消費者のマインドが冷えてくると予想される。
	悪くなる	衣料品専門店（経営者）	・アベノミクスとマスコミは報じているが、実際のところ消費者は洋服を買わない。昨年以上に買わなくなっており、新しいトレンドやヒット商品がない。
企業 動向 関連	良くなる	木材木製品製造業（経営者）	・新規事業が立ち上がり、売上、利益共に大幅に増える。
		その他非製造業〔商社〕（営業担当）	・問い合わせ件数、受注量が増加傾向にある。
(近畿)	やや良くなる	食料品製造業（営業担当）	・真夏日、猛暑日がどれぐらい続くかによるが、各メーカーが熱中症対策の新商品を出してくるので、やや良くなる。
		食料品製造業（経理担当）	・アベノミクス効果で景気は上昇する雰囲気になっている。
		家具及び木材木製品製造業（営業担当）	・配達が忙しくなってきた。
		出版・印刷・同関連産業（情報企画担当）	・消費増税の決定が目前に迫っており、いろいろと産業界では販促に力を入れている様子がかがえる。大学や専門学校は新しく独自の学科を増やして生徒の確保を図っているほか、医療業界では新薬の開発、ジェネリックの利用拡大など、国が取組を進めている関係で、今後も期待できる産業ととらえている。
		金属製品製造業（経営者）	・適度な円安となり、海外案件の引き合いが出てきているため、成約に期待している。
		金属製品製造業（営業担当）	・建築関連について、初夏から動きが出てくるという取引先がある。
		電気機械器具製造業（経営者）	・お金が市場にあふれてきて、みんなが金持ちになったような気になるため、一時的に経済は良くなる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・円安、株高という環境が長く続けば、景気が良い方向に向かう。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・昨年を上回る出荷の動きは続くが、今後は円安の影響で海外生産品の利益の維持が厳しくなることが課題である。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・今年は早い梅雨入りと、7～9月の猛暑予想により、夏物商品の荷動きの活発化が期待できる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他製造業〔履物〕 (団体職員)	・アベノミクスの効果により円安と株価上昇が続き、企業業績も回復してきている。その効果が、個人消費にも出てくることを期待している。
		金融業(営業担当)	・これから少しずつ景気は回復する。
		金融業〔投資運用業〕 (代表)	・アベノミクスが有効に機能しつつある。
		広告代理店(営業担当)	・月後半から気温も上がってきており、夏に向けての衣料が動き出してきている。
		広告代理店(営業担当)	・各企業からの広告出稿の問い合わせが、先々でも増えてきている。
		経営コンサルタント	・製造業も小売業も多額の助成金が投入されているお陰で、経営者の事業意欲は高まっているように感じる。
		その他サービス業〔店舗開発〕 (従業員)	・梅田地区での商業施設の開業効果は思いのほか大きく、同施設にあやかろうと、同地区のショッピングセンターや大型店舗も盛り上がりを見せている。良い意味で競合意識が働いているため、今夏も盛り上がりが見込める。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕 (営業担当)	・客の間に、お金を使おうという意識が出てきているように感じる。
		その他非製造業〔機械器具卸〕 (経営者)	・夏物商材が少し動くような気がする。
		その他非製造業〔民間放送〕 (従業員)	・夏に向けたビールなどの季節商品の広告展開が、アベノミクス効果で大幅な増加が見込まれる。
変わらない		食料品製造業(従業員)	・電気料金の値上げに続き、為替の影響で多くの原料メーカーから値上げ要請がきており、7月に値上げが集中する。競争も激しいが、量販店の力が強くて製品価格への転嫁が難しいため、厳しい状況が続く。今以上に販売量が増加する要因も見当たらないので、現状が維持できればよい。
		繊維工業(団体職員)	・取引先からの受注は必要最小限であり、受注量の予測も難しい。コストアップなどの状況も、当面は変わらない。
		繊維工業(総務担当)	・為替レートが輸入コスト面でプラスに働くことは考えにくい。
		パルプ・紙・紙加工品製造業(経営者)	・円安の影響でややマイナス要因が先行するようであるが、大幅な悪化はない。
		化学工業(経営者)	・世間で騒がれているほど引き合いや新たな物件が出てきているわけではなく、当面は大きな変動はない。
		化学工業(管理担当)	・アベノミクスの効果が不透明なほか、参議院選挙の与党の獲得議員数によって経済状況が変化する。
		プラスチック製品製造業(経営者)	・一部の高額商品がよく売れているといった報道を耳にする。が、末端の部品加工業への発注増は見込めない。従来客の深掘りや、新規開拓を頑張っても現状維持であり、気を抜けない状態が続く。
		金属製品製造業(管理担当)	・今後も、新規の大型物件の受注予定がない。
		一般機械器具製造業(経営者)	・当社の商品は設備投資関連が多いが、顧客の投資意欲は活発ではないため、市場が活性化するまでには時間がかかる。
		電気機械器具製造業(営業担当)	・5月に入ってから、仕事の受注がなくなっている。
		電気機械器具製造業(営業担当)	・受注がなく、引き合いも少ない。
		輸送用機械器具製造業(経理担当)	・引き合いのウェイトは圧倒的に海外の物件が多く、まだまだ国内での活発な動きはみられない。
		建設業(経営者)	・円安などに伴う原材料価格の高騰で、コストの上昇が懸念される。
		建設業(経営者)	・受注は微増のままで変わらない。ただし、公共事業などでこれまで動きのなかった電線類の地中化などが動き出すケースもあり、それらが具体化してくると良くなってくる。ただし、それはもう少し先である。
		建設業(経営者)	・建設資材の高騰や技能労務者の不足が進んでいるほか、民間関係は相変わらず厳しい価格競争が続いている。
		輸送業(営業担当)	・工場からの荷物は少し増えたが、輸入原料が値上がりして利益が減っているようである。
		輸送業(商品管理担当)	・年々インターネット販売が増えており、家具もネットで購入されるため、配達量は変わらない。
		輸送業(営業担当)	・配達件数が増える好材料もないので、今後もこの状況が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		輸送業（営業所長）	・円安や株高でにぎわう大企業がある一方、中小企業までは浸透しない。	
		通信業（管理担当）	・変化する要素が見当たらない。	
		不動産業（営業担当）	・土地を売りたいという客は増えてきているが、そこに建物を建てても、賃貸で住みたいという需要が神戸には少ない。神戸から事業所が出ていくことで、従業員の社宅ニーズも減少していく。	
		司法書士	・マスコミなどでは景気回復の動きは感じられるものの、自分の周りではそこまで至っていない。この状態が当分続く。	
		コピーサービス業（店長）	・新規客、リピート客共に増加傾向にあるため、極端な落ち込みはない。今後は目新しさを求める客にうまくアピールできるかがポイントとなる。	
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・株価が上がりにくく、これから少しは良くなってほしい。	
		その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・先行きが不透明である。	
やや悪くなる		繊維工業（総務担当）	・染め加工賃や、絹糸などの原材料の値上げ要請がきている。販売先にその理解や承諾を得ることが、最近の販売のスタートになっており、うまく転嫁できていないため、利益の圧迫は避けられない。	
		化学工業（企画担当）	・輸入原料の多い食品分野は、原料コスト上昇分の製品価格への転嫁が必須であるが、ユーザーとの調整がスムーズにいくとは考えにくい。	
		一般機械器具製造業（設計担当）	・賃金の増加が見込めない状態で、物価が上昇しそうである。	
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・回復に向かっていると思っていた折込が、5月は極端に落ち込んでいる。	
		広告代理店（営業担当）	・少し円高が進み、様子見をしている企業もあるので、しばらくは広告出稿が増えるとは思えない。	
		経営コンサルタント	・大手電機メーカーの業績悪化の影響が大きい。	
悪くなる	—	—		
雇用 関連 (近畿)	良くなる	—	—	
	やや良くなる	人材派遣会社（経営者）	・アベノミクス効果の今後が注目されるが、関西の経営者は非常に慎重であり、参議院選挙まではあまり動かない。	
		人材派遣会社（経営者）	・求人数が増えるなど、企業が活気付いている。	
		人材派遣会社（支店長）	・新工場の設立や大型商業施設の開業で、求人数や求職者数も増えてきているため、少しずつであるが良くなっていく。求人にも様々な職種があるが、接客業や製造業を中心に今後も増える見込みである。	
		人材派遣会社（営業担当）	・アベノミクスの影響で当面は好調が持続するであろうが、第3の矢である成長戦略を実行に移さなければ、市場の期待を裏切ることになる。	
		人材派遣会社（役員）	・登録者数は堅調に推移しており、事務系の派遣オーダーも前年比、前月比共に順調に伸びている。	
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・今後夏場に入ってくると、猛暑になる予想もあり、若干は景気が上昇傾向となる。	
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・しっかりと手ごたえは感じられないが、アベノミクスなどの効果により、各企業とも前向きな動きが感じられる。	
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・求人広告の堅調さは既に6か月以上続いており、一時的なものとは思えない。景気は上向いている。	
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・良くなってほしいという思いも含め、成長戦略が着実に動き始めることで、関西の経済や人材基盤が安定する。	
		職業安定所（職員）	・新規求人数が前年と比べて増加している。	
		職業安定所（職員）	・新規求人数が前年比で17.5%増加しており、主要産業別にみると、生活関連サービス業、娯楽業以外の産業が前年を上回っている。製造業も3か月ぶりに前年を上回っているが、電気料金の値上げによる悪影響などの懸念材料も残り、今後の雇用への影響を注視する必要がある。	
		民間職業紹介機関（大学担当）	・景気回復に伴い、緩やかな雇用の回復が期待できる。	
		学校〔大学〕（就職担当）	・金融情勢は少し不透明であるが、期待している。	
		変わらない	人材派遣会社（支店長）	・参議院選挙まではあまり動きがない。
			アウトソーシング企業（社員）	・求職者に動きがない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・景気の先行き判断指数は改善傾向にあるが、この結果が雇用面に効果があるかどうかはもう少し様子を見る必要がある。
		職業安定所（職員）	・現状は景気の緩やかな回復という表現がぴったりと当てはまる。新規求人の動きは順調であり、世間では景気の浮揚感が漂っている。ただし、事業所からはまだ増産や設備投資にはつながっていないとか、円安によってダメージを受けているとの声も多く、今後更に良くなるかどうかは不透明である。
		民間職業紹介機関（職員）	・建設関連の事業所は人手不足の状況を訴え続けており、求人数が減少するような動きはない。
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（企画担当）	・人にも物にも積極的な投資が行われている状況にはみえない。そのため、回復の兆候が出てきても波に乗り遅れる。
	悪くなる	—	—

8. 中国（地域別調査機関：公益社団法人中国地方総合研究センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (中国)	良くなる	家電量販店（企画担当）	・接客中に客から景気について前向きな話、将来的に購入したい商品の話が出てくる事が多いので、良くなっていくと思う。
		乗用車販売店（店長）	・客の反応が良く、これから増販月に向け売上が落ち込む要素はない。
	やや良くなる	商店街（理事）	・地方に景気回復が来るのはもう少し後である。
		商店街（代表者）	・アベノミクスの影響により、株高、円安で国内の景気はいい方向に向かい、夏の商戦は良くなると思われる。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・この様子だと良くなる傾向にあるように感じ、期待している。
		百貨店（営業担当）	・株価の変動が大きくなり、不安定な市場となっているが、基本的には景気は上向き傾向にある。収入が少しでも増える期待があれば、購買意欲も増してくる。収入増を実感できるボーナス時期に入ってくるので期待している。
		百貨店（営業担当）	・高額商品の動きが良くなっていく。
		百貨店（売場担当）	・今後も、百貨店がなくなった地域からの客流入は続くと思われる。
		スーパー（店長）	・各企業の業績が上がり、夏のボーナスが出たら景気は良くなる。一般消費者に購買意欲が出てくる。
		スーパー（店長）	・地元基幹産業の自動車工場で止まっていた生産ラインも稼働し始め、若干ではあるが、客単価が上昇傾向にある。
		スーパー（店長）	・消費者の実質収入は増えていないが、先行きに期待感がある。地方都市でも消費の微増が期待できる。
		スーパー（店長）	・暑くなれば飲料やアイスなどが売れる。
		スーパー（営業システム担当）	・安さよりも商品の品質をみる傾向が出てきた。旬の生鮮食品などは値段を下げないが、売上は良い。客の意識に余裕が出てきたのではないかと。
		家電量販店（店長）	・エアコンなどの販売量が増え、テレビの需要も上がる。
		家電量販店（販売担当）	・ボーナス商戦に入る。
		乗用車販売店（業務担当）	・新商品の投入が予定されているので、その効果で多少上向く。
		乗用車販売店（営業担当）	・一般家庭はまだまだ厳しいが、富裕層が潤い始めている。株価の影響が大きいとの話がよく聞かれる。
		乗用車販売店（副店長）	・消費税増税前の駆け込み需要が次第に顕在化してくる。
		乗用車販売店（営業担当）	・来場者はやや増え、全体需要もやや伸びている。
		自動車備品販売店（経営者）	・アベノミクス効果で公共事業など、予定されていた事業が早目に実施され始めた。その関連業種や工事をする地域が活性化される。しかし、その後は不透明である。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	・ウィンドウショッピングだけでなく、商品を買う客が増えてくる。
		その他専門店〔海産物〕（経営者）	・秋に向かって団体客の予約を含めた問い合わせも増えてきた。
その他専門店〔ファッション雑貨〕（従業員）	・今後はボーナス時期になり、多少良くなる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他小売〔ショッピングセンター〕（支配人）	・景気対策が具体的に実行され、夏のボーナスやベースアップによる可処分所得増加の実感が一般消費者に浸透すれば、一気に購買意欲につながる。それまでは疑心暗鬼が続き、一般消費財への反応までは時間がかかる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（運営担当）	・実体経済の回復については、実感を得るまで時間を要するが、ここ最近の株価上昇による景況感の改善は、消費者の購買活動においても良い影響を与えている。
		一般レストラン（経営者）	・金利が上がるなどのマイナス要素もあるが、アベノミクス効果により、株価が上がっているなかで、景気が良くなるという期待がある。
		一般レストラン（経営者）	・建築関係等の業種で残業が増えていると聞く。手当が増え、客の所得に余裕が出れば、飲食業にとっても良い。また、客単価の微増も見込まれる。
		スナック（経営者）	・アベノミクス効果が現れてくるのではないかと期待する。
		観光型ホテル（スタッフ）	・例年より早めに夏休みに向けての販売が動き出している。
		観光型ホテル（支配人）	・円安による食材価格の値上げがあるものの、宿泊客の増加で吸収できる見込みである。加えて、この夏休みは国内旅行に期待が持てるうえに、地元でのイベントも控えている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・結婚式の問い合わせが増えており、料理単価が以前に比べ上がってきている。
		都市型ホテル（総支配人）	・9月までの先行予約を見ると、前年同時期に比べ5%以上良くなっており、観光客を中心に宿泊客は伸びると予想される。
		タクシー運転手	・アベノミクスの影響で景気は良くなる。
		通信会社（工事担当）	・予約件数が増加傾向にある。
		ゴルフ場（営業担当）	・現状のまま推移すると、今後も伸びる要素がある。
		競艇場（職員）	・7月下旬と8月中旬のレースで収益が見込める。
		設計事務所（経営者）	・消費税増税に向けて駆け込み需要が増える。
		設計事務所（経営者）	・消費税増税前の駆け込み需要が見込まれる。
		住宅販売会社（営業担当）	・好況感、消費税増税前の駆け込み需要、建材の値上がり等、住宅購入を決断できる要素が現時点多くあり、当面、上向き状態が継続する。
		住宅販売会社（販売担当）	・これから消費税増税の駆け込み需要もあり、客の意識も引き続き高まっていく。
	変わらない	商店街（代表者）	・来客数、売上などをみても、良くなってきているという実感がない。
		商店街（代表者）	・飲食関係の業者からも、まわりの商店主からも、いい話は聞かない。当店もいい方向に行っているとは思えない。
		商店街（代表者）	・地方は都市部と比べて景気に鈍感で、今後アベノミクスがどこまで浸透して給与が上がるかにかかっている。
		一般小売店〔靴〕（経営者）	・高額商品が売れている店がある一方で、空き店舗が増え続けているアンバランスな状況であり、景気への不安が残る。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・会社設立の印鑑注文や高級印材の注文は多いが、ゴム印や名刺の注文はそれほど良くない。
		一般小売店〔酒店〕（経営者）	・真夏のような高温の日が続けば売上は上向くが、天候次第では上向くまでには至らず現状維持となる。気持的には期待している。
		一般小売店〔酒店〕（経営者）	・アベノミクス効果は、まだ地方の実体経済には波及しておらず、金が使えぬ状況にないのではないかと思う。
		百貨店（営業担当）	・ハウスカードの還元率向上効果が出てきているため、今後しばらくは高い基調を維持できる。
		百貨店（販売促進担当）	・夏ギフト商戦がスタートするが、相次ぐ企業の事業縮小、予測される参議院選挙等の影響もあり、大きな期待はかけられない。また高速自動車道の全線開通により、ヤング層を中心に京阪神地区への消費流出も目立ってきている。
		百貨店（売場担当）	・クリアランスセールスタート時期の分散化により、集客のピークが低くなっている。取引先の在庫も絞られてきており、大きな売上増は見込めない。
		百貨店（購買担当）	・長い夏になるという情報で、クールビズ商品の品ぞろえが豊富になり、特に日用雑貨のクールビズ商品が好調に推移する。クリアランスセールの立ち上げが6月になり、いいものを安く買うという傾向は続く。
		百貨店（販売担当）	・過去1～2か月を考えると、顕著に売上が伸びるとは考えにくい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業推進担当）	・都会では高額品の売上が増加しているようであるが、地方はまだそこまでいかない。もう2～3か月様子を見ないとわからない。
		スーパー（店長）	・景気を判断する材料がない。
		スーパー（総務担当）	・客単価の変動は小さく、季節的な要因が来客数に影響するので、先行きは楽観できない。
		スーパー（財務担当）	・個人所得が増加していないため、購買意欲はまだ上昇しない。
		スーパー（管理担当）	・アベノミクス効果で景気が上向きのムードであるが、実感がない。低価格商品へのシフトから客単価も伸びず、売上増は期待しにくい。
		コンビニ（エリア担当）	・景気を判断する材料はないが、工事関係者が増加しているので、前年売上のクリアは見込める。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数の減少傾向はおさまってきたが、上昇に転ずるにはもう少しかかる。
		コンビニ（副地域ブロック長）	・企業施策だけでは集客につながらない。また、競合店の出店を控え、更に厳しくなる可能性がある。
		衣料品専門店（経営者）	・客から景気の良い話は聞かない。
		衣料品専門店（経営者）	・経済も不安定で、なかなか景気回復までいかない。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	・スーツは必需品であるが、スーツの購買層が広がっていないので、来客数は横ばいのまま推移する。
		家電量販店（店長）	・爆発的に客に支持される商品がなく、太陽光関連商品も飛ぶように売れるわけもなく、景気回復は難しい。
		乗用車販売店（統括）	・本年9月まではエコカー補助金の反動で厳しさが予想される。
		乗用車販売店（総務担当）	・現在の販売状況を継続することで、高い収益水準を維持したい。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・大きな変動要素が見当たらない。
		高級レストラン（スタッフ）	・会社関係、接待などの予約は前年より少なく、個人利用の動きはまだ分からない。
		一般レストラン（エリア担当）	・ひろしま菓子博も終わり、これといって大きなイベントもないので今後あまり期待がもてない。
		一般レストラン（外食事業担当）	・輸入肉、油などの原材料の値上げを販売価格に転嫁すれば客が外食を控えるため、外食産業は厳しい状態が続く。
		その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕（支配人）	・夏休みまではこの様子が続く。金を使う時と、使わない時が、はっきりしている。夏にはボーナスもあり、購買意欲が上がることを期待している。
		都市型ホテル（企画担当）	・株価の動きも頭打ちの気配がある。景気悪化の警戒感と消費税増税を控え、消費志向がやや低下する。
		都市型ホテル（企画担当）	・現在、好調に推移しているが、これ以上良くなる要素が見当たらない。
		旅行代理店（経営者）	・半年後くらいには変化がみられると思うが、現状では変化がない。
		タクシー運転手	・現状のまま推移する。
		タクシー運転手	・山口市の景気と大都市の景気を合算するとイーブンになる。
		通信会社（社員）	・新規サービス加入の問い合わせに変動がない。既存利用者は費用が変わらない範囲で、上位サービスへの移行が多い。
		通信会社（企画担当）	・天候が不順で、夏への影響は懸念される。今年になって漸次良くなっている要素を逆行させる事由は今のところない。
		通信会社（通信事業担当）	・解約の際、価格面の理由を上げる人が多く、依然ランニングコストがかかるサービスをみる目は厳しい。
		通信会社（総務担当）	・景気が上向きとされているが、販売量の向上がみえない。
		通信会社（営業担当）	・消費税増税前の会社独自施策を実施し、客の囲い込みを図るものの、客の反応は消極的で、全体的に景気回復を感じられない。
		通信会社（広報担当）	・為替市場、株価の動きはマスコミでは大きく謳われているが、いまだ個人収入の増加にはつながっておらず、個人の消費向上には今しばらく時間がかかる。
		テーマパーク（管理担当）	・株価の高騰により経済全体は良いように思えるが、地方の景気はそうではない。このまま安定すれば期待が持てるが、今後を見守りたい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		テーマパーク（業務担当）	・夏休みまでまとまった休みもなく、また梅雨に入るために、入園者の増加は期待できない。
		美容室（経営者）	・景気は良くなると言われているが、実際は何年も先になる。
		美容室（経営者）	・景気が良くなると言われているが、すぐに客の収入が増えるわけではないので、客単価アップにつながる様子はない。
		その他サービス〔介護サービス〕（介護サービス担当）	・ニュースなどで景気が上向きという話も聞かれるが、客の様子からは全く景気の変化がみられない。ここ2、3か月で変わるとは考えにくい。
		設計事務所（経営者）	・今回の景気対策は、都市部と大企業を対象とした従来からの対策であり、地方経済や中小企業への対応はなされていない。
		設計事務所（経営者）	・消費税増税まで現在の状況はしばらく続くが、建設会社から建築物価の上昇や人手不足の声が聞こえ始めているのが不安材料である。
		住宅販売会社（従業員）	・受注及び客の動きは増えているが、円安傾向等により、仕入れ原価の上昇の話も各方面から出てきている。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・客の商品に対する目が厳しくなっている。
		商店街（代表者）	・商店街への来街者は高齢者が多く、天候によって出足が左右される。今後梅雨に入るので客足は遠のく。
		一般小売店〔紙類〕（経営者）	・日常の買いまわり客が減少する。
		百貨店（電算担当）	・平成の大遷宮がある出雲大社近くの売店、空港売店等の売上は好調である。人が動くところ、人が集まるところは、金が動くようである。しかしながら、全体的には消費活動は停滞している。どの分野の商品もマイナスが目立つ。
		スーパー（業務開発担当）	・節約志向が続くなか、食料品の値上げが重なり、一層消費が冷え込みそうである。
		スーパー（販売担当）	・客の話聞く限りでは、消費税増税を控え、関心は住宅等、大きな買物へ傾いているように感じる。当社が取り扱う日用品、特に雑貨類においては、今後の苦戦が予測される。
		スーパー（販売担当）	・売上が低迷しており、回復の兆しが無い。
		コンビニ（エリア担当）	・気温上昇、小麦高騰による価格上昇により、デイリーフーズの販売数量が減少する。
		自動車備品販売店（経営者）	・今のままでは、いつになったら我々の業界に好景気がやってくるのか、想像すらできない。
		住関連専門店（営業担当）	・消費税が上がるまでは買い控えで、来客数も減少し続ける。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	・株価が高騰したり、円安になることで、地方経済に効果が出るまで時間がかかる。一方、輸入材の価格が上がり、消費の広がりが減少すると思われる。また、所得格差が広がりそうである。
		美容室（経営者）	・アベノミクス効果が一般に影響してくるまでにまだまだ時間がかかる。その前に消費税増税が大きく影響しそうである。
		悪くなる	スーパー（店長）
企業動向関連	良くなる	輸送用機械器具製造業（経営者）	・新車種立ち上がりに向けて受注が増えてくる。
		輸送業（支店長）	・通信販売市場が好調に伸び、景気の回復に伴って今後も増加する。
(中国)	やや良くなる	繊維工業（統括担当）	・景気が良くなっている報道があるので、そうなるよう期待する。
		木材木製品製造業（経理担当）	・国内の景気回復感の高まりにより購入意欲が増加する。
		化学工業（経営者）	・量的回復に続き、値上げ効果が徐々に浸透する。
		化学工業（総務担当）	・家電等も少し元気になっているように思えるので、国内産業の景気回復に伴う素材の需要増に期待する。
		鉄鋼業（総務担当）	・ここ数日の株価の乱高下が不安定材料であるが、良くなると言いたい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		金属製品製造業（総務担当）	・得意先である工作機械業界では引き合いが増えているようである。また、補助金制度の活用で工作機械の内需も増える。円安による鉄原材料価格や電力料金の上昇があるものの、受注量が増えることにより、カバーできると見込んでいる。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・社員への給与等の増額支給には依然慎重なため、なかなか実感が伴わないが、円安、株高効果で、皆がプラス思考である。ただし、プラス思考で行くのは良いが、実態が伴わなければバブル再来となる懸念がある。
		輸送業（業務担当）	・今後の計画を見ると良くなると期待する。
		通信業（営業担当）	・株価の乱高下はあるものの、先行きに対する期待感が市場にはあるように感じる。今はまだ、実体経済が伴っているとは言えないが、我々の業界も期待している。
		金融業（自動車担当）	・現在の為替水準であれば、県内完成車メーカーの輸出は採算がとれ、部品メーカーの受注も好調と予想する。
		広告代理店（営業担当）	・夏のシーズンに向けての販売促進拡大で受注量も増加し、売上も増加傾向にある。取引先からもこれから販売に力を入れるシーズンに突入すると意気込みを聞いている。
		コピーサービス業（管理担当）	・公共事業の実施計画が発表され、受注量が増加することを期待している。
		農林水産業（従業者）	・水揚げ数量が落ち込んでいるが、イカ釣り漁だけが突出した高水揚量で、唯一の朗報である。5月いっぱいでは沖合底引き網漁が資源保護のため8月中旬まで休漁となるので、魚種が減少して漁港は寂しくなる。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・鋼材生産量の増加がまだなく、ゴミ焼却炉関係などの新規引き合いも少なく、生産量は現行水準が継続する見込みである。二次加工品製造部門は、他社品トラブルの影響で当面多忙が継続する。
		鉄鋼業（総務担当）	・取引先、エンドユーザーともに、先々のことは様子見状態で、これといった目新しい案件がない。
		非鉄金属製造業（経理担当）	・電機関連は依然低調で、金属価格も低迷するなか予断を許さぬ状況である。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きに変化はない。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・海外製造会社に傾倒していた取引先が、円安により、国内に目を向け始めているが、同時に部材の価格が上昇しているため、価格競争が激しい。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	・超円高の是正により、輸出が主力である主要客への販売も、ある程度好調さを保つ。
		建設業（経営者）	・アベノミクス効果で少しずつ地方での投資も行われているが、実感できることは少なく、3か月程度で景気が上向くとも考えられない。
		建設業（総務担当）	・手持ち工事から見て、今後1年はこのような状態が続くとみられる。
やや悪くなる		輸送業（総務担当）	・取引先から良い情報がない。
		通信業（営業企画担当）	・客との雑談のなかで、ボーナスについては、貯蓄といった話が多く、前年度に比べ購買という話が少なくなっている。
		金融業（営業担当）	・昨今の円安、株高で、地元の中小企業経営者のマインドは明らかに前向きになっている。ただし、何年も景気回復の期待が叶わなかったこともあり、疑心暗鬼な面も残している。当地において、地元雇用を支える中小企業では、足元の企業業績が改善している話は少なく、この先2～3か月の業況は大きく変化がないと考える。
		不動産業（総務担当）	・今月同様、賃貸住宅の需要時期ではないため、横ばいの予想である。
		会計事務所（職員）	・公共工事関連業界は、今後も引き続きやや上向き状態をキープしたまま推移すると思われる。それに伴い、周辺の製造業やサービス業もやや上向きになってくると思われるが、その兆候はまだ出てきていない。
		食料品製造業（総務担当）	・今の販売の落ち込みから盛り返すには3～4か月かかるので、予想している売上は下回る。
		食料品製造業（総務担当）	・消費税増税問題、原材料の高騰と問題が多いなか、値上げを要請できにくい状況が続いている。
		輸送用機械器具製造業（財務担当）	・今の円安水準が継続すれば、今後予想される造船不況からの早期回復は期待できるが、2014年末頃を底に業績が徐々に悪化していくという見通しである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	・都会の大手輸出企業は、円安や景気回復機運により好影響を受けるが、地方にその影響がくるのは当分先の見込みであり、逆に原油や電気料金等の値上げや増税が先にくるため非常に苦しい。
	悪くなる	—	—
雇用 関連 (中国)	良くなる	—	—
	やや良くなる	人材派遣会社（支社長）	・派遣就業するスタッフの確保に苦戦しており、大幅な売上の増加は期待できないが、求人数は順調に増加していくと思われる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・アベノミクスによる円安、株高の効果で景気回復が期待される。また、大手自動車メーカーの工場では新型軽自動車の量産により、昼夜2交代操業を復活させ、生産を前年の1.5倍に増やす計画がある。
		民間職業紹介機関（人材紹介担当）	・株価、為替などが、好景気に向かう条件を保ちつつ推移する。6月を過ぎた頃から消費増が表面化すると予想する。
		学校〔短期大学〕（学生支援担当）	・社会の空気から、ややよくなると予想する。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・このまま景気的好況感が続くならば、採用活動は活発になると思われるが、昨今の株価の乱高下等、マイナス要因もあり、結果的に新規雇用を控える企業もある。
		人材派遣会社（営業担当）	・当地域の人材ビジネスに関しては、昨今の好調な株価や、主要産業である自動車業界の新車増産のような明るいニュースはなく、依然、先行き不透明である。
		人材派遣会社（営業担当）	・アベノミクスの効果は、1年程度先でないといえない。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	・各企業ともまだ慎重に状況を見極めていくといった状況で、依然として前年同時期と比較してもさほど変わっていない。
		求人情報誌製作会社（採用支援担当）	・全体としての求人数は増えていると思うが、我々の新卒採用に関する事業については、2016年卒からの採用時期の見直し等の影響で、先行きが読めない。
職業安定所（産業雇用情報担当）		・燃料費の高騰が製造業、運送業の収益を圧迫している。某運送会社では新卒の求人計画を見直すこととされた。	
職業安定所（産業雇用情報担当）		・管内大手企業が雇用調整を行っており、景気が良くなるとは思えない。	
職業安定所（雇用開発担当）		・求人数に占める正社員求人の割合に変化はない。	
その他雇用の動向を把握できる者〔労働機関〕（職員）	・一部の製造業や建設業が好調な一方、電機部品製造業では大手メーカーのリストラによる大量解雇が発生している。特に、基幹産業の製造業は、生産品目による格差が広がっており、先行き不透明となっている。		
やや悪くなる	—	—	
悪くなる	—	—	

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (四国)	良くなる	—	—
	やや良くなる	商店街（代表者）	・成長戦略のなかでも世界に先駆けできる産業は再生医療分野である。今回iPS細胞による世界初の臨床試験が延期されたことは、経済全体に大きな水を差した。
		百貨店（総務担当）	・高額品以外にも夏物衣料の動きが好調である。
		コンビニ（店長）	・深夜時間帯の回復がみられる。
		コンビニ（商品担当）	・プライベートブランド戦略等で価格は下落傾向であるが、客数と買上点数は上向きであり、販売量は伸びている。買物をした意識が高くなっており、今後も続くともみている。
		家電量販店（店員）	・夏のボーナス商戦を迎え、販売数が順調に伸びると予想される。
		乗用車販売店（営業担当）	・各社とも6月から販売促進を強化する見込み。その為に軽自動車は活性化すると予想する。
		住関連専門店（経営者）	・円安、株高の影響により、消費ムードが少し良くなっているのではないかと思う。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・酒類業界は、夏場が2番目によく売れる時期なので、景気はやや良くなると予想する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型旅館（経営者）	・現政権の政策によって、将来に明るい見通しが立ち、旅行消費も増えるのではないかと予想する。特にお年寄りや家族旅行などが増えつつあるので、大幅な円高や株安という問題が起きなければ、今後の見通しは少し明るくなるのではないかと考える。
		タクシー運転手	・6月はボーナス月であり、例年、7、8月は売上が少し上昇するため。
		通信会社（企画）	・現在の状況がしばらく継続すると思われるので、やや良くなるのではないかと。
		通信会社（支店長）	・ボーナス商戦期を迎えることや新商品発表による販売増が見込めるため、やや良くなると予想する。
		観光名所（職員）	・円安の影響で旅行先を国内にシフトすることが予想されるため、前年より来客数が多くなると思われる。
		設計事務所（所長）	・街の中心部の空き地に、建物が建つようになってきた。
		住宅販売会社（従業員）	・年配客は住宅ローン金利の上昇を気にしている様子が見られるものの、消費税増税前で若い客に動きがみられ、受注につながると思う。
	変わらない	商店街（事務局長）	・株式相場の乱高下、生活必需品や電気代の値上げ等不安な要素も多く、所得が増えないと消費は上向かないと思われる。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・母の日やイベント時以外は、商品を見るだけで買わない人が多くなった。平日との差が大きく、良くなるとは思えない。
		一般小売店〔乾物〕（店員）	・特になし。
		百貨店（営業担当）	・株価が乱高下を始めたので、大きな物が売れるかどうか分からなくなってきており、変わらないと予想する。
		スーパー（店長）	・変わっていく要素が見当たらないというのが実感である。
		スーパー（企画担当）	・円安、株高基調であると思うが、エネルギーコストの上昇、食品の単価増などネガティブな要素も多いため。
		スーパー（企画担当）	・商品の値上げ報道により前倒し需要はあると思うが、値上げ後の買い控えが予想される。
		コンビニ（総務）	・地方景気の先行きは不透明であり、期待感より不安の方が大きい。
		衣料品専門店（経営者）	・優良企業がボーナスを上げてくれたら、7、8月は多少上向くと期待しているが、梅雨のシーズンや7月からのバーゲン待ちということもあって、厳しいと予想している。
		家電量販店（店長）	・税金や福祉の問題等、先行き不安がぬぐえていないため、景気が良くなるとはまだ考えられない。
		乗用車販売店（従業員）	・現政権の打ち出した成長戦略も、地方ではまだ実感が無い。
		乗用車販売店（従業員）	・景気が良くなった感じだけで、実際の数字は上がっていないようである。末端が実感できる景気対策を期待する。
		乗用車販売店（役員）	・5月の新車登録はなんとか前年並みを確保できるとみている。6、7月もこの調子でいけば前年を維持できると思っている。景気については、来年1～3月に上向くと期待したい。
		旅行代理店（支店長）	・株価上昇に伴う旅行需要の増加が大いに期待されるが、最近の株価の暴落もあり、安定かつ実質的な景気回復につながるか見通せない。
		通信会社（営業担当）	・新商品の発売開始や夏商戦時期に入り、販売数量の増加が見込まれるものの、季節変動の範囲内であると想定する。
		ゴルフ場（従業員）	・来場者、予約状況も良くなりつつあるが、まだ本調子ではないと感じている。
		競艇場（職員）	・7～8月に大きなレースを予定しており、売上増加につながるよう対策を講じなければならないが、現状ではあまり期待が持てない。
		美容室（経営者）	・各種値上げなどにより消費マインドの低迷が続いているように感じる。
		美容室（経営者）	・新規集客の見込みがない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・国の政策によって景気上昇が期待されたが、ここに来て足踏み状態となっており、消費者マインドに悪い影響を与えているように感じる。
		スーパー（統括担当）	・株価の値動きが示すように、实体经济の明るさがなくなって、不安が先行してきているように思う。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		スーパー（財務担当）	・一時的に消費が減退することはあり得ると思う。景気上昇局面では富裕層がまずメリットを享受し、中間、下位層へとシフトしてゆく。この間2年は必要である。息の長い景気上昇を期待している。	
		乗用車販売店（従業員）	・販売台数は前年並みだが、来客数が減り、成約数も減ってきている。	
		スナック（経営者）	・景気とは関係なく、8月は帰省やお盆があるため、出費を抑える傾向にある。	
		都市型ホテル（経営者）	・首都圏や近畿圏は景況感が上向いていると思うが、地方は人や金の流れがあまり良くないと予想する。	
		タクシー運転手	・夏はお遍路も減少し、乗客はもっと少ないだろう。街の様子を見ても、景気が良くなったとはとても言えず、悪くなる一方だと思う。	
悪くなる		一般小売店〔酒〕（販売担当）	・地方の人口減少に歯止めがかからず、需要と供給がアンバランスなまま景気は良くならない。色々な物が値上がりして、ますます消費者の財布のひもが固くなるだろう。	
		衣料品専門店（経営者）	・電気代をはじめ物価が上昇しているが、所得が増えていないため、財布のひもが固くなってきている。	
企業 動向 関連 (四国)	良くなる	食料品製造業（商品統括）	・政府の前向きな対策が随時発信されており、調整局面にも大きな動揺はみられないと思う。	
		やや良くなる	一般機械器具製造業（経理担当）	・中東を中心に大口商談が見込まれる。
		金融業（融資担当）	・求人募集の広告も増えており、徐々に景気が改善すると予想される。一方円安により原料を輸入に頼る企業には不安も広がっており、マイナス材料も含まれている。	
		公認会計士	・特に株式を所有している法人は米国の大手金融機関の破たん以前の状況に戻り、非常に財務内容が良くなったという話を聞く。また、消費税増税前の駆け込み需要が見込まれると話題になっている。若干景気は上向くのではないかと予想する。	
	変わらない		農林水産業（総務担当）	・消費が上向く要素は見当たらない。
			パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・価格交渉を続けているが、なかなか応諾してくれない。価格修正ができなければ赤字に転落してしまうので、粘り強く交渉を続けていく。
			電気機械器具製造業（経営者）	・太陽光発電も、北海道、鹿児島等々で電力会社が許可してくれないということで、大型太陽光の設備は減衰している。一方、電子機器、化学等々の設備は増加傾向にある。これらを勘案して、変わらないと予想する。
			建設業（経営者）	・建設業はこの時期、落ち込むのだが、例年と比べると手持ち仕事量が底をつくこともないようなので、このまま悪くなることなく、変わらないと思われる。
			建設業（経営者）	・公共工事の出方次第で、良い方向に変わるかもしれないが、このままいけば、当面は変わらないと予想する。
			輸送業（経営者）	・消費税増税が気になるが、心は決まっているだろうから変わらないと予想する。
輸送業（営業）			・燃料高騰を受けてのハイブリッドカー人気等、一部の業界には景気の上向きを感じられる部分はあるが、運送業において物量の推移を見ると消費低迷を強く感じる。梅雨明けまでは物量の増加は期待できない。	
通信業（部長）			・夏モデルが発売になり販売の活性化は図られると思うが、景気浮揚にはまだ少し時間を要する。	
やや悪くなる		不動産業（経営者）	・消費者のマインドが前より明るくなり、前向きな気持ちは出てきているが、それに見合う価格や物件とのギャップがみられる。	
		鉄鋼業（総務部長）	・経常先の受注回復はまだ見えず、スポット先も先行きが全く読めない状況である。また、原材料の多くを輸入しているため、仕入価格が上昇傾向にあり、収益的にも悪化傾向にある。	
		電気機械器具製造業（経理担当）	・国内は、現在とほぼ同様で動くは見込んでいる。米国の特定市場向けの価格下落が想定されており、市場の動向を見極めるために模様眺めの状況にある。従って、販売を調整しており、落ち込んでいる。	
		悪くなる	輸送業（支店長）	・荷主の生産調整による製品保管物の減少、並びに輸送数量減少により悪くなると予想する。
雇用	良くなる	—	—	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
関連 (四国)	やや良くなる	人材派遣会社（営業担当）	・アベノミクス効果が奏功し、各経済指標も改善。消費者心理にも作用が認められる。ボーナス時期も相まって、景気は緩やかながら上昇を続けると考える。
		求人情報誌製作会社（従業員）	・夏季学生アルバイト募集の増加が見込まれる。
	変わらない	職業安定所（職員）	・月間有効求人倍率が先月より0.10ポイント低下している。ただし、前年同月比では0.26ポイント上昇している。
		職業安定所（職員）	・景気回復が期待されている状況ではあるが、地方における実体経済の波及の遅れ、中小企業金融円滑化法の終了等は大きな懸念材料になっているのではないかと。企業の採用募集に関しては慎重に構えているような状況がみられる。
		民間職業紹介機関（所長）	・企業においては現状維持が精一杯で、マスコミ報道されているような期待感を抱いている様子は無い。ただし、建築関係では、昨年より着工件数が増えている企業が多い。
	やや悪くなる	人材派遣会社（営業担当）	・製造業の生産が減っており求人が期待できない。
悪くなる	求人情報誌（営業）	・円安により、原材料輸入費が上昇し、物価が高騰することにより、個人支出は一時的に増えるが、所得はしばらく増えないことから、長期的には個人支出が減り、景気は悪くなると予想される。	

10. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)	良くなる	○	○
	やや良くなる	商店街（代表者）	・景気が良くなっていくのではないかとという期待感が、客の購入意欲や行動に表れている。実感や、現実に給料が上がることなどはまだないが、将来に対しての明るさを非常に感じた動きがあり、良くなる。
		商店街（代表者）	・雰囲気だけで終わってほしくなく、景気の上向きが一般庶民まで、地方経済まで波及してほしい。その雰囲気は若干ではあるが兆しはある。
		百貨店（営業統括）	・株価高騰にみられるように、景気の安定が期待できる。夏の参議院選挙による売上の影響もないと予測される。
		スーパー（店長）	・競合店が開店して1年経過する6月からは、前年比をクリアできる。しかし、初期の売上からみると少し厳しい状況である。青果の相場も少しずつ上がっているが、夏物衣料の不振で衣料品が厳しい状況だ。天候の影響もあるのか前年の83%で推移している。
		スーパー（総務担当）	・夏のボーナスの若干の上乗せ部分が消費に回るので、今までよりは、少し値の張る商品も動きが良くなる。
		スーパー（業務担当）	・盛夏商材の価格強化政策が拡大され、デイリー・加工食品の売上の増加を見込んでいる。客からの反応も良く、客数と売上点数が予定通りに伸びていけば、経常利益の回復が期待できる。
		コンビニ（店長）	・夏休みがくるので、今より良くなる。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・本部製作のカップコーヒーも順調に伸びており、近くに競合店ができる影響を含めても少しは客が増える。ついで買いの客も若干増えている。
		家電量販店（店員）	・最近株価が乱高下しているが、総じて上がっているようだ。地方では、まだ経済が良くなっていると感じにくいのが現状である。期待を込めて少し良くなっていく。
		家電量販店（店員）	・ボーナスの増加などプラス要因がみえるので、やや良くなるという選択をした。ボーナスの増加分が消費に回ることをやや期待している。
		家電量販店（従業員）	・夏に向けて冷房購入が増える。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・これから夏場の時期を迎えるので、コーヒー業界では液体のリキッド飲料のアイスコーヒー等が良くでる。また、中元時期にかけて進物等も若干増えていくので、夏場の冷たい飲み物の需要が増えて、売上も上がると予想される。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・客の商品購入の動きが良くなり、少しずつ単価の高い商品も売れるようになってきた。今後、販売量が増えてくれば、売上も伸びる。
その他小売〔ショッピングセンター〕（広報担当）	・客数増の傾向にあり、来年4月の消費税率見直しに向け、耐久消費財への関心も高まってくる。アベノミクス効果も後押しし、消費環境は多少上向く。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（専務）	・旅行者が多い。特に台湾や中国以外の東南アジア、スイスなどからの外国人も来ている。単価は下がっているが飲食する客が若干増えている。
		都市型ホテル（販売担当）	・宿泊はまだまだ伸びる。
		都市型ホテル（副支配人）	・7、8月にインターハイ、国民体育大会ブロック大会等大きなイベントがあるため、その前後6月、9月も含めて非常に予約状況は良い。
		旅行代理店（従業員）	・夏の予約は国内・海外とも伸び始め、前年同時期を上回っている。
		タクシー運転手	・今度の夏のボーナスがかなり期待できそうなので、タクシー利用にも影響がでそう。
		通信会社（企画担当）	・ブロードバンドサービス提供エリアの拡大があるため、短期的ではあるが顧客及び販売量の増加が見込める。
		理容室（経営者）	・我々の仕事は、円安とほとんど関係がなく、顧客動向は季節が直接に影響する。梅雨から夏にかけ暑くなると来店間隔が縮まり、月の来店客数が増えてやや良くなる。
		設計事務所（所長）	・官公庁の仕事の発注が多くなりつつあることと、消費税増税前の個人住宅等の駆け込み需要が多くなるので、やや良くなる。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税の経過措置の指定日の平成25年9月30日までは、対前年伸び率も約5割増まで拡大していくと予測している。
		住宅販売会社（代表）	・現状が良いので、今後2、3か月というスパンで考えると良くなっていく。ただ、長期的な先行きとしては悪いという印象がある。
変わらない		商店街（代表者）	・人の流れはやや持ち直した感があるが、円安によって仕入れ商品の原価が上がってしまい、なかなか利幅が取れず、思うように景気が良くならないという両面がある。
		商店街（代表者）	・消費者の所得に関係してくるので、そう簡単には財布のひもが緩まない。
		商店街（代表者）	・地方企業のボーナス増加や、個人所得の増加が期待できない。そのため3か月先も決して景気はかなり上向くということではなく、現状のまま推移すると考える。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・個人の小売商店はどこもそうであるが、客の7、8割が高齢者で、下がり気味か上がり気味が微妙なところだが、アベノミクスの影響が直接ない方が多いので変わらない。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・売れるように頑張っているのだが、なかなか成果が上がらない。経費がこれ以上に上がるようだと本当に苦しい。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・アベノミクス効果は大企業に集中し、中小企業にまでたどり着いていない。今後景気が良くなる要因もない。
		百貨店（売場主任）	・一部富裕層の方が購買に積極的な状況は変わらないが、一般の方まで恩恵を被る様子が見られない。
		百貨店（総務担当）	・核テナントの百貨店の売上は、大都市圏の百貨店のように高額品の売行きが回復基調となるまでにはまだまだ時間がかかり、ここ数か月の傾向から、客数の回復もまだまだ厳しいと予測される。
		百貨店（営業担当）	・店内の物産催事や店外のお得意様特商ホテル催事は、市内、地方開催共に動員が増え、購買意欲向上の傾向がみえるが、大催事場開催における宝飾催事の購買意欲は、今一步予想に達していない。また、お金を積み立てる友の会新規募集やポイントを貯められる自社クレジットの新規会員募集は、ポイント催事もあり共に好調である。将来の買物への意欲は継続している。
		百貨店（営業担当）	・宮崎では、民間企業の給与増という状況はまだ生まれていない。そのため、顧客の消費改善はみられない。
		百貨店（販売促進担当）	・高額品の動きが少し良くなってきたものの、衣料品や服飾雑貨の動きは鈍い。アベノミクス効果を期待したいが、まだ景気が良くなったと実感できない。
		百貨店（売場担当）	・一般家庭の可処分所得が増えないことには、小売店としては大きく売上が伸びることはないと考え。
		百貨店（店舗事業計画部）	・商圏内の富裕層は多くなく、夏のセール頃まで低価格志向への対応が続く見込みである。流入する遠来客は、夏の行楽先がゴールデンウィークに続き九州以外になる可能性も多く、減る見込みである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業政策担当）	・景気回復に対する期待感は根強く、円安効果による海外旅行客の増加など好材料もありながら、全体の底上げには至っていない。一方、夏場に向け一層の節電対策が求められるなど、今後も予断を許さない状況が続く。
		百貨店（売場担当）	・天候要因等を加味しないと何とも言えないが、取引先メーカーのクリアランススタート時期に左右される。上振れ、下振れはさほどなく、前年程度は確保できる。絵画と宝石が突出しており、3月以降加速度的に売れ出し、今月は、それを入れた雑貨部門だけで売上げが116%と伸びており、今後も続くとみている。
		百貨店（業務担当）	・報道されているような、景況感が改善している実感を持つ客は少ない。所得が改善されたという方もいない。報道のような景気回復を実感できず、自分たちが取り残された感を持っている客もおり、消費によりシビアになっている。
		スーパー（経営者）	・円安の効果で良くなる産業と悪くなる産業があるため、不安定要素が強い。
		スーパー（店長）	・3か月前と比較して、財布のひもの締め具合は相変わらず固い。ただ、健康や安全面への支出は良くなっている。
		スーパー（店長）	・今後、値上がりする食料品があるため、今以上に買上単価の低下に影響が出てくる。現在、買上点数が増えているのは金額が低い商品である。
		スーパー（総務担当）	・生活必需品のコモディティ商材は、極端な変動が少なく、販売単価が維持されれば、購買への変動は少ない。ただ、円安の影響で輸入商品値上げにより単価維持は困難であり、集客戦略の総合見直しが急務となっている。
		スーパー（経理担当）	・消費者の食料品や身の回り品に対する支出は、株価や円安と連動している数値ではない。
		コンビニ（経営者）	・マスコミの報道等により良くなるのではないかと期待感を持っているが、少なくとも来店客の動向、売上の数字をみると全くそのような動きが出ていない。
		コンビニ（エリア担当）	・3か月後も今の状況はそのまま続き、上がってはいかない。コンビニエンスストアでは気温の上下で大きく売上が左右されるため、夏の気温の状況で大きく変わってくる。
		コンビニ（販売促進担当）	・販売量を稼ぐ量販店の特売比率もほぼ横ばいで、薄利多売による利益を重視するようになる。発注もかなりシビアになっていくなかで、客の購買力もほぼ横ばいで推移していく。
		衣料品専門店（店長）	・アベノミクスもマスコミが持ち上げているだけで実需につながっていない。
		衣料品専門店（店員）	・百貨店内では高額商品の売行きが良いと聞かすが、実際の客からは景気の良い話は出ていない。
		衣料品専門店（チーフ）	・クールビズ期間が前倒しで早くなっているため、今月は購買意欲が非常に高いが、徐々に落ち着く。
		衣料品専門店（取締役）	・株価の急落があって、儲かった方もいるし、先行き不安に思っている投資家もいる。車等の輸出業に携わる方、利益剰余金をボーナスで出してもらえる企業の方等は、所得の増加分が買物に回るが、多くの中小企業に関しては、売上が上がらないと給与は上げられないため、先行きが分からない状況だ。
		衣料品専門店（総務担当）	・希望的観測としてやや良くなると答えたいところだが、現実の数字をみるとそれほど状況が良い方向に向かうとは判断できないと考える。
		家電量販店（広報・IR担当）	・AV商品の不振を払しょくするような他の商品が見当たらない。
		乗用車販売店（従業員）	・都会と比べて田舎は給料も上がらないし、アベノミクスの効果は出ていない。
		乗用車販売店（代表）	・変わるような要素がみられない。
		乗用車販売店（総務担当）	・新車販売は2、3か月先も現状のままエコカー中心に堅調に推移する。
		住関連専門店（経営者）	・アベノミクス効果で、円安、株価上昇と一部の景気が良くなったように見えるが、家具関連ではほとんどの資材が輸入品であり、メーカーは材料費の値上げと売上の据置き等で厳しい経営状況が続く。アベノミクス効果が地方経済の景気にはつながっておらず、物価上昇と収入の上昇とは連動していないようだ。この先も景気の先行きは不安定である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住関連専門店（店長）	・輸出業が好調で儲かる会社が増えてきても、消費者に反映されるのかまだ不透明である。給料が上がる見通しも今のところはない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・6～7月に夏の賞与支給が予定されていることを顧客から聞くが、当店のある地方都市では、前年よりも支給額が上回るような見通しの話は少なく、多くは前年並との予想をしている顧客が多い。
		その他専門店〔書籍〕（地区支配人）	・一部売れる商材は出ているが、爆発的に動くものは少なく、全体は微減傾向にある。外売で販売金額の底上げを図っているが限界であり定価品を販売していくしかないのだが、伸びないという意味で変わらないと考える。
		その他専門店〔書籍〕（代表）	・地方の小売現場ではまだ景気回復の実感が持てない。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・競合他社の相次ぐリニューアルによる影響が継続する。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・賞与が出る時期になるが、今夏は、より一層の節電と電気代値上げで消費マインドは厳しい。
		高級レストラン（支配人）	・予約数が増えない。
		居酒屋（経営者）	・景気が良くなってきたという記事は目にするが、地方の景気が回復するにはまだ時間が掛かる。
		観光ホテル（総務）	・今後3か月間の収入予測より変わらないと判断した。
		都市型ホテル（スタッフ）	・例年と比較しても予約状況に大きな動きはない。
		旅行代理店（企画）	・関東の大型テーマパークが開園30周年を迎える本年、ファミリー層の旅行需要が高まると予測している。一方で、円安により海外で買物を目当てとしたツアーの勢いなくなると予測する。総じて全体的に大きな変化へはつながらないと考える。
		タクシー運転手	・今年は昼が暑いので利用が少なく、夜の利用が少し増える。
		タクシー運転手	・今月、来月にかけて農閑期になるので、客が夜の歓楽街に出てくる様子がなく、あまり芳しくない。
		通信会社（総務局）	・全体の景気は上向き傾向であるが、当業界当社については、今後、売上の伸びは期待できない。
		通信会社（販売部）	・現在、新商品を販売開始したため、来客数と販売数共に好調である。好調のあまり在庫が切れ入荷待ちの状況であり、来月も需要の伸びが続くと考えられる。
		ゴルフ場（従業員）	・都心部ではボーナスが上向くようなことがいわれているが、地方では売上が上がらないので、今年も厳しい。そのため、入場者がなかなか増えない状態で、夏場までは変わらずこの状態が続く。
		ゴルフ場（支配人）	・6月前半のコンペ予約は5月と同じ程度に入っているが、本格的な梅雨入り時期によって状況が大きく変わる。3か月予報によると今年の6月は平年より雨が多いとのことである。ここ2年と同じ雨の降り方だと厳しい営業となる。
		競輪場（職員）	・景気自体は改善されつつあるが、それが顧客の購買意欲に浸透してくるまで、しばらく時間を要すると考える。
		美容室（経営者）	・アベノミクスの効果で、3か月後はやや良くなるとしたいところだが、変わらないが現実である。
		美容室（店長）	・安倍政権の方向性が景気を左右する。2、3か月先の景気は良くならない。
		音楽教室（管理担当）	・秋の生徒募集に向けて少し良くなればよいと考える。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・季節要因が客の増減に影響し、当面は大幅な減少は想定されない。介護報酬改定まで約2年あり、全体の売上が右肩上がりとなる傾向はない。
		設計事務所（所長）	・今年に入ってある程度仕事量は確保できている。3、4か月先の案件も手持ちとしてあるので、今の状態が今年はずっと続くと考えている。
		設計事務所（代表）	・消費税増税の影響が出てくる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔住宅情報誌〕（経営者）	・何とも言えない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・7、8月は夏本番を迎えるが、商店街では高齢者が多く、年配の方が全く買物に来なくなる時期になる。客が来ないので店を早く閉める、閉めるから客が来ないという悪循環の季節になる。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・母の日後の夏場は、花の需要が減るので危機感を持っている。厳しい状態がこれから数か月続く。
		百貨店（企画）	・アベノミクス効果かと錯覚した高額商品の売上も悪く、回復していない。値上げ前のラグジュアリー商品が好調の反動なのか、高額商材の落ち幅が大きい。
		衣料品専門店（店長）	・月によって、また天候によって来店客数も変わってくるので2、3か月先の様子をつかめないが、少し右下がりの状況である。
		観光型ホテル（専務）	・これまでも、景気が良くなっても一時的なものだったので、アベノミクスが本物かどうかは分からない。
		通信会社（業務担当）	・6月は前月以上に人気商品の品薄感があり、チャンスロスが発生し、販売が伸ばせない状況になると予想される。
		競馬場（職員）	・来客数や販売量が、前年と比べて悪い状況が続いている。
		美容室（経営者）	・一部では、景気回復や夏のボーナスの改善も報道されているが、現実には全く実感がない。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フィットネスクラブ〕（営業）	・電気料金値上げなどの影響が出始める。
	住宅販売会社（従業員）	・景気回復により、株や証券、為替関係者は今までの問題が解決して良いかもしれないが、ガソリンや電気料金の値上がり、それによる物価上昇の影響が末端の消費者に及ぶことを懸念している。一部は良いが、実体経済全体としては悪い方向に進んでいる。実体が伴わない非常に危険なバブルの状況がみえるので、まだ判断するのは早いようだ。	
悪くなる	商店街（代表者）	・顧客が外出を控えるため、暑さは小売業の敵である。当社の取引に関して、大企業は景気に関係なく行う業務があるため、一定の消耗品の注文はあるが、小企業からの注文はかなり減少傾向である。	
	スーパー（店長）	・我々の業界において、円安は食品の原材料の値上げ等をもたらすため、あまり明るい要素は見当たらない。しかも来年の消費税増税の問題もあり、消費者の財布はますます固くなると予想される。	
	高級レストラン（経営者）	・2、3か月先のちょうど暑い時期は、我々のような業種の客は減っていく。ニッパチと言われる8月になるにつれてなかなか客は動かなくなるので悪くなると回答した。今のところ、3か月先もあまり予約が入っておらず、これから浮上する兆しがないので悪くなる。	
企業動向関連	良くなる	金属製品製造業（企画担当）	・平成25年度予算が成立し大型補正予算と合わせて15か月予算が編成されることになった。今後、インフラ老朽化対策や事前防災対策が本格的に動き出し、公共投資のウエイトが高い当社にとって追い風になることは間違いない。
(九州)	やや良くなる	農林水産業（経営者）	・6月は本格的な梅雨入りで消費はあまり期待できないが、梅雨明けの7、8月のビアホール等のビール商品に付随した鶏の消費に大きく期待したい。特に今年は景気動向も上向いているので、本当に暑い・美味しい夏が期待できる。飲食店には新しいメニューの打ち合わせによくきていただいている。
		農林水産業（従業者）	・食肉関係でプラス、マイナス両方ある状況で、厳しい状況はあまり変わらない。
		家具製造業（従業員）	・商業施設においては、家具の見積が前年比で15%程度増え、新規以外の入れ替え需要も伸び、予算も前年より増えた。また、見積金額の1件当たりは平均5%程度上がっている。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・内閣府より報告された南海トラフに対する施策等により自治体との連携が見込まれる。
		鉄鋼業（経営者）	・少しずつながら販売数量が増加してきた。しかし、見積中の建築工事で鉄筋造から鉄骨造に変更されたり、資材価格の高騰から建築工事の入札が不成立になるものなどが出てきており、このまま販売量の増加が続くのかは不透明である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		一般機械器具製造業（経営者）	・再生可能エネルギー関連で、設備及び機械部品加工の見積引き合いが多くなってきた。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・発注量が少し変化しつつある。厳しい競争のなか、閉鎖などで関係会社が減少傾向にあり、景気回復による全体量の増加ではなく、受け皿の状況変化により仕事量が増えている。	
		精密機械器具製造業（従業員）	・明確な理由は分からないが、受注量が増えて9月までの生産計画では、前月に比べると徐々に生産増の計画になっている。	
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・得意先からの発注量の増加計画がある。	
		建設業（従業員）	・消費税増税前の駆け込みが原因か判断できないが、見積案件も多くなってきている。また大型物件の受注や公共工事の受注に成功し、今後、景気は良くなる。	
		建設業（社員）	・下請工事にも法定福利費の計上を確保するような通達があったが、元請業者が本当に下請業者のことも考えてくれるか心配である。まだどのように計上すればいいか検討中であるが、国にチェックするシステムも考えていただきたい。それと官公庁に早期の発注をお願いする。	
		通信業（職員）	・夏の節電に向け、エネルギー管理システムの受注量が増加する見込みがある。	
		通信業（経理担当）	・マイナンバー制の施行により、関連する企業においては数年単位で様々な需要が起きてくるものと考えられる。	
		金融業（従業員）	・公共事業の発注が増加し、当面は設備がフル稼働するとみている先があるほか、製造業では円安効果により輸出関連企業の商談が活発化してきている。また、分譲マンションの建設計画が具体化するケースも増えている。	
		広告代理店（従業員）	・今月の状況を見る限り、上向きといえる。	
		変わらない	食料品製造業（経営者）	・前年末の政権交代後、気分的には明るくなった感はあるが、主に売上の数字は低下傾向である。
			食料品製造業（経営者）	・受注量は例年より多く予想している。しかし電気料や原材料の高騰による原価の圧迫が出てきそうである。電力会社や大手企業は簡単に値上げを行うが、中小企業は一旦決まった納品価格の値上げは容易ではないのが現状である。
			化学工業（総務担当）	・当社の賃上げの見込みもなく、賞与の増加の見込みもない。
			窯業・土石製品製造業（経営者）	・今後、夏場に向かって通常の商品は受注が少なくなるが、数量の多い特注品が取れたので、何とか平年と変わらなくやれそうだ。
			一般機械器具製造業（経営者）	・良くなると思われるデータがなかなかでない。
			輸送業（従業員）	・太陽光パネルや飲料等は活発に推移するものの、景気が良くなる程の影響はない。
			輸送業（総務）	・株価の上昇など景気回復の情報はあるが、荷動きへの実感はない。また、円安の影響を受け、各種値上げによって更に荷動きに影響が出るのでは、と懸念している。
			金融業（営業担当）	・株高も調整局面を迎え大企業、中小企業も今後の経済の成り行きを静観している状況である。当面設備投資等の動きはみられない。
			金融業（得意先担当）	・企業の代表者の多くは現状の業況をみる限り、まだ慎重な意見が多い。景況感が向上して設備投資等に向かうまでにはまだまだ時間が掛かる。
不動産業（従業員）	・オフィス賃貸物件の空室率の推移が横ばいで、今後も継続する。			
新聞社（広告）（担当者）	・「通信販売」「旅行」が復調し、住宅設備関連の出稿が続けば見通しは明るい。			
広告代理店（従業員）	・新聞折込チラシの代理店をしているが、5月の新聞折込受注金額は2年ぶりに前年同月比100%と減少に歯止めがかかった。一過性のものであるのか、見極めるのにもう少し時間が必要であるが、来年度の消費税増税まではこの状態が続くだろう。			
経営コンサルタント	・現在の顧問先からも感じるが、新しい仕事に取り組むよりも現状をきっちり維持するという守りの姿勢が強いようだ。			
経営コンサルタント（社員）	・様子見や慎重派も多い。			
経営コンサルタント（代表取締役）	・問い合わせの状況から判断すると、しばらく良い状況が続く。			

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		経営コンサルタント (代表取締役)	・実体というよりも報道により、アベノミクス効果を意識づけられて、景気が良いと感じる面が多いようだ。今からの景気は、夏場の参議院選挙以降の動き等によってかなり変動する。また、株価の上昇、円安も非常に大きな変動要因になる。
	やや悪くなる	食料品製造業（経営者）	・今月の景気は予測を大きく下回った。取引先の客数は依然として伸び悩み、客単価は大きく減少している。日常必需品以外不必要なものは買わないという傾向が一段と顕著になってきている。一般的な景気動向とはかなりのズレが見受けられ、当分回復傾向にはない。
		繊維工業（営業担当）	・デリバリーや材料の仕入れ価格、電気代の値上げで利益がなくなるのではないかと心配である。物価の値上げと平行して工賃が上がることは期待できない。
		輸送業（総務担当）	・円安による物価高、電気を含む燃料費の高騰が非常に影響している。値上げはできないが、支払のほうは値上げを要求している。中小企業はしばらく期待できない。
		その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	・福岡市は、すでに平成24年度末に補正予算で25年度分を先に計上しているため、福岡市の建設コンサルタントへの発注が少ない状況にある。福岡市内にある業者が他市町村で調査や計画等の委託業務を請けることが難しい状況にあるため、景気は悪くなると推測される。
	悪くなる	—	—
雇用 関連 (九州)	良くなる	—	—
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・企業業績が堅調なため、求人依頼件数が減少する気配がない。
		人材派遣会社（社員）	・中元時期になり、既に注文もきている。新聞や求人誌などの求人欄も先月に引き続き多くなっている。
		人材派遣会社（営業）	・企業の求人依頼の問い合わせが増えてきている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・住宅、不動産が動いており、求人数も多くなっている。また、これから選挙絡みの短期求人も増える。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・企業の正社員雇用化や大卒求人など新卒の求人状況も上向いており、夏に向け賞与の支給額が若干増えてくる。
		職業安定所（職員）	・政府の経済政策等により、景気が上向いてきているが、地方の企業では、実感するまでには至っていない。円安による原材料の高騰などの懸念材料もあるが、このままの状況が続けば、2、3か月後に好影響が出てくる。
		職業安定所（職員）	・新規求人は、ほとんどの産業で増加傾向にあり、消費動向に関する卸売業・小売業及び宿泊業・飲食サービス業からの求人は、前年同月比で6割以上増加しており、引き続き堅調に推移する。
		職業安定所（職員）	・管内の事業所では、今後、採用見込みがあるため求人の提出をしたいという意向が高まってきた感じがする。
		民間職業紹介機関（職員）	・中途採用のニーズ及び派遣の需要が4月以降、徐々に増加傾向にある。特に一部の製造業とサービス業は堅調である。今後の更なる需要に期待したい。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・7月の選挙で市場が止まるので、その後の展開が読めない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・期待が持てない。
		職業安定所（職業相談）	・円安傾向による輸出型製造業は雇用調整を終了し、一部増産体制に戻す予定であるが、電気料金の値上げ、国内消費型製造業への原材料値上げの影響等懸念材料があり、先行きは不透明である。
		民間職業紹介機関（社員）	・単発案件の話も少なく、社員の後任、産休の補充程度の話で特定の業界、地域から需要が高まっている動きはない。
		民間職業紹介機関（支店長）	・派遣需要が大きく減少することもない反面、増加するであろう材料も見当たらない。製造業、自動車産業で若干明るい兆しがあるものの、全体を底上げするまでには至っていない。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・地方にある小規模事業所にはまだ景気回復の影響がない。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	・現4年生を対象とした4月までの求人件数は前年比110%超えとなっており、ここ数年の増加傾向を反映しているが、厳選採用の方針は変わらず、景気回復を実感させる好材料とは言えない。
	やや悪くなる	—	—

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	—	—

11. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (沖縄)	良くなる	住宅販売会社（総務・企画分野）	・消費税増税の駆け込み需要が、9月にはピークを迎えると考えられ、住宅請負契約の受注増という点からは、3か月先頃までは良くなると見込む。
	やや良くなる	一般小売店〔菓子〕	・円安による国外旅行から国内旅行へのシフトが予想され、土産品が売れる。
		スーパー（企画担当）	・前年、売上や来客数に影響した競合開店等から一巡し、営業力は徐々に上昇する見込みである。
		スーパー（販売企画担当）	・競合店の1店舗の影響が1周年で一巡したので、やや良くなるのではないかと多少の期待をしている。
		衣料品専門店（経営者）	・少し前と比べて、来客数が増加してきている。新しい商品を欲して買っていくなど、全体的に購買意欲も上がってきているような印象がある。
		衣料品専門店（経営者）	・このまま景気が良くなるような雰囲気が今の社会にはあるような感を受ける。また今後いろいろなプラス要素が加わっていくとみている。
		その他専門店〔楽器〕（経営者）	・円安により、台湾や韓国など外国からの観光客も増加しているようである。ただ、本島北部へ直行しているようなので、現在予定されている那覇市の目抜き通りや商店街にWi-Fiを設置する事業は、内容がまだまだ確立されていないものの、早めに立ち上げて実施して頂きたい。
		その他のサービス〔レンタカー〕（営業担当）	・7月以降の県外からの観光客の予約状況は前年に比べ好調に推移している。レンタカー各社も前年より保有台数を増やす話もあり、夏の観光シーズンは良い傾向にあると予想される。
		住宅販売会社（代表取締役）	・現在、相談を受けている建築に関する案件の現場着工が予定される。
	変わらない		百貨店（営業企画）
コンビニ（経営者）			・来客数は増えたが客単価が伸び悩んでいる。
コンビニ（経営者）			・来客数増の案件が見当たらない。
コンビニ（エリア担当）			・住宅の建設ラッシュに加え、観光客増の見込みもあるため、来客数は増えると思われている。ただ個店によっては、競合等の影響もあるためトータルでは前年並みに落ち着くと予測する。
コンビニ（エリア担当）			・沖縄の景気は現状のまま推移していくと予測している。
その他専門店〔書籍〕（店長）			・この3か月の状況からしても、今後も期待は薄い。
観光型ホテル（マーケティング担当）			・現状の予約状況から推測される客室稼働率は、前年同月実績を少し上回る程度であり、今月とほぼ同様の対前年プラス幅である。円安基調にあるため、夏場の海外旅行との方面競合は少なくなれば良いが、予約受注の伸びとしてはあまり芳しくない。
通信会社（店長）			・現在の低価格路線を継続していけば、購入の動機となり好調の波を継続していくのではと予想している。
観光名所（職員）			・予約状況がまだ良くない。ただ2か月先航空会社の予約は良いので、これからとは期待しているが、現時点では変わらないとみている。
ゴルフ場（経営者）			・ここ2、3か月、まだ低単価傾向が続くものとみており、当方としては今しばらく辛抱の時期かな、と捉えている。
やや悪くなる	その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・安くて、質が良く、ボリュームが無いと今の客は振り向いてくれない。看板メニューの原価が120~200%が当たり前になっており、中小店舗は全体の原価調整が上手くいかない。販管費を削って耐えているのが現状である。	
悪くなる	商店街（代表者）	・アベノミクスに対する期待感はあるが、その影響が表れてくるまでは数年かかるのでは、とみている。現状では財布のひもが固くて、出し渋りしている。観光客数が増えても消費単価が低く、商店街等は大変厳しい状況下に置かれている。	
企業	良くなる	○	○

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
動向 関連 (沖縄)	やや良くなる	建設業（経営者）	・引き合い件数及びモデルハウス住宅見学会の来場組数が増加している。
		輸送業（本社事業本部）	・飲料関連が繁忙期を迎えることと、通信販売関連商品が増加傾向にあり、取扱量の増加が期待できる。
		通信業（営業担当）	・7、8月から仕事をし出す、という企業が増えている。
		会計事務所（所長）	・次第に街にも人が多くみられ、活気が出てきたように感じられる。
	変わらない	窯業・土石製品製造業（経営者）	・前年並みで横ばいの見通しである。
		輸送業（代表者）	・一括交付金での公共工事が先々期待されるが、時間がかかる。新空港が開港した石垣や好調を持続している宮古では、民間工事が散見される。
		広告代理店（営業担当）	・引き続き一括交付金の受注に左右されているのが現状で、民間企業のマーケティング投資への先行きは不透明である。
やや悪くなる	食料品製造業（総務）	・更に円安が進みそうで、運賃や包材等の石油由来の材料の値上げも予想される。原価上昇の結果として利益の大幅な減少が見込まれ厳しくなる。	
悪くなる	—	—	
雇用 関連 (沖縄)	良くなる	—	—
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（総務担当）	・今までの天井かとみていたが、前年同月比及び2か月前比でも求人件数が増えているので、まだまだ良くなる可能性もある。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・県内の求人状況が右肩上がりである。
	変わらない	人材派遣会社（総務担当）	・年度末から年度初めにかけて、受注案件も堅調に推移している。参院選までは、景気も今のままの良い状態で推移するものと見込まれる。
	やや悪くなる	○	○
悪くなる	—	—	